ディマージュ A200

DiMAGE A200

J 使用説明書

目次

撮影モード（続き）

再生モード................................ 133

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

動画撮影モード 166

動画の撮影方法と再生について説明しています。必要に応じてお読みください。

セットアップモード 174

カメラの細かい設定について説明しています。必要に応じてお読みください。

パソコンへの接続 207

撮影した画像をパソコンに取り込んで保存することができます。

その他 229

一般的な注意事項や、トラブル時の処置等を記載しています。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は発火注意)

充電式リチウムイオン電池 NP-800 について

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用の充電器をご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

⚠危険

プラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
使用時・充電時温度：0℃～40℃
火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃±5℃）でのご使用をおすすめします。
保管時温度：－20℃～30℃
湿度：45%～85%

⚠警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・充電器・リモコン用電池について

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

●指定された電池以外は使わないでください。
●電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。
●表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。
●電池の充電、ショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また、金属類といっしょに保管しないでください。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

充電器のACコードは、100～120ボルト、50/60ヘルツ用です。
日本、アメリカ、カナダ、台湾で使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

⚠警告

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。

フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。

幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。

幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。

目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。

交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。

転倒や交通事故の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。

使用を続けると、火災や感電の原因となります。弊社フォトサポートセンターにご相談ください。

カメラ・充電器・リモコン用電池について（続き）

警告

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。

爆発や火災の原因となります。

充電器やACアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。

コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

万一使用中に 高熱、焦げ臭い、煙が出る などの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。

使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。

外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

⚠注意

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。
電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

レンズフードの先端を身体等に強くぶつけないでください。
ケガの原因となります。

充電器やACアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

充電器やACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、充電器やACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

充電器やACアダプターを、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、「コニカミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページで、お早めにユーザー登録（オンライン登録）を行なってください。

- このカメラには、弊社のボディ特性に適合するように設計された弊社製のアクセサリーのご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障についての補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- 電池の模造品にご注意ください。模造品には危険防止用の安全機構が備えられていない場合があり、使用はたいへん危険です。弊社純正のリチウムイオン電池をお使いください。

KONICA MINOLTAは、コニカミノルタホールディングス株式会社の商標です。
DiMAGE、SUPHEED、および、CxProcessは、コニカミノルタフォトイメージング株式会社の登録商標です。

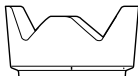
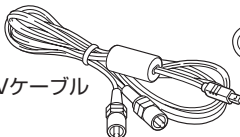
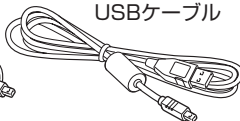
Windows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Apple、Macintosh、Mac OS、および、QuickTimeは、Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Intel®、および、Pentium®は、米国Intel Corporationの登録商標です。
コンパクトフラッシュは、米国SanDisk Corporationの登録商標です。
IBM、および、PowerPCは、米国International Business Machines Corporationの登録商標または商標です。
Adobe、および、Photoshop Albumは、米国Adobe Systems Inc.の登録商標または商標です。
その他記載の会社名や製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

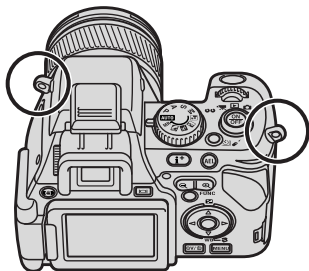
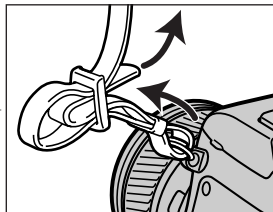
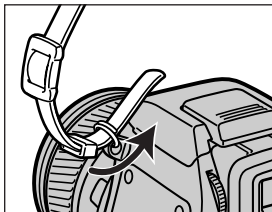
内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

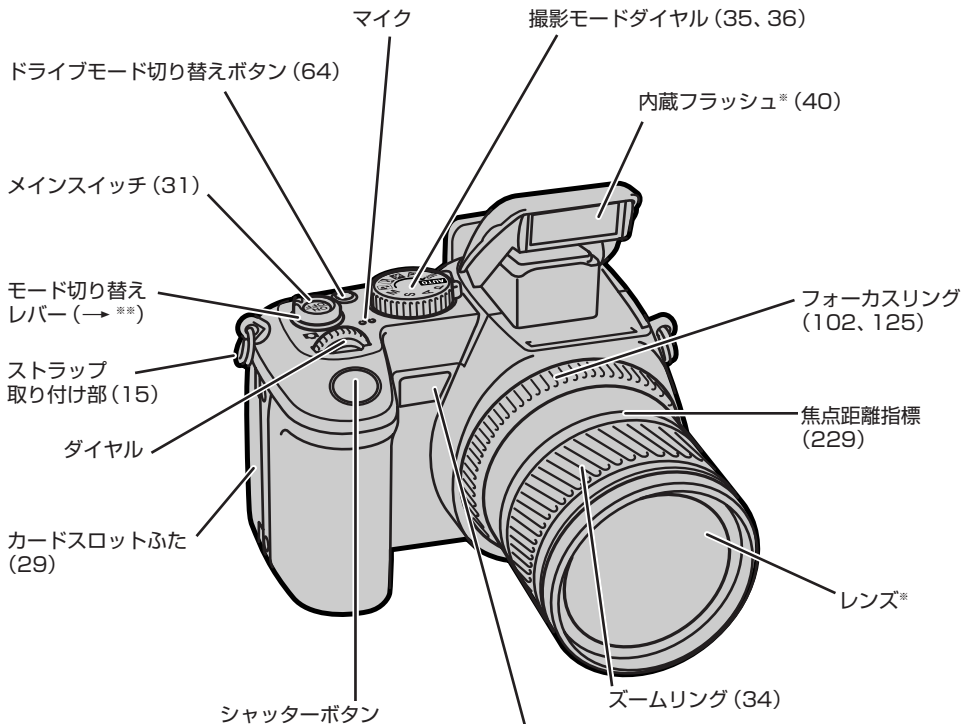
カメラ本体（DiMAGE A200）
　レンズキャップ LF-1349、
　アクセサリーシューキャップ 付き
ネックストラップ NS-DG8000
充電式リチウムイオン電池 NP-800
充電器 BC-900（100-120V ACコード付き）
レンズフード DLS-3
AVケーブル AVC-500
USBケーブル USB-3

ディマージュ ビューアー CD-ROM
　・DiMAGE Viewer
　・Windows®98/98SE用USBドライバ
　・QuickTime Player
ユーリードビデオスタジオ 8SE CD-ROM
本使用説明書
DiMAGE Viewer使用説明書
コニカミノルタからのお知らせ
アフターサービスのご案内
保証書

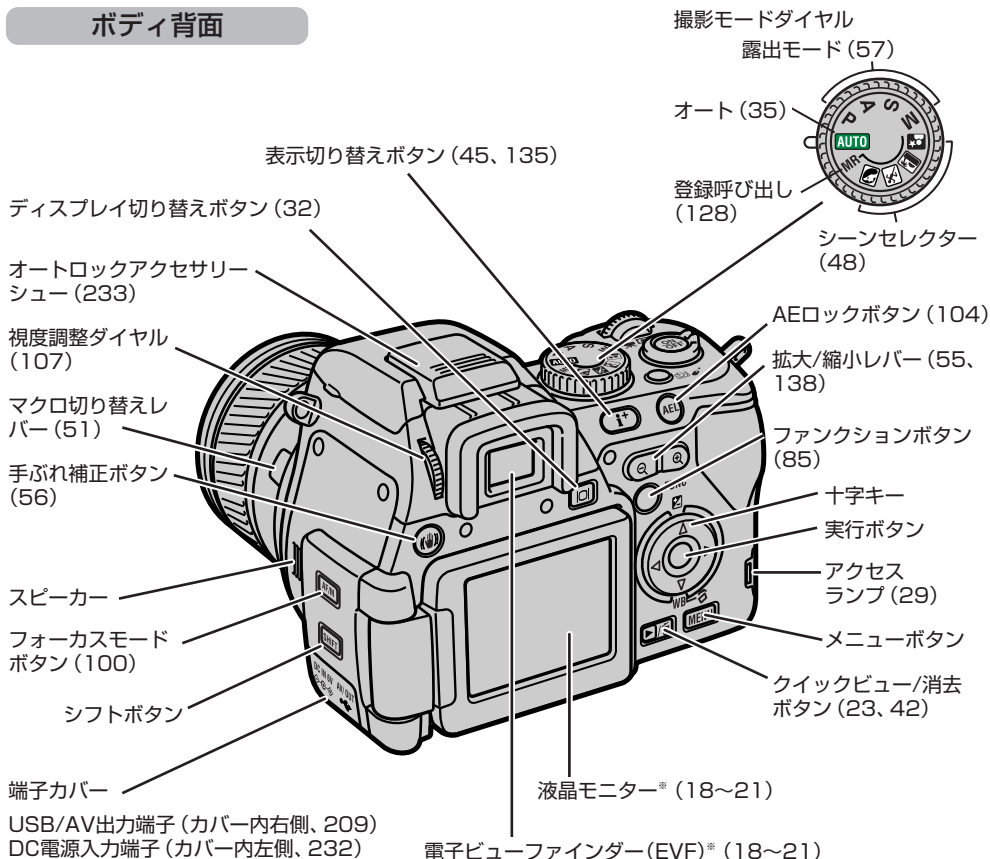
レンズフード

AVケーブル　USBケーブル

● 本製品にはコンパクトフラッシュカードは入っておりません。別にお買い求めください。

ストラップを取り付ける

ストラップ取り付け部は2ヵ所あります。ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

各部の名称

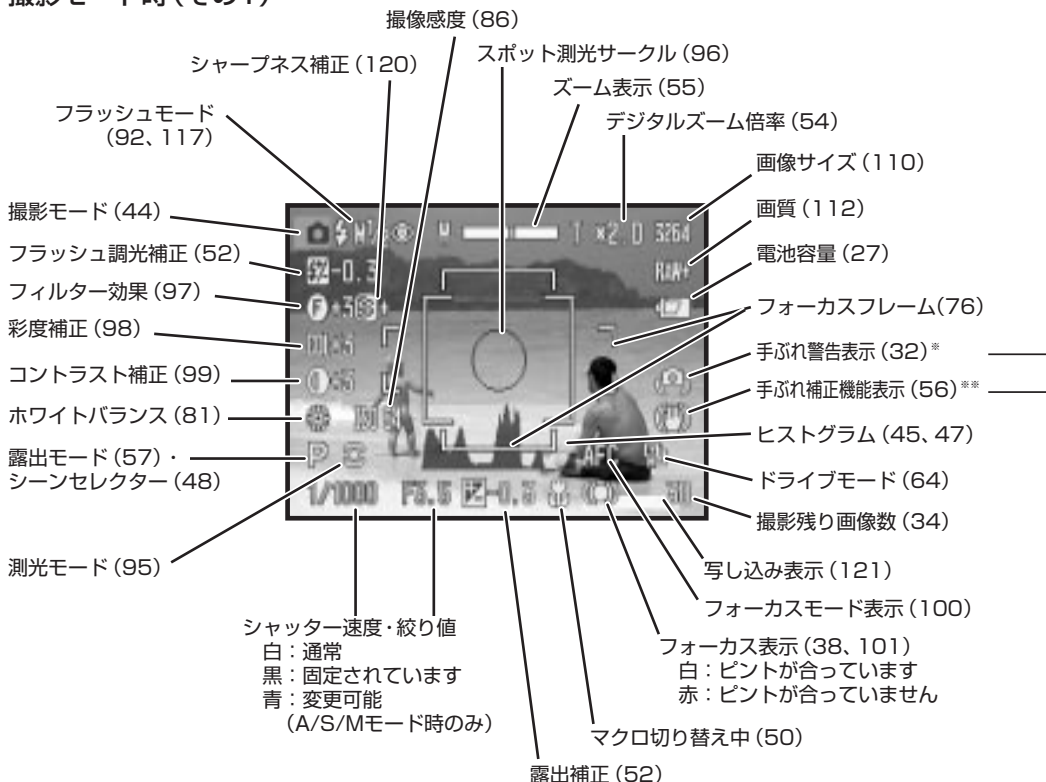
※の付いたところは、直接手で触れないでください。(　　)内は参照ページです。

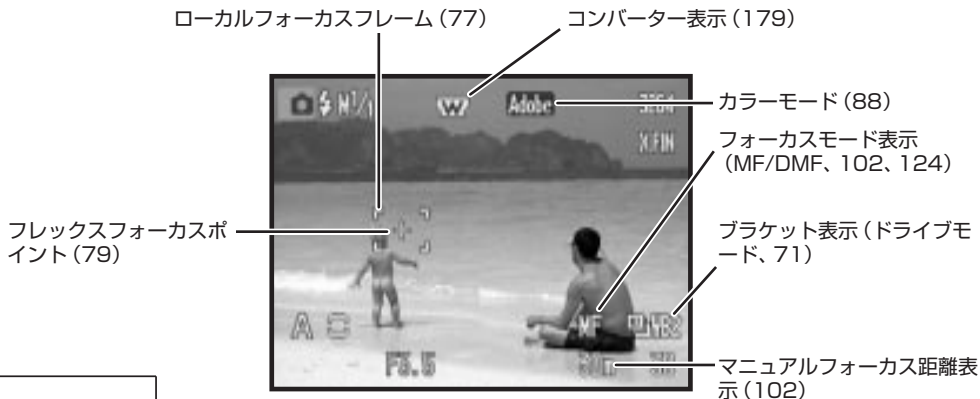
ボディ前面

※※ 撮影モード(44)
再生モード(133)
動画撮影モード(166)

ボディ背面

撮影モードダイヤル
露出モード（57）
オート（35）
登録呼び出し（128）
シーンセレクター（48）
表示切り替えボタン（45、135）
ディスプレイ切り替えボタン（32）
オートロックアクセサリーシュー（233）
視度調整ダイヤル（107）
マクロ切り替えレバー（51）
手ぶれ補正ボタン（56）
スピーカー
フォーカスモードボタン（100）
シフトボタン
端子カバー
USB/AV出力端子（カバー内右側、209）
DC電源入力端子（カバー内左側、232）
電子ビューファインダー（EVF）※（18～21）
液晶モニター※（18～21）
AEロックボタン（104）
拡大/縮小レバー（55、138）
ファンクションボタン（85）
十字キー
実行ボタン
アクセスランプ（29）
メニューボタン
クイックビュー/消去ボタン（23、42）

電子ビューファインダー（EVF）・液晶モニター

電子ビューファインダーと液晶モニターの表示は同一です。

撮影モード時（その1）

※説明に必要な表示をすべて点灯させています。

撮影モード時（その2）

※説明に必要な表示をすべて点灯させています。

※ 手ぶれ警告表示（32、56）
白：手ぶれに注意

※※ 手ぶれ補正機能表示（56）
緑：手ぶれ補正機能作動中
表示なし：手ぶれ補正機能は作動していません
赤(点滅)：カメラ温度が上昇したため手ぶれ補正機能を(一時的に)解除します

電子ビューファインダー（EVF）・液晶モニター

再生モード・1コマ再生時/動画再生時

拡大再生倍率（138）

再生モード（133）

画像サイズ（110）

画質（112）

電池容量（27）

撮影日時

フォルダ番号–ファイル番号

画像番号/全体の画像数

メール画像（163）

プロテクト（148）

プリント指定（156）

※説明に必要な表示をすべて点灯させています。

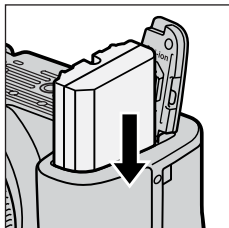
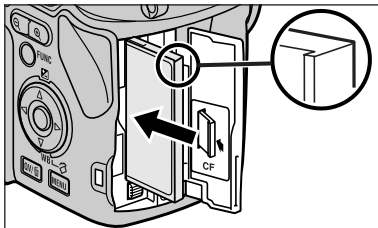
再生モード・ヒストグラム表示（136）

※説明に必要な表示をすべて点灯させています。

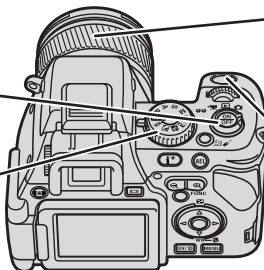
早分かり 詳しくは本文をご覧ください。

準備をする

1. 電池を充電します。→ P.25

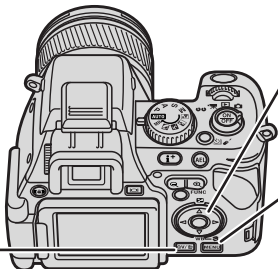
2. 電池を入れます。→ P.26

3. コンパクトフラッシュカードを入れます。→ P.29

撮影する → P.36

1. メインスイッチを押してカメラの電源を入れ、モード切り替えレバーを 📷 に合わせます。

2. 撮影モードダイヤルが、AUTO または P位置にあるのを確認します。

3. ズームリングを回して撮りたいものの大きさを決めます。

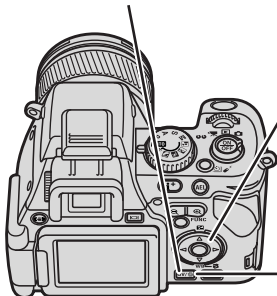
4. シャッターボタンを押します。

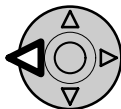
撮影した画像を確認する（クイックビュー）→ P.42

1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。

2. 十字キーの左右、または、ダイヤルで見たい画像を選びます。

3. シャッターボタンの半押し、または、メニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

画像を消去する → P.43

1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。

2. 十字キーの左右、または、ダイヤルで消去したい画像を選びます。

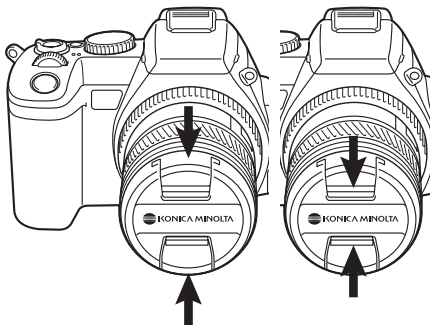
3. もう一度クイックビュー/消去ボタンを押します。

4. 右の確認画面が出た後、十字キーの左側で「はい」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押すと消去されます。

- 「いいえ」のままで実行ボタンを押すと消去されません。

5. シャッターボタンの半押し、または、メニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

基本撮影

撮影・再生の基本知識を説明しています。デジタルカメラを初めてお使いの方はもちろん、すでに使ったことのある方もこの章は一通りお読みください。

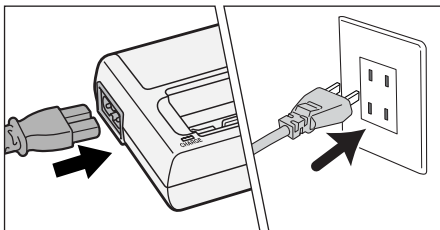
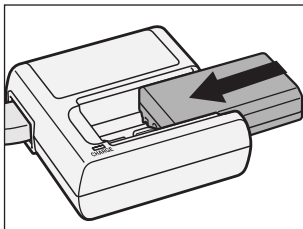
レンズキャップを取り外す

レンズキャップを取り外します。左図の2通りの取り付け・取り外し方が可能です。

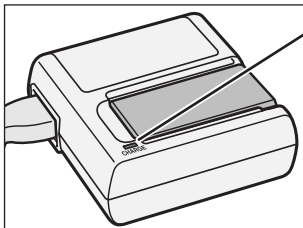
- 右側の方法は、フードを取り付けたままレンズキャップの取り付け・取り外しを行なう際に便利です。
- 撮影後は、レンズキャップをはめて保管してください。

電池を入れる

このカメラには、付属の専用電池(充電式リチウムイオン電池 NP-800)を使用します。お買い上げの際には電池は充電されておりません。付属の充電器BC-900で完全に充電してからお使いください。

● 充電器に付属のコードは日本国内用です。海外でのご使用については → P.234

電池を充電する

1. 電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

2. 電池を充電器に取り付けます。

● 接点部分を先に、リサイクルマーク(♲)の描かれた面を下にして入れてください。

● 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。

● 充電時間は約90分です。

3. 充電ランプが消えたら充電完了です。

● 電池を取り出して、コードをコンセントから抜いてください。

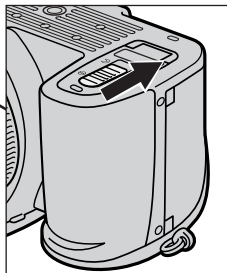
(次ページへ続く ☞)

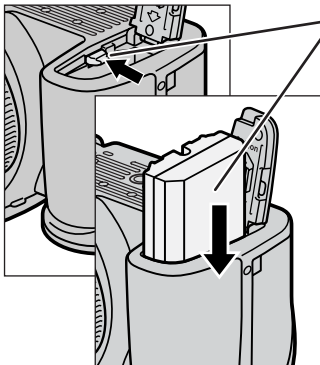
- 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。
- 電池の状態によっては、充電器に取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。
- 電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。
- 長期間使用しないときは、少なくとも半年に1回5分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。
- 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。
- 所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。

この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。不要になった電池は、お住まいの自治体またはリサイクル協力店等の規則に従って、正しくリサイクルしてください。
【リサイクル協力店お問い合わせ先】
社団法人 電池工業会
TEL：03-3434-0261
ホームページ：http://www.baj.or.jp/

電池を入れる

1. カメラの電源が切れているのを確認します。

- 電源が入っている場合は、メインスイッチを押して電源を切ってください。

2. 本体底面の電池室ロックレバーを図の方向にスライドします。

- ふたのロックが外れてふたが開きます。

3. 電池ロックレバーを図の方向に押しながら、電池室ふた内側の表示にしたがって電池を入れます。

● カチッと音がするまで押し込んでください。

4. ふたを閉めて押さえながら、電池室ロックレバーを元の位置に戻します。

電池容量の確認

メインスイッチを入れると、電池の容量が液晶モニターに表示されます。

液晶モニター表示	電池容量
白色点灯 （約4秒後に消灯）	電池容量は十分です。
白色点灯	電池容量が少なくなりました。 ●節電のため、フラッシュ充電中および発光直後は液晶モニターが消灯します。
赤色点灯	電池の交換をおすすめします。 ●この状態でもまだ撮影はできます。 ●節電のため、フラッシュ充電中および発光直後は液晶モニターが消灯します。
電池がなくなりました	新しい電池と交換してください。 シャッターは切れません。

● 長時間の撮影や再生には、別売のACアダプターや外部電源パックをおすすめします。→ P.232
● 赤色の点灯時は、UHS連続撮影（P.74）や動画撮影（P.167）、動画の編集（P.150）はできません。

電池を入れる（続き）

電池を入れると「日付/時刻を設定してください」のメッセージが出たときは

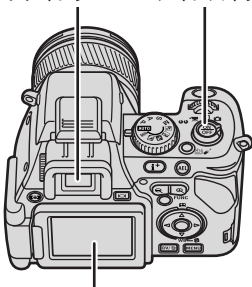
日時の設定が失われています。このメッセージが現れたら、日時を再設定してください。[はい]を選んで十字キー中央の実行ボタンを押すと、日時設定画面が現れます。詳しくは → 181ページ

電池を取り出す

1. カメラの電源が切れていることを確認します。

2. 電池室ロックレバーを押してふたを開けます。

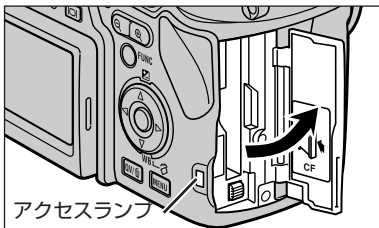
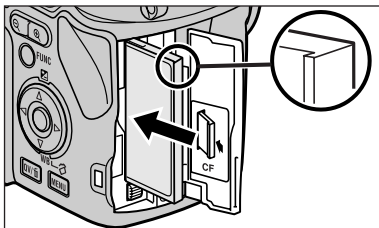
3. 電池ロックレバーを図の方向に押して、電池を取り出します。

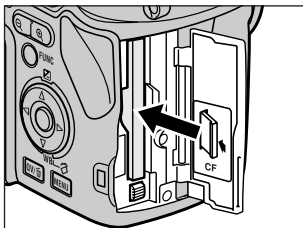
パワーセーブ・オートパワーオフ

このカメラは、初期設定で約3分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、液晶モニターやファインダー（EVF）が消灯します（パワーセーブ）。また約30分以上何も操作をしないでいると、自動的に電源が切れます（オートパワーオフ）。

- パワーセーブまでの時間（初期設定は3分）は変更することができます。→ P.195
- パワーセーブ状態から復帰するには、シャッターボタンを軽く押すなど何らかの操作を行なってください。
- オートパワーオフの状態から復帰するには、再度メインスイッチを押して電源を入れ直してください。

カードを入れる/取り出す

カードを入れる

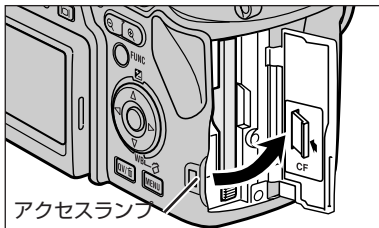
画像を記録するには、コンパクトフラッシュカード（以下CFカードまたはカード）が必要です。

1. メインスイッチを切って、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

2. CFカードの細長い突起部分を図の向きにして、スロットにカードを入れます。

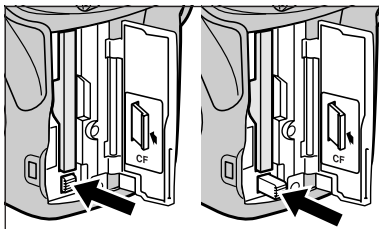
- 中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめてください。

3. カードを奥までしっかり押し込みます。

4. ふたを閉めます。

- CFカードの代わりにマイクロドライブや、SDメモリーカード＋SD-CFアダプターの使用も可能です。

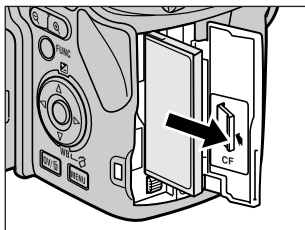
※カードを入れると液晶モニターに「このカードは使えません　フォーマットしますか？」のメッセージが現れる場合は → P.241

カードを取り出す

1. メインスイッチを切って、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

2. カード取り出しレバーを少し中に押し込みます。

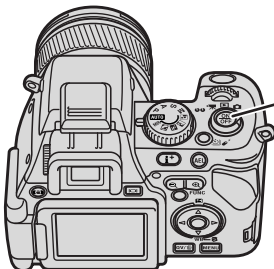
- レバーが出てきます。

3. 再度カード取り出しレバーを押し込みます。

- カードが出てきます。

4. カードを取り出し、ふたを閉めます。

- レバーが出ていてきっちり閉まらない場合は、レバーを押し込んでからふたを閉めてください。
- 長時間使用した直後のカードは熱くなっていますので、取り扱いにご注意ください。

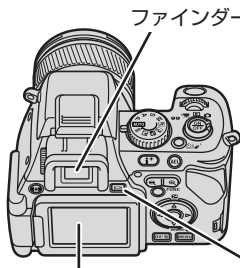
電源を入れる

電源を入れて、カメラを撮影モードにします。

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

2. モード切り替えレバーを に合わせます。

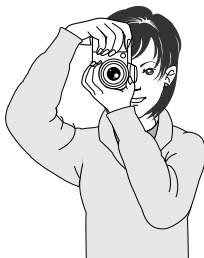
● 撮影モードになります。

● 電源を切るときは、電源を入れるとき同様 メインスイッチを押してください。

カメラを構える

撮影される画像は、カメラ背面の電子ビューファインダー（EVF、以下ファインダー）または液晶モニターに表示されます。両者の表示内容は同じです。

ファインダーと液晶モニターのどちらに表示させるかは、通常ディスプレイ切り替えボタンで切り替えます。ディスプレイ切り替えボタンを押すたびに、ファインダー または 液晶モニターが交互に点灯します。

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

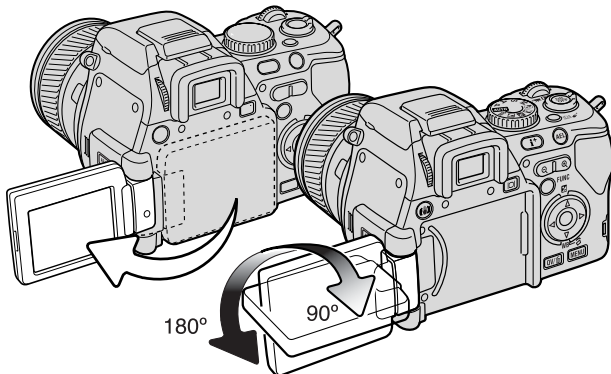
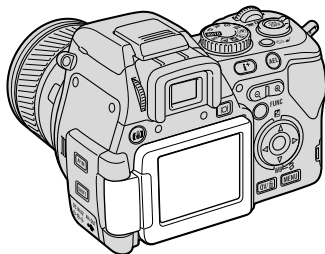
ファインダーを見て撮影する

ファインダーをのぞいて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などにひじをついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります（液晶モニター/ファインダーに白色の手ぶれ警告表示 が現れます）。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

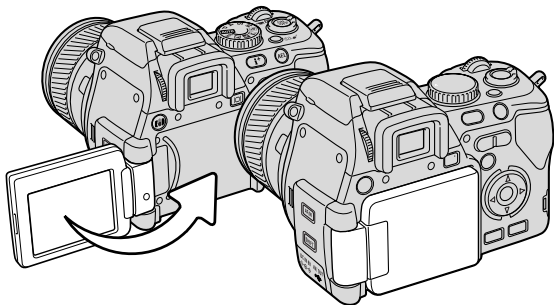
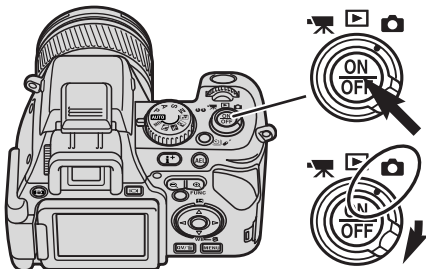
液晶モニターを見て撮影する

基本的な構え方は、ファインダーを見て撮影する場合と同じです。手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

液晶モニターは、図のように開いて使うこともできます。

図のように開いた状態から、前側へ180°回転させてカメラ背面に収納すると、通常の背面液晶モニターになります。

開いた状態から、前側へ180°、後ろ側へ90°まで自由に角度を調整することができます。高い位置や低い位置の被写体を撮影する場合に便利です。液晶モニターの回転角度に応じて、画像が上下あるいは左右に反転して表示されます。

図のように外カバー面（液晶面の裏側）にしてカメラ背面に収納すると、液晶モニターを傷や汚れ等から保護できます。
この場合、画像の表示は液晶モニターからファインダーに自動的に切り替わります。

- この状態のときは、ディスプレイ切り替えボタンは無効になります（ボタンを押しても画像の表示はファインダーのままです）。

撮影できる画像数

CFカードを入れ、電源を入れてモード切り替えレバーを 📷 に合わせると、液晶モニターに、撮影残り画像数(現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか)が表示されます。

1枚のCFカードに記録できる画像数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。例として128MBのCFカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約31枚です(画像サイズ：3264×2448、画質：ファイン)。

● 画像サイズ･画質を変更した場合、また動画撮影した場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。

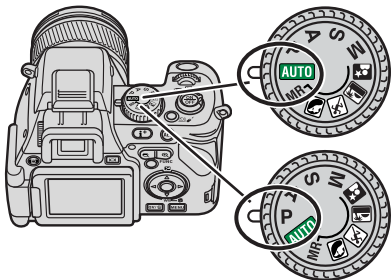
※詳細は → P.114

●「カードに空きがありません」というメッセージと赤色の0000が表示されときは、カードがいっぱいです。カードを交換するか、カード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できることもあります。

● ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。

● 残り画像数が9999枚を超える場合は、9999と表示されます。9999枚以下になるとカウントが始まります。

● 液晶モニターの残り画像数が黄色になったときは、カメラの内蔵メモリが一時的にいっぱいになったことを表します。白色に変わるのを待ってから撮影を続けてください。

AUTO(オート)撮影とPモード撮影について

撮影モードダイヤルで、基本的な撮影モードを選ぶことができます。カメラを基本の状態で使いたい場合、AUTO位置 または P位置をおすすめします。

AUTO(オート)撮影モード

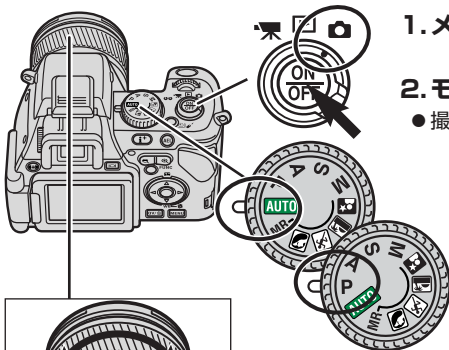
このカメラの最も基本的なモードで、カメラのほとんどすべての機能が一時的に自動設定になります。カメラまかせで気軽に撮影したいときや、他のモードでの設定変更後に一時的に自動設定に戻す場合に便利です。

- 自動設定された状態に新たな設定を加えることは可能ですが、一度他のモードに変えると、新たに加えた設定は解除されます（メインスイッチ切/入では保持されます）。
- AUTO撮影モードでは、メニューを含めほとんどすべての機能が自動で設定されますが、自動設定にならない機能は、以下の通りです。
  - ・マクロ撮影
  - ・モニターとファインダー（EVF）に関する設定（切り替え、明るさ）
  - ・視度調整
  - ・音の設定（操作音、AF音、シャッター音、音量）

P(プログラム)モード撮影

シャッター速度と絞り値が自動で設定されますので、露出を気にすることなく撮影に専念できます。AUTO（オート）撮影モードと異なり、カメラの各種設定が可能で、一度行なった設定は原則として再度変更するまで保持されます。

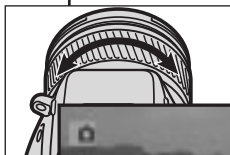
撮影する

ここでは、すべての設定がカメラまかせのフルオート（全自動）撮影について説明しています。

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

2. モード切り替えレバーを 📷 に合わせます。

● 撮影モードになります。

3. 撮影モードダイヤルを AUTO または P に合わせます。

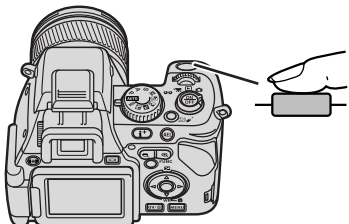
※AUTOとPについて → 前ページ

4. 液晶モニターまたはファインダーをのぞき、ズームリングを回して構図を決めます。

● ［ ］の中のものにピントが合います。※ピントが合わないときは → P.38

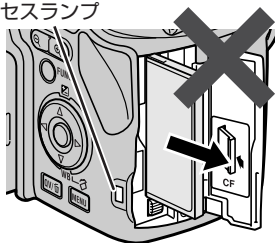
● フラッシュを発光させたいときは、内蔵フラッシュを上げてください。→ P.40

● ズームリング上の焦点距離は、35㎜フィルム換算時に相当する値です。※換算表は → P.229

5. シャッターボタンを半押しします。

● シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

●半押しすると、液晶モニター／ファインダー内に、さまざまな表示が現れます。

5. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●撮影された画像が自動的にCFカードに記録（保存）されます。書き込み中はアクセスランプが点滅しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

●カメラから約50㎝以上離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、マクロ撮影を行なってください。→ P.50

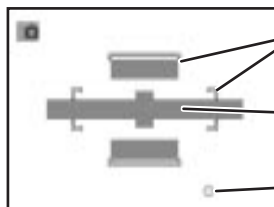
●画面の表示の有無を切り替えることもできます。→ P.45

液晶モニター/ファインダー内に、白色の が出たときは、シャッター速度が遅くなっているので手ぶれの恐れがあります。フラッシュ撮影（→ P.40）または三脚の使用をおすすめします。

※手ぶれ補正について → P.56

●撮影後は、メインスイッチを押して電源を切ってください。

●レンズキャップをはめて保管してください。

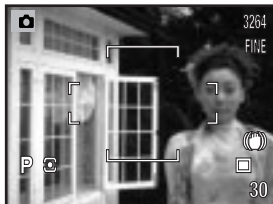
ピント合わせ

ワイドフォーカスフレーム［ ］の中には、ピントを合わせるためのセンサーが複数個あります。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている部分のセンサーが赤く点灯して、どこにピントが合っているかをお知らせします。

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、液晶モニターまたはファインダー内のフォーカス表示 ○ がピントの状態をお知らせします。

フォーカス表示	状況
○ 白色	ピントが合って固定されています。撮影できます。
● 赤色	ピントが合いません。以下を確認してください。撮影はできます。 **撮りたいものに近づき過ぎていませんか？** カメラから約50㎝以上離れたものにピントが合います。それより近くの物を撮影するときは、マクロ撮影を行なってください。→ P.50 **被写体がワイドフォーカスフレーム［ ］から外れていませんか？** ［ ］から外れたりするとピントが合いません。 **被写体が動いていませんか？** 動いている物を撮影する時は、コンティニュアスAFをおすすめします。→ P.101 **オートフォーカスの苦手な被写体ではありませんか？** オートフォーカスの苦手な被写体（→ P.40）だと、オートフォーカスではピント合わせができません。フォーカスロック撮影（→ P.39）またはマニュアルフォーカス撮影（→ P.102）を行なってください。

- ● が赤色の時に撮影すると、フラッシュが発光しない場合は4㍍～無限位置に、発光する場合は3.0～3.8㍍の間にピントが合います。

被写体が[ ]に入らないときは（フォーカスロック撮影）

ピントを合わせたいものが[ ]に入らないときに、そのまま撮影すると、[ ]と重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに[ ]を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● ピントが合うと画面右下に白い ○ が点灯し、ピント合わせに使われたセンサーが赤く表示されます。

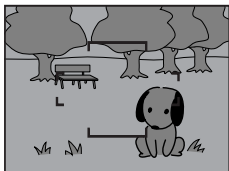
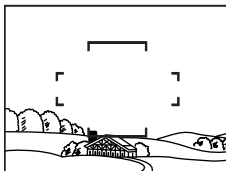
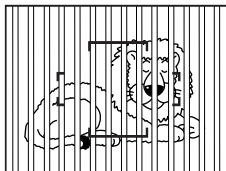
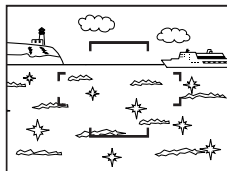
2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

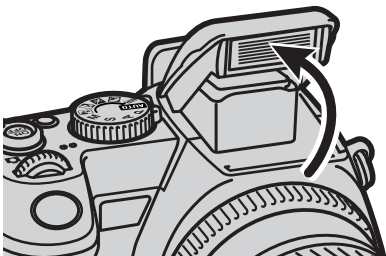
3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● ピントと同時に露出も固定されます（ワンショットAFで多分割測光時のみ）。画面左下のシャッター速度と絞り値が黒く反転してお知らせします。

● 他のピント合わせの方法として、11個のローカルフォーカスフレームから任意の1つを選ぶ「11点ローカルフォーカスエリア」（→ P.77）、画面内で自由にピント合わせの位置が決められる「フレックスフォーカスポイント機能」（→ P.79）があります。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは、被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。ピントが合わない場合は、液晶モニターに赤色の ● が点灯します（→ P.38）。このような場合は、フォーカスロック撮影（→ P.39）またはマニュアルフォーカス撮影（→ P.102）を行なってください。

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

[ ] の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

太陽のように
明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

フラッシュ撮影

フラッシュを発光させるときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。上げていると必ず発光します。

- ウルトラハイスピード（UHS）連続撮影時など、フラッシュを上げていても発光しない場合があります。
- フラッシュは上まで（止まるところまで）上げてください。途中で止めると部分的に露出アンダーの画像になります。

フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示

フラッシュ表示	状況
白色	フラッシュの充電が完了しました。撮影できます。
赤色	フラッシュが充電中です。白色になってから撮影してください。
青色（撮影後）	フラッシュ光が被写体に届きました。 撮影後に青い が現れなかった場合は、フラッシュ光が被写体に届いていません。フラッシュ光の届く距離を確認してください。

● このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが2回続けて発光します。

フラッシュ光の届く距離

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.8メートル、最望遠側では3.0メートルを目安に撮影してください（撮像感度AUTO時）。

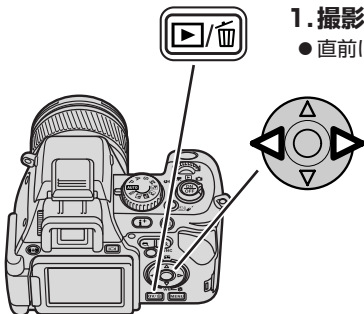
広角側：3.8メートル
望遠側：3.0メートル

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

● 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離が変わります。→ P.87

撮影した画像を確認する/消去する（クイックビュー）

画像を確認する（クイックビュー）

撮影した画像を簡単に見ることができます。

1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。

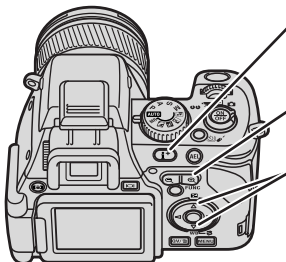
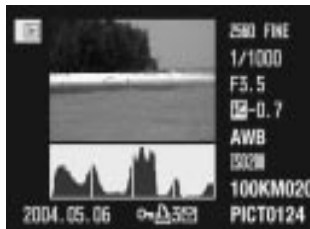
- 直前に撮影された画像が、ファインダーまたは液晶モニターに現れます。

2. 十字キーの左右、または、ダイヤルで見たい画像を選びます。

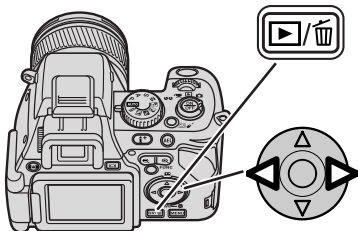
3. シャッターボタンを半押しすると撮影モードに戻ります。

- メニューボタンでも戻ります。

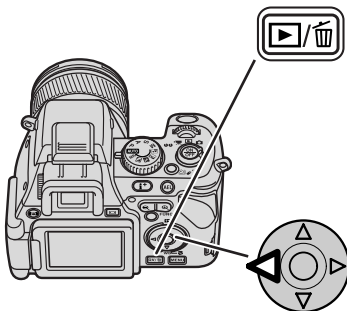
※再生モードに入るときは → P.133

クイックビューでは再生モードと同様の操作が可能です（再生モードメニューを除く）。

- 表示切り替えボタンを押すと、表示やデータの有無を切り替えることができます。→ P.135
- 拡大/縮小レバーを押すと、再生画像の拡大・縮小ができます。→ P.138
- 十字キーの上側を押すとヒストグラム表示に、下側を押すと画像を回転させることができます。→ P.136、137
- 動画の再生も可能です。→ P.169

ヒストグラム表示

画像を手早く消去する

クイックビューの状態で、画像を簡単に消去することができます。

1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。

- 直前に撮影された画像がファインダーまたは液晶モニターに現れます。

2. 十字キーの左右、または、ダイヤルで消去したい画像を選びます。

3. もう一度クイックビュー/消去ボタンを押します。

- 右の画面が現れます。
- 消去しない場合は、この状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

4. 十字キーの左側で「はい」を選びます。

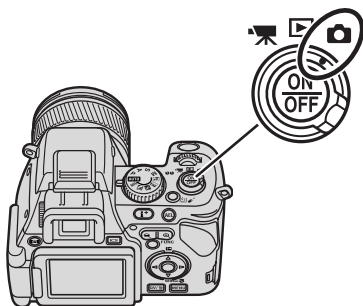
5. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 選んだ画像が消去されます。
- この後、**2.**に戻って続けて画像を消去することもできます。

6. メニューボタンを押して（またはシャッターボタンを半押しして）通常の撮影モードに戻ります。

- 消去する際、「はい」を先に選択した状態にすることもできます。→ P.197

※複数の画像を一度に消去するときは → P.144

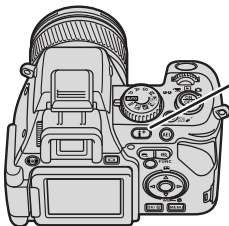
撮影モード

この章では、撮影モードでの各種設定について説明しています。モード切り替えレバーは 📷 位置（撮影モード）に合わせてください。

撮影モード中は、ファインダー/液晶モニター内の左上に 📷 が現れます。

画面表示の切り替え（📷撮影モード時）

画面内の表示の切り替え

画面内の表示やヒストグラムの有無を切り替えることができます。

※個々の表示内容について → P.18、19

表示切り替えボタンを押します。

● ボタンを押すごとに画面が以下の順序で切り替わります。

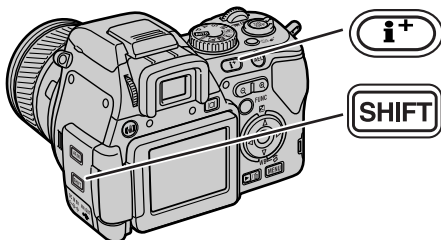
撮影データあり → 撮影データあり ＋ヒストグラム（→ P.47） → フォーカスフレームのみ → 表示なし → 撮影データあり

● 「フォーカスフレームのみ」でも、ピントが合った時のセンサーなど、一部の表示は現れます。
● この使用説明書では、撮影データありの状態（左端）で説明しています。
● これらの表示に、方眼や目盛り線を加えることもできます。→ 次ページ
● このカメラでは、一定以下の暗さになるとモニターの感度が自動的にアップして、暗いところでも液晶モニターを見やすくします（モニター自動感度アップ機能）。撮影される画像には影響ありません。この機能を解除することもできます。→ P.130

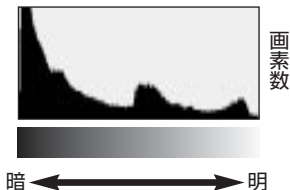
フォーカシングスクリーン（画面の背景表示）の切り替え

画面内に、方眼や目盛り線を表示させせることができます。前ページの画面内の表示と自由に組み合わせることが可能です。

方眼　：構図を決める際の水平線や垂直線を知ることができます。

目盛り線：構図を決める際に大きさのバランスを取ることができます。

本体側面のシフトボタンを押したまま、表示切り替えボタンを押します。

- ボタンを押すごとに画面が以下の順序で切り替わります。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。このカメラのヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）、縦軸が画素数を表しています。露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。下はその一例です。

※画素について → P.110

＋側に
露出補正を
かける

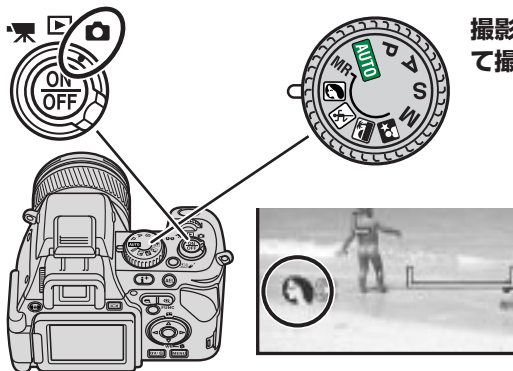
＋側に露出補正をかけると画面全体が明るくなるので、ヒストグラム全体が明るい方（右側）にずれます。－側だと逆（左側）にずれます。

ヒストグラムの左右両端には、黒または白100%のデータ*しか存在しません。よって後でパソコンに取り込んで補正しても、つぶれた部分の再現は不可能だということになります。撮影前にヒストグラムを確認することにより、このような画像の状態を前もって知ることができます。

*正確にはカラー画像の場合RGBで表されるので、白はR255、G255、B255、黒はR0、G0、B0

- 撮影前のヒストグラムは、その時に液晶モニター/ファインダーに表示されている画像（ライブビュー画像）のヒストグラムを表します。よって、ライブビュー画像と実際に撮影される画像の明るさが異なる場合（フラッシュ発光時、撮影モードメニューでMモード時のモニターを「常に適正」にしている時（P.131）、自動感度アップ機能により暗中でモニター感度が自動的にアップされている時（P.130））は、撮影後にヒストグラムを確認してください。→ P.136
- 被写体の状況や画像処理により、撮影前と後のヒストグラムに若干の差が生じることがあります。

シーンセレクター

撮影したい場面を絵表示で選ぶだけで、その場面に合った写真を撮ることができます。

撮影モード位置で、撮影モードダイヤルを回して撮影したい場面の絵表示を選びます。

- ポートレート
- スポーツ
- 夕景
- 夜景ポートレート・夜景

● 撮影シーンセレクターでは、選んだ撮影場面に応じてカメラの設定が自動的に行われます。したがって、測光モードなど機能によっては、撮影者による変更ができません(シーンによってその内容は異なります)。

ポートレート

人物を引き立たせるようなやわらかいぼけ味を表現するとともに、人の肌がなめらかに写るようなデジタル処理を行ないます。

● 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

● 逆光のときはフラッシュの使用をおすすめします。フラッシュを使わない場合は、画面に余分な光が写り込むのを防ぐため、フードの使用をおすすめします。→ P.106

スポーツ

速く動いているものでもぶれにくいよう、高速寄りのシャッター速度で撮影を行ないます。

- フォーカスモードはAF-C（コンティニュアスAF）に設定することをおすすめします（→ P.100）。シャッターボタンを押している間ピントが調整され続けます。
- フラッシュ光が届かない場合はフラッシュを使用しないでください（内蔵フラッシュを下げてください）。※フラッシュ光の届く距離 → P.41

夕景

夕焼けの赤さを美しく再現することができます。

- レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。やむを得ず置く場合は、レンズキャップを取り付けるか、絞りを絞り気味に（絞り値を大きく）してください。

夜景ポートレート・夜景

明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出すことにより、美しい夜景を描写することができます。

夜景ポートレート撮影（人物＋夜景）
フラッシュを上げて発光させてください。

夜景撮影（夜景のみ）
フラッシュは下げたまま発光させずに撮影してください。

- シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用してください。手ぶれ補正機能も効果があります（→ P .56）。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してください。

マクロ撮影

カメラ内のCCD*の位置から約50㎝以内の被写体を撮影する場合に使います。マクロ撮影には、レンズの望遠側を使う「テレマクロ撮影」と、広角側を使う「ワイドマクロ撮影」の2通りがあります。
テレマクロ撮影では被写体を中心とした一般的なマクロ撮影、ワイドマクロ撮影では被写体と背景の両方を取り入れたマクロ撮影を行なうことができます。

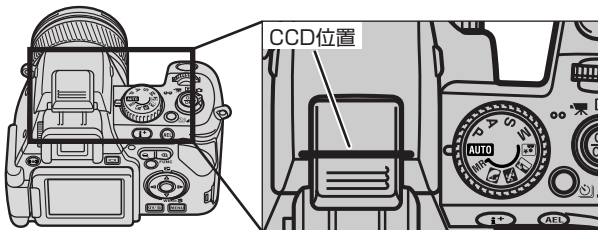
テレマクロ撮影

ワイドマクロ撮影

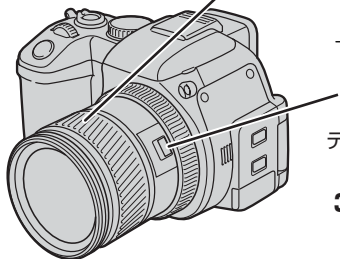
撮影可能範囲

テレマクロ時　：CCD面より 約25㎝～60㎝
（レンズ先端より 約13㎝～50㎝）

ワイドマクロ時：CCD面より 約30㎝～60㎝
（レンズ先端より 約21㎝～51㎝）

● 上記の範囲外の被写体にはピントが合いません。

*CCD＝カメラ内で被写体の映像を受け取る部分、つまり通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たす部分。

1. ズームリングを、テレマクロの場合は最望遠側まで、ワイドマクロの場合は最広角側まで回します。

● ズームリング上の▼マークとマクロ切り替えレバー横の■マークが合います。

テレマクロ　ワイドマクロ

2. マクロ切り替えレバーを矢印の方向にスライドさせます。

3. テレマクロの場合、ズームリングを回してズームの微調整を行ないます。

● ズームリング上の ▼━ がマクロ撮影範囲です。この範囲内でズームリングを回して微調整ができます。

● ワイドマクロではズームの微調整はできません。

● マクロ撮影になっているときには、液晶モニター/ファインダー下部に絵記号が表示されます。

● 内蔵フラッシュは、レンズにさえぎられて画面下部まで光が届かないのでおすすめできません。フラッシュ撮影が必要な場合にはマクロフラッシュ、または、ディフューザーの使用をおすすめします。→ P.234

露出補正・調光補正

【露出補正】
画面全体を明るくしたり暗くしたりします。−2.0〜+2.0の範囲で1/3段ごとに設定できます。
+側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。

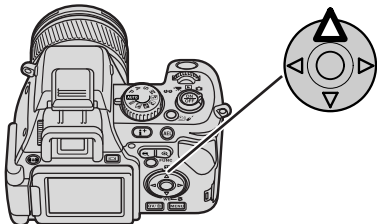
露出補正+側

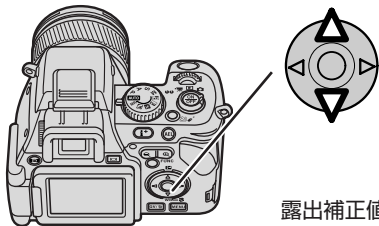
露出補正−側

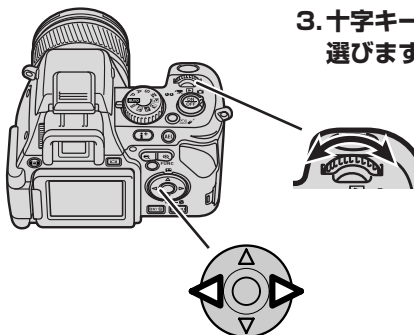
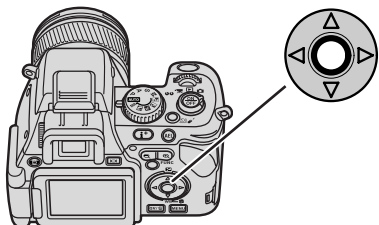
−側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

【調光補正】
フラッシュ撮影の際、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。露出補正と同じく、−2.0〜+2.0の範囲で1/3段ごとに選択することができます。

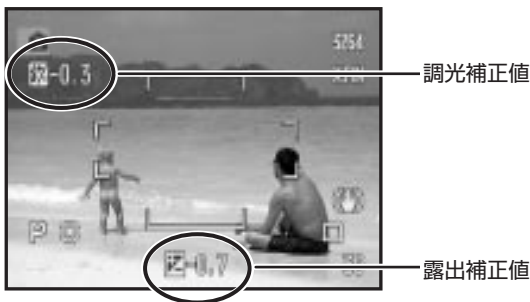
露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化します。
一方調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（−側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（+側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

1. 撮影モードで十字キーの上キーを押します。

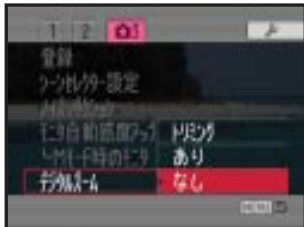
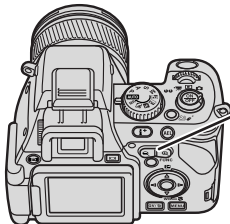
● 補正値の設定画面が表示されます。

2. 十字キーの上下で補正する側を選びます。

● 選ばれた側の背景がピンク色になります。

3. 十字キーの左右で、または、ダイヤルを回して希望の数値を選びます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 補正値が設定され、通常の撮影モードの画面に戻ります。
● 画面に設定した値が表示されます。

（次ページへ続く ☞）

- 露出補正と調光補正は同時に設定できます。
- 露出補正値を 0 以外に設定すると、設定後、液晶モニター/ファインダーに と設定値が表示されます。
- 調光補正値を 0 以外に設定すると、設定後、液晶モニター/ファインダーに と設定値が表示されます。

- 撮影前後に、ヒストグラム表示で露出の状態を確認することもできます。→ P.45、136
- 露出補正は、表示されているシャッター速度と絞り値の変化だけでなく、より細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によっても行われています。したがって、露出補正を設定しても表示されているシャッター速度と絞り値は変わらないことがありますが、正確に露出補正は行われています。
- 特に内蔵フラッシュで調光補正を行なう場合、フラッシュの光量が限られているため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、調光補正の効果が出ないことがあります。

デジタルズーム

デジタルズームの機能やデジタルズーム後の画像サイズについては、撮影メニュー画面の [**3**] タブの [デジタルズーム] の設定によって異なります（左図、→ P.132）。
[あり] に設定すると、最大4倍までデジタルズームで拡大表示されます。また画素補間が行われますので、デジタルズーム後でも**画像サイズは変わりません**。初期設定は [あり] です。
[トリミング] に設定した場合は、デジタルズームの拡大倍率は**2倍のみ**です。また元の画像サイズに応じて画像サイズが変更されます。

撮影モード位置で、拡大/縮小レバーの＋側を押します。

●デジタルズームの設定を［あり］に設定しているとき(→前ページ参照)は、撮影画像が1段階 拡大表示されます。拡大/縮小レバーの＋側を押すごとに撮影画像が拡大されます(最大4倍まで)。押し続けると連続して拡大されます。

● 縮小するときは、拡大/縮小レバーの－側を押します。押すごとに撮影画像が縮小されます。押し続けると連続して縮小されます。

● デジタルズームの設定を［トリミング］に設定しているとき(→前ページ参照)は、拡大/縮小レバーの＋側を押すと撮影画像が2倍に拡大されます(倍率は2倍のみ)。拡大/縮小レバーの－側を押すと、等倍表示に戻ります。

● 撮影後もデジタルズームのままです。戻るときは拡大/縮小レバーを押して等倍に戻してください。

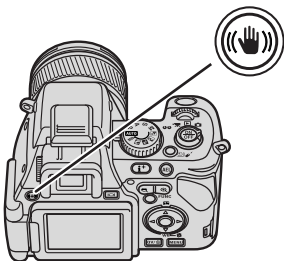
● 画面右上にデジタルズームの倍率が黄色く表示されます。

● デジタルズーム時には、ローカルフォーカスフレーム(→ P.77)は中央で固定され、枠も少し大きくなります。フレックスフォーカスポイント(→ P.79)のポインタ(✣)も画面中央で固定されます。またUHS連続撮影時、RAW画質設定時はデジタルズームできません。

● デジタルズーム［トリミング］設定時の、デジタルズーム後の画像サイズは以下の通りです。

元の画像サイズ	デジタルズーム後の画像サイズ
3264×2448	1600×1200
3264×2176 3:2	1600×1064
2560×1920	1600×1200
2080×1560	
1600×1200	
640×480	640×480

手ぶれ補正

カメラを手持ちで撮影する場合は、この機能により手ぶれを減少させることができます。フラッシュを発光させずに撮影するときや、望遠側で撮影するときに特に威力を発揮します。

1. 液晶モニター/ファインダーに緑色の手ぶれ補正機能表示 が現れている(=手ぶれ補正機能が作動している)ことを確認します。

- 現れていない場合は手ぶれ補正ボタンを押してください。もう一度押すと手ぶれ補正機能表示が消えて手ぶれ補正は解除されます。

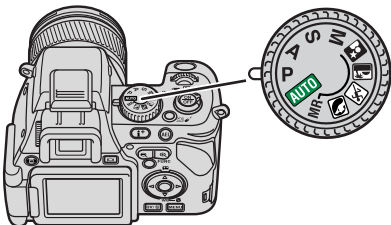
2. シャッターボタンを半押します。

- 半押しすると、手ぶれ補正の効果が画面で確認できます。少なくとも1秒間は半押ししたまま、画像が安定するのを確認してください。

3. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

- 手ぶれ補正機能は、シャッターボタン半押し中と露光中のみ作動します。半押し中の画像の動きが不自然に感じられる場合は、露光中のみの作動に変更することもできます。→ P.196
- 手ぶれ補正機能を働かせてもなお手ぶれの恐れがある場合は、手ぶれ補正機能表示 の上に白色の手ぶれ警告表示 が現れます。その場合は三脚等にカメラを固定してください。なお、三脚使用時には、手ぶれ補正ボタンを押して手ぶれ補正機能を解除されることをおすすめします。
- 被写体を追いながら撮影する場合、夜景撮影などシャッター速度が遅いときには、手ぶれ補正の効果が現れにくいことがあります。
- 高温下で長時間撮影された場合、カメラの温度が上がり、手ぶれ補正機能が自動的に解除されることがあります(解除前に赤色の が4秒間点滅してお知らせします)。カメラの温度が下がってから撮影を再開してください。

露出モード

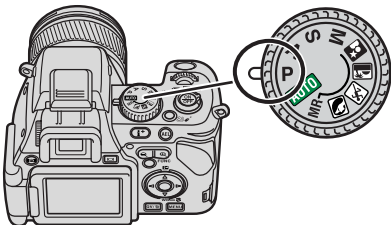
同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。撮影モードダイヤルで設定します。

Pモード
シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。Pモードでダイヤルを回すと、プログラムシフトになります。

Aモード
希望の絞り値を決めることができます。→ P.59

Sモード
希望のシャッター速度を決めることができます。→ P.60

Mモード
希望のシャッター速度と絞り値を決めることができます。
→ P.62

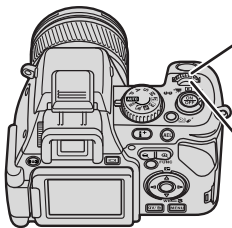
Pモード（プログラムモード）

シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。

撮影モードダイヤルを P に合わせます。

（次ページへ続く ☞）

プログラムシフト

Pモードのままで、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることができます（PA／PS シフト）。

1. Pモードの状態で、シャッターボタンを半押しして、測光値（シャッター速度と絞り値）を表示させます。

2. 測光値が表示されている状態で、ダイヤルを回すとPSシフトになります。

● 希望のシャッター速度を選ぶことができます。絞り値は自動的に決まります。

側面のシフトボタンを押したままダイヤルを回すとPAシフトになります。

● 希望の絞り値を選ぶことができます。シャッター速度は自動的に決まります。

● 数秒経過して測光値が消えると、設定した値も消えます。

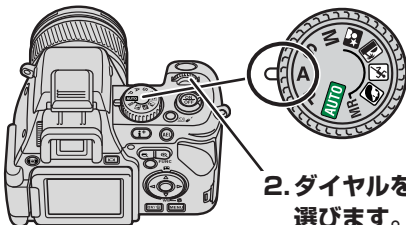
● 測光値が表示されていれば、シャッターボタンの半押しを続ける必要はありません。

● フラッシュが発光する場合は、プログラムシフトにはなりません（ダイヤルを回しても何も変わりません）。プログラムシフト中に内蔵フラッシュを上げると、プログラムシフトはキャンセルされます。

Aモード（絞り優先モード）

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとはレンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。
絞り値を2.8などに小さくする（開ける）と、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。逆に11などに大きくする（絞り込む）と、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。

絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

1. 撮影モードダイヤルを A に合わせます。

2. ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

- 絞り値は液晶モニター/ファインダー内に青色で表示されます。以下の範囲から選ぶことができます。
  広角側：2.8～11
  望遠側：3.5～11

※数値は1/3段刻みで変わります。

（次ページへ続く ☞）

Aモード(絞り優先モード)(続き)

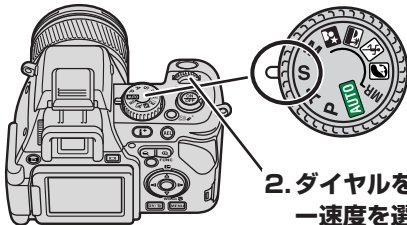
● シャッターボタンを半押ししたときに、液晶モニター/ファインダーのシャッター速度が赤く点灯した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバー または 露出アンダーの写真になります。通常に表示される範囲内で絞り値を設定してください。

● フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする(絞りを絞り込む)と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして(開放側で)撮影することをおすすめします。
● 絞り値を大きくする(絞りを絞り込む)とレンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります。三脚を使って撮影されることをおすすめします。
● 撮影状況によっては、絞り値を変えても、それに連動してシャッター速度が変化しないことがあります。これは、表示されている以上に細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整(オート設定時のみ)によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

Sモード(シャッター速度優先モード)

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります(写真左)。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります(写真右)。

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

1. 撮影モードダイヤルを S に合わせます。

2. ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

- シャッター速度は液晶モニター/ファインダー内に青色で表示されます。30秒～1/1600秒※の範囲から選ぶことができます。

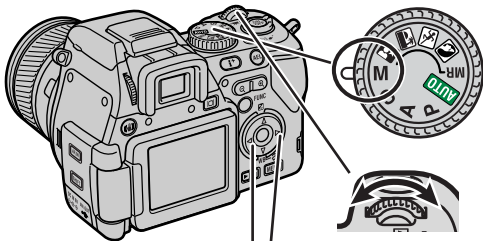
  ※ 数値は1/3段刻みで変わります。

- 表示部に 2"、4" など「"」の文字が出ている場合は、それぞれ 2秒、4秒を表わします。

- シャッターボタンを半押ししたときに液晶モニター/ファインダーの絞り値が赤く点灯した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。通常に表示される範囲内でシャッター速度を設定してください。

- フラッシュを発光させる場合、シャッター速度が高速になるほど、実際の露光に使われるフラッシュ光量は減少し、露出アンダーになることがあります。内蔵フラッシュで1/1000秒、別売りのプログラムフラッシュだと1/250秒かそれより低速側での使用をおすすめします。
- Sモードでは、白色の手ぶれ警告表示 は現れません。
- バルブ撮影（長時間露光）は Mモードで行なってください。→ P.62、105
- 被写体の状況によっては、シャッター速度を変えても、それに連動して絞り値が変化しないことがあります。これは撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

Mモード(マニュアルモード)

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1. 撮影モードダイヤルをMに合わせます。

2. ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

- シャッター速度は液晶モニター/ファインダー内に青色で表示されます。15秒〜1/1600秒※の範囲から選ぶことができます。
  ※ 数値は撮像感度オート時です（その他はP.87参照）。
- 30秒の次にはBulb（バルブ撮影）が表示されます。
  → P.105

3. 十字キーの左右で（または、シフトボタンを押したままダイヤルを回して）、希望の絞り値を選びます。

- 絞り値は液晶モニター/ファインダー内に青色で表示されます。以下の範囲から選ぶことができます。
  広角側：2.8〜11
  望遠側：3.5〜11
  ※数値は1/3段刻みで変わります。

●Mモードでフラッシュを発光させない場合は、設定されたシャッター速度と絞り値に応じて画面の明るさが変化します。そのまま撮影すると写真が大幅に露出オーバー/アンダーになる場合は、シャッターボタンを半押しすると液晶モニター/ファインダー内のシャッター速度と絞り値の両方が赤く点灯してお知らせします。

●フラッシュを発光させる場合は、被写体が確認できるよう自動的に画面が明るくなります。またフラッシュを発光させない場合でも、画面の明るさを自動的に調整して被写体が確認できるようにすることもできます。→ P.131

●フラッシュを発光させる場合、シャッター速度が高速になるほど、実際の露光に使われるフラッシュ光量は減少し、露出アンダーになることがあります。内蔵フラッシュで1/1000秒、別売りのプログラムフラッシュだと1/250秒かそれより低速側での使用をおすすめします。

●Mモードでは、撮像感度(→ P.86)をオートにしていると、常にISO 100相当に固定されます。

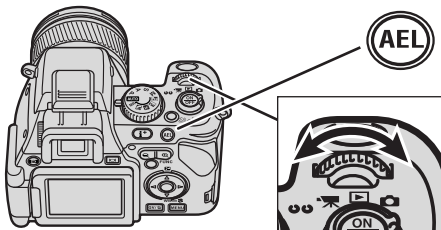
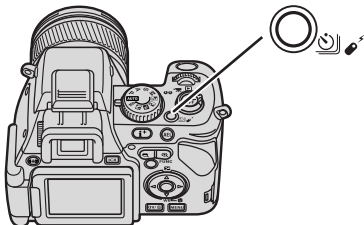
●Mモードでは、白色の手ぶれ警告表示 は現れません。

●Mモードでの露出補正(→ P.52)はできません。

マニュアルシフト

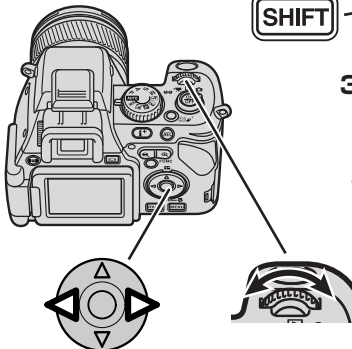
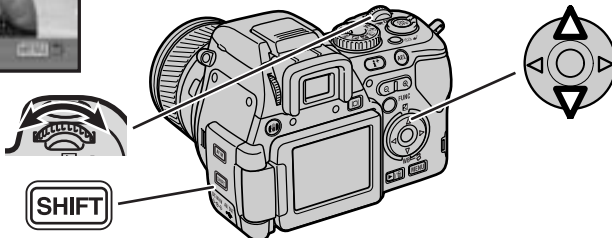
Mモードに設定後、露出はそのままでシャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることができます。

1. Mモードでシャッター速度と絞り値を選びます。

2. AEロックボタンを押しながらダイヤルを回し、希望のシャッター速度と絞り値の組み合わせを選びます。

ドライブモード

連続撮影やセルフタイマーなど、シャッターの切れるタイミングを変更することができます。
ドライブモード切り替えボタンで設定画面を出し、十字キー、または、ダイヤル（シフトボタン+ダイアル）で設定します。

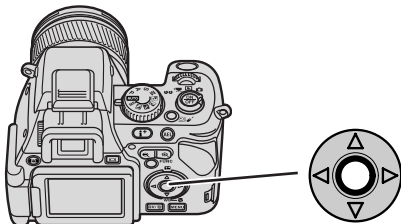
1. 撮影モードでドライブモード切り替えボタンを押します。

● ドライブモード設定画面（左図）が現れます。

2. 十字キーの上下、または、シフトボタン押したままダイヤルを回して、ドライブモードを選びます。

3. セルフタイマー撮影（）、ブラケット撮影（）、連続撮影（）を選んだ場合は、十字キーの左右、または、ダイヤルを回してさらにオプションを選びます。

● 1コマ撮影（）、リモコン撮影（）には、オプション（の選択）はありません。

←ブラケット撮影のオプション選択画面

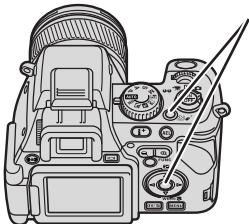
十字キー上下 または シフトボタン＋ダイヤルで選択	→	十字キー左右 または ダイヤルで選択
1コマ撮影 シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影です。		—
セルフタイマー撮影 シャッターボタンを押してから一定時間後に撮影されます。→ P.66	→	◎10秒セルフタイマー
		2秒セルフタイマー
リモコン撮影 別売アクセサリーのリモコンを使って撮影します。→ P.68		—
ブラケット（ずらし）撮影 露出やホワイトバランスをずらした撮影が簡単にできます。→ P.71	→	◎露出ブラケット0.3
		露出ブラケット0.5
		WBブラケット1（弱）
		WBブラケット2（強）
連続撮影 シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。→ P.73	→	◎通常連続撮影（2コマ/秒）
		高速連続撮影（2.3コマ/秒）
		UHS連続撮影（10コマ/秒）

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

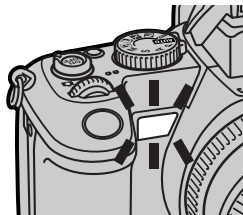
● 通常の撮影モードの画面に戻ります。

セルフタイマー撮影（ドライブモード）

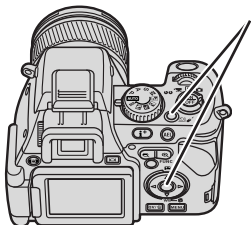
シャッターボタンを押してから10秒後または2秒後に撮影されます。

10秒セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

1. 64ページ操作1.、2.の要領で、セルフタイマー撮影（◌̈）を選び、十字キー左右、または、ダイヤルで［10秒セルフタイマー撮影］を選んで、実行ボタンを押します。

2. 被写体にピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中は、ランプと同様に音でもお知らせします。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メニューボタンまたはファンクションボタンを押してください。

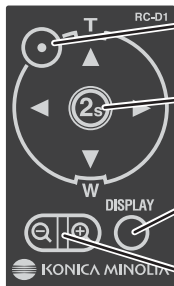
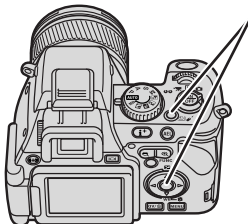
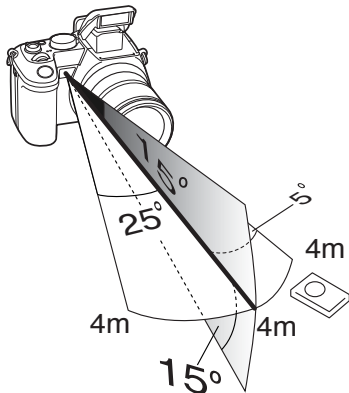
2秒セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影されます。シャッターボタンを押す際のカメラぶれを和らげるのに便利です。

1. 64ページ操作1.、2.の要領で、セルフタイマー撮影（ ）を選び、十字キー左右、または、ダイヤルで［2秒セルフタイマー撮影］を選んで、実行ボタンを押します。

2. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが作動します。ランプと同様に音でもお知らせします。
- 撮影後もセルフタイマーは解除されません。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メニューボタンまたはファンクションボタンを押してください。

リモコン撮影（ドライブモード）

別売アクセサリーのワイヤレスリモコン RC-D1 を使って、カメラから離れて撮影できます。撮影者もいっしょに写りたいときやカメラぶれを防ぐのにお使いいただけます。

1.64ページ操作1.、2.の要領で、リモコン撮影（ ）を選んで、実行ボタンを押します。

2. 撮りたいものに [ ] を合わせて構図を決めます。

3. 左図の範囲内でワイヤレスリモコンをカメラ(のリモコン受信部)に向け、2秒後撮影ボタン、または、撮影ボタンを押します。

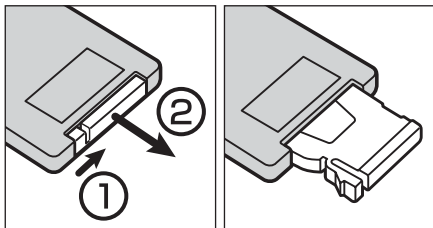
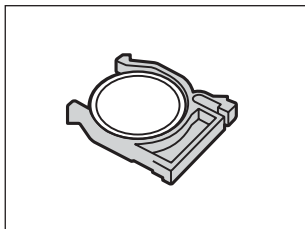
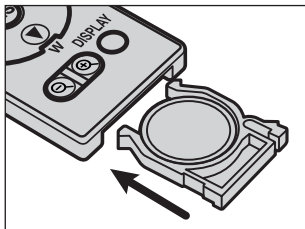
- できるだけカメラの正面に向かってリモコンを操作してください。左図の範囲外から操作すると、リモコンの信号がグリップやレンズにさえぎられて、カメラの受信部まで届かないことがあります。
- また、レンズフードやワイド/テレコンバーターなどのレンズアクセサリーを取り付けている場合、左図の範囲内からの操作であっても、リモコンの信号がさえぎられてカメラの受信部まで届かないことがあります。

- カメラを三脚などに取り付けてから操作してください。
- ワイヤレスリモコンの信号がカメラに正しく受信されると、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅してお知らせします。2秒後撮影ボタンを押したときは、カメラ前面のセルフタイマーランプが数回点滅します。
- バルブ(長時間露光)撮影(→ P.105)の場合は、撮影ボタン(または、2秒後撮影ボタン)を一度押すとシャッターが開いたままになり、再度押すとシャッターが閉じます。
- 撮影後もリモコン撮影の設定のままです。
- 逆光時や蛍光灯の近くではリモコン撮影できないことがあります。
- このカメラでは、リモコンを使ったフォーカスロック撮影はできません。

ワイヤレスリモコン RC-D1 は、再生モード(→ P.133)や動画撮影モード(→ P.166)でもお使いいただけます。これらのモードでは、ドライブモードでの設定に関係なく、モード切り替えレバーを ▶ または 🎥 に合わせるだけで使用できるようになります。

- 再生モード、動画撮影モードでのワイヤレスリモコンRC-D1の動作については、230ページの一覧表をご覧ください。

リモコンの電池の交換

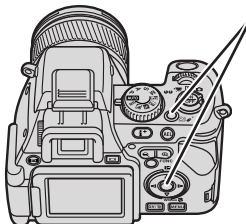
ボタン押してもカメラがリモコンに反応しなくなったら、リモコンの電池を交換してください。
コイン型リチウム電池 CR2025 を1個使用します。

1. リモコンを裏向けて、ツメの部分を①の方向に押しながら電池室を②の方向に引き出します。

2. 電池室を表に向け、古い電池を取り出して、＋側を下にして新しい電池を凹みの部分に入れます。

3. 電池室を、パチッと音がするまで元通り確実にはめ込みます。

ブラケット(ずらし)撮影

露出やホワイトバランスをずらした撮影が簡単にできます。

露出ブラケット

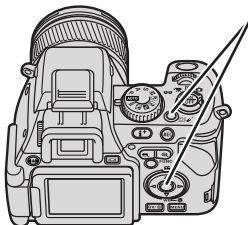
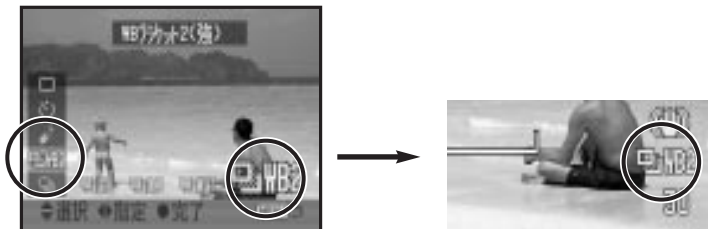
露出をずらした画像が自動で3コマ撮影されます。シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。

● フラッシュが発光するときは、連続ではなく1枚ずつシャッターボタンを押して露出をずらした撮影を行ないます(フラッシュブラケット)。

1.64ページ操作1.、2.の要領で、ブラケット撮影( )を選び、十字キー左右、または、ダイヤルでずらし量([0.3] または [0.5])を選んで、実行ボタンを押します。

2.シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● [±0] → [−(露出アンダー)側] → [+(露出オーバー)側] の順に3枚撮影されます。
● 基準値(±0)は1枚目を撮影するときに固定されます。露出補正(→ P.52)であらかじめずらしておくことも可能です。
● 途中で指を離すとブラケット撮影は終了します。
● 撮影中にカードの空きが無くなると、その後の撮影はされずにブラケット撮影は終了します。
● フラッシュが発光する場合はフラッシュの光量が変化してブラケットを行ないます。Mモードでは、通常はシャッター速度が変化しますが、AEロックボタンを押しながら撮影すると絞り値が変化します。

ホワイトバランス(WB)ブラケット

ホワイトバランス効果を自動的にずらした写真ができます。

1.64ページ操作1.、2.の要領で、ブラケット撮影( )を選び、十字キー左右、または、ダイヤルでずらし量([WB1(弱)] または[WB2(強)])を選んで、実行ボタンを押します。

2.シャッターボタンを(1回)押して撮影します。

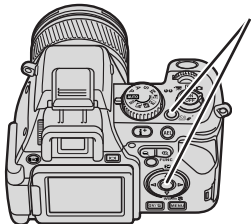
- 1回の撮影で、[基準のホワイトバランスの画像] → [−側(青みがかかった画像)] → [+側(赤みがかかった画像)] の順で、計3コマの画像が記録されます。WBブラケット1(弱)よりもWBブラケット2(強)の方がより効果が大きくなります。
- 基準となるホワイトバランスを、カスタムホワイトバランス(→ P.83)であらかじめずらしておくことも可能です。
- 撮影中にカードの空きが無くなると、その後の画像は記録されずに、ホワイトバランスブラケット撮影は終了します。

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影できます。通常の連続撮影では毎秒約2コマ、Hi(高速)連続撮影では毎秒約2.3コマ、UHS連続撮影では毎秒約10コマの速度で撮影されます。

（通常の）連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約2コマの速度で連続5枚まで撮影されます。連続撮影中も液晶モニター/ファインダーで被写体の動きを確認することができます。

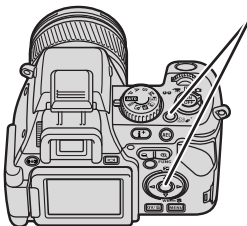
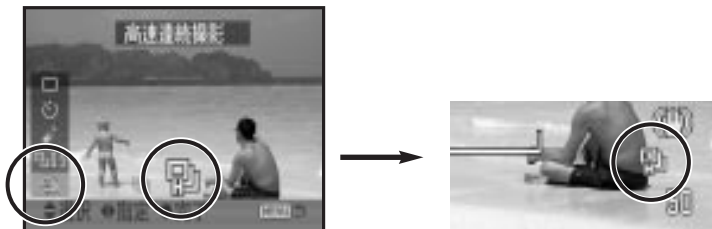
- 5枚撮影後は、CFカードに記録するのにしばらく時間がかかります。記録中は、液晶モニター/ファインダー右下の撮影残り画像数が黄色になり、次の撮影はできません。

1. 64ページ操作1.、2.の要領で、連続撮影（□）を選び、十字キー左右、または、ダイヤルで［通常連続撮影（□）］を選んで、実行ボタンを押します。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- ピントと露出は1コマ目で固定されます。オートフォーカスモードをコンティニュアスAF（AF-C）に変更すると、1コマごとにピントと露出が変わります。→ P.100
- 画質を RAW＋JPEG に設定すると、連続撮影はできません（後から連続撮影を選択すると画質は自動的にファインになります）。

Hi(高速)連続撮影

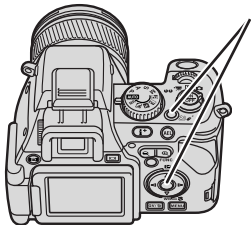
シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約2.3コマ(画像サイズ3264×2448設定時)の速度で連続5枚まで撮影されます。連続撮影中は液晶モニター/ファインダーは消灯します。

- 5枚撮影後は、CFカードに記録するのにしばらく時間がかかります。記録中は、液晶モニター/ファインダー右下の撮影残り画像数が黄色になり、次の撮影はできません。

1. 64ページ操作1.、2.の要領で、連続撮影(□)を選び、十字キー左右、または、ダイヤルで[高速連続撮影(□)]を選んで、実行ボタンを押します。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- ピントと露出は常に1コマ目で固定されます。
- 画質をRAW+JPEGに設定すると、Hi連続撮影はできません(後から連続撮影を選択すると画質は自動的にファインになります)。

ウルトラハイスピード(UHS*)連続撮影

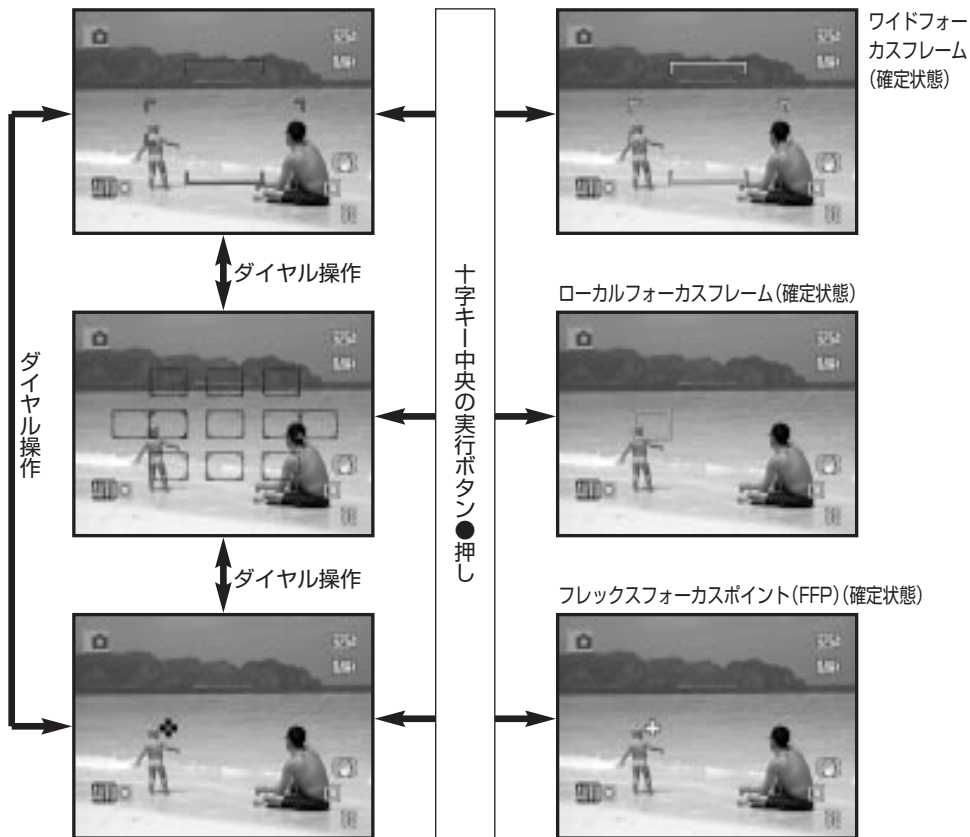
シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約10コマの速度で連続撮影ができます。画像サイズ(→P.110)は640画素×480画素に固定されます。

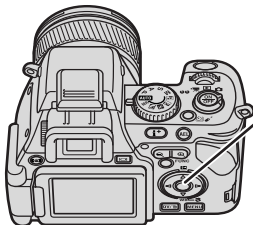
*UHS=Ultra High Speed(ウルトラハイスピード)の略

1.64ページ操作1.、2.の要領で、連続撮影（□）を選び、十字キー左右、または、ダイヤルで [UHS連続撮影（□）] を選んで、実行ボタンを押します。

2.シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- カメラ内のメモリ容量の制限により、10コマ/秒の速さでUHS連続撮影できる枚数は「40コマまで」となります。40コマ分を撮影した後は、CFカードに記録するのにしばらく時間がかかります。記録中は液晶モニターやファインダーは消灯します。
- フラッシュ撮影はできません（内蔵フラッシュを上げていても発光しません）。
- RAW画像（RAW＋JPEGを含む）では、UHS連続撮影はできません（後からUHS連続撮影を選択すると画質は自動的にファインになります）。
- ピント位置、露出、ホワイトバランスは1コマ目で固定されます。
- デジタルズーム（→ P.54）での撮影はできません。
- 低速のシャッター速度での撮影はできません。SモードやMモードで1/30秒より低速側のシャッター速度に設定していた場合、自動的に1/30秒に変更されます。
- UHS連続撮影の場合、他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。これらの現象は液晶モニター/ファインダーで確認できるので、そのような場合はレンズフードを使用するか、絞りを絞って撮影してください。

AFフレームの切り替え

AF(オートフォーカス)でピント合わせに用いるAFフレームを、[ワイドフォーカスフレーム] ⟷ [11点ローカルフォーカスフレーム] ⟷ [フレックスフォーカスポイント(FFP)] で切り替えることができます。

11点ローカルフォーカスフレーム

11個のローカルフォーカスフレームから任意の1つを選ぶことができます。ピントを合わせる位置が決まっている被写体の撮影等に便利です。

1. 撮影モードでワイドフォーカスフレームが表示されているときに、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- ワイドフォーカスフレームが青色に変わって、切り替えできる状態になったことをお知らせします。

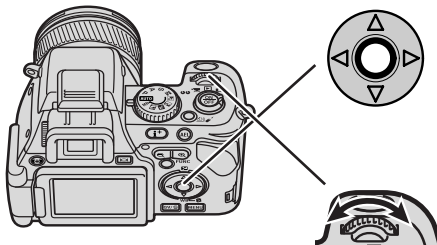
2. ダイヤルを回して、ローカルフォーカスフレームを表示させます。

3. 十字キーの上下左右で、使用するローカルフォーカスフレームを選びます。

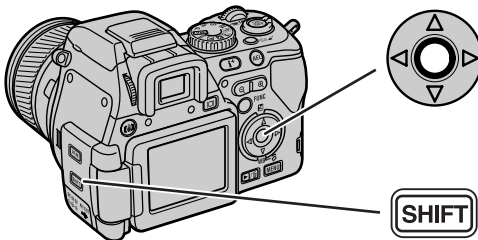
- 選択したフレームが青色で表示されます。
- 左右の2つのローカルフォーカスフレームは、カメラ縦位置での人物撮影で顔にピント合わせる際に便利です。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

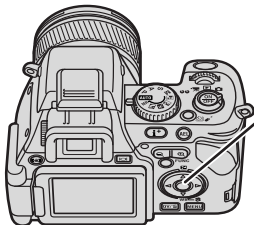
- フレームが白色に変わり確定されます。

（次ページへ続く ☞）

● 任意のローカルフォーカスフレーム確定後にもう一度実行ボタンを押すと、ふたたび11個のローカルフォーカスフレームが表示されて、十字キー（上下左右）で任意のフレームを選択できます。

● またこのとき（ふたたび11個のローカルフォーカスフレームが表示されているとき）ダイヤルを回すと、フレックスフォーカスポイント（FFP）やワイドAFフレームに切り替えることができます（→ 76ページの図参照）。

● デジタルズーム時（→ P.54）はローカルフォーカスフレームは中央に固定され（中央以外を選んでいても、デジタルズームにすると中央のフレームに戻ります）、枠も少し大きくなります。また、デジタルズームの倍率によってフレームの形状が □ から〚　〛に変わります。

● （11個の）ローカルフォーカスフレーム選択の画面で、本体側面のシフトボタンを押したまま十字キー中央の実行ボタンを押すと、中央のフレームが選ばれた状態になり、中央のフレームにすばやく戻れます。

フレックスフォーカスポイント

画面内でピント合わせの位置を自由に決めることができます。

1. 撮影モードでワイド または ローカルのフォーカスフレームが表示されているときに、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● フォーカスフレームが青色に変わって、切り替えできる状態になったことをお知らせします。

2. ダイヤルを回して、フレックスフォーカスポイントの画面を表示させます。

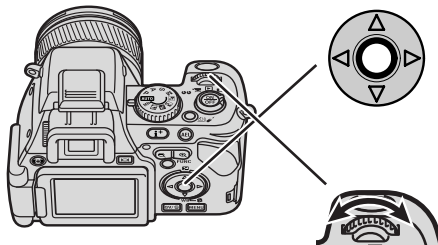
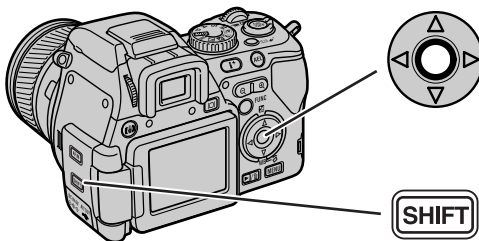
● 前回の操作で選んだ位置に、十字状のポインタ✣が青色で表示されます。

3. 十字キーの上下左右で、ピントを合わせたい位置に十字状のポインタ✣を動かします。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● フレックスフォーカスポイントのポインタ✣が白色に変わり確定されます。

● シャッターボタン半押しでピントが合うと、白い✣が一瞬赤い [-|-] (実際にピントを合わせる範囲)に変わります。

(次ページへ続く ☞)

● ポインタ(✣)位置確定後にもう一度実行ボタンを押すと、ふたたびポインタ(✣)が青色に変わり、十字キー(上下左右)で任意の位置に移動できます。
● またこのとき(ポインタ(✣)が青色で表示されているとき)ダイヤルを回すと、ワイドAFフレームやローカルフォーカスフレームに切り替えることができます(→ 76ページの図参照)。
● デジタルズーム時(→ P.54)は、フレックスフォーカスポイントのポインタ(✣)は画面中央に固定されます(中央以外に移動させていても、デジタルズームにすると画面中央に戻ります)。

● フレックスフォーカスポイントのポインタが青色で表示されているとき、本体側面のシフトボタンを押したまま十字キー中央の実行ボタンを押すと、ポインタが画面中央に移動します。
● スポット測光(→ P.95)時に、✣と一緒にスポット測光サークルを移動させることもできます。→ P.116

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。オートにすると自動的に調整されますが、光源を選択したり(プリセット)、ご自分で最適な値をカメラに記憶させたり(カスタム)することもできます。

オートホワイトバランス

ホワイトバランスは自動的に調整されます。初期設定はオートホワイトバランスです。

1. 撮影モードで、十字キーの下キーを押します。

● ホワイトバランス設定画面(左図)が現れます。

2. 十字キーの上下で、または、シフトボタン押したままダイヤルを回して、[AWB] を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● オートホワイトバランス設定時は、撮影中は液晶モニター/ファインダーに AWB などの表示は現れません。
*AWB = Auto White Balance (オートホワイトバランス) の略。

プリセットホワイトバランス

被写体を照射している光源を選ぶことができます。オートホワイトバランスで思うような色が出ないときにお使いください。

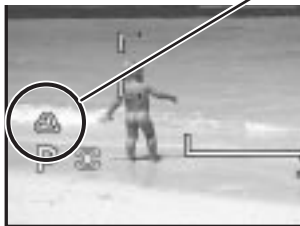
(次ページへ続く ☞)

1. 撮影モードで、十字キーの下キーを押します。

● ホワイトバランス設定画面（左図）が現れます。

2. 十字キーの上下で、または、シフトボタン押したままダイヤルを回して、[プリセット(AWBの下)] を選びます。

3. 十字キーの左右で、または、ダイヤルを回して [光源] を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定後、液晶モニター/ファインダーに選んだホワイトバランスが表示されます。

表示	光源の種類
	昼光（晴れた明るい屋外）
	日陰（晴れた明るい屋外の日陰）
	曇天（曇った屋外）
	白熱灯（タングステン光）
1	白色蛍光灯
2	昼白色蛍光灯
	(内蔵)フラッシュ光

● 水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。カスタム1とカスタム2の2通りをカメラに登録させることができます。

● 126ページの登録機能とは関係ありません。

カスタムホワイトバランス値を登録する

1. 撮影モードで、十字キーの下キーを押します。

● ホワイトバランス設定画面が現れます。

● 十字キーの下キーを押し続けると、カスタムワイトバランス仮登録画面が現れます。下記操作**2.**、**3.**を飛ばして、**4.**に進んでください。

2. 十字キーの上下で、または、シフトボタン押したままダイヤルを回して、[ ]を選びます。

3. 十字キーの左右で、または、ダイヤルを回して [Set] を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 白く写る部分が画面中央に表示されます（左図）。枠の中が白く覆われるようにしてください。

4. 白く写したいものを画面中央に配置して、シャッターボタンを押します。

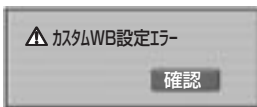
● シャッターの切れる音がして（撮影はされません）、カスタムホワイトバランス値がカメラに仮登録されます。

5. 十字キーの左右で、登録先の番号(1 または 2)を選びます。

（次ページへ続く ☞）

6. 十字キー中央の実行ボタンを押して、仮登録した値を登録します。

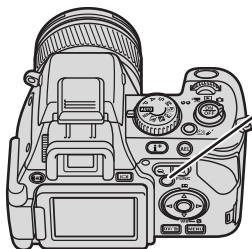
- 登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影画面に戻ります。
- メニューボタンを押すと登録されません。

- この操作で登録されたカスタムホワイトバランス値は、次に同じ操作で同じ番号に別の値が登録されるまで有効です(カメラの電源を切ってもキャンセルされません)。
- 仮登録する時(シャッターの切れる音がした時)にフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。実際の撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

- 左のメッセージが表示されたときは、登録しようとしている値が想定外であることを表します(近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など)。十字キー中央の実行ボタンを押してメッセージを消してください。その後その値を登録した場合、液晶モニター/ファインダー内の と数字が黄色になります。この状態でも撮影はできますが、より正確なホワイトバランスを得るには、再度設定し直すことをおすすめします。またエラーを起こりにくくするには、A／S／MモードよりもPモードをおすすめします。

記憶させたカスタムホワイトバランス値を呼び出す

83ページ、操作1.、2.の操作後、十字キーの左右で、または、ダイヤルを回して[1]または[2]を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

ファンクションボタン

ファンクションボタンを押すと、撮像感度やカラーモードなどの設定を変更できます。

1. 撮影モード(📷)で、ファンクションボタンを押します。

● 設定画面(下図)が現れます。

2. 十字キーの上下で、または、本体側面のシフトボタンを押したままダイヤルを回して、設定したい項目を選びます。

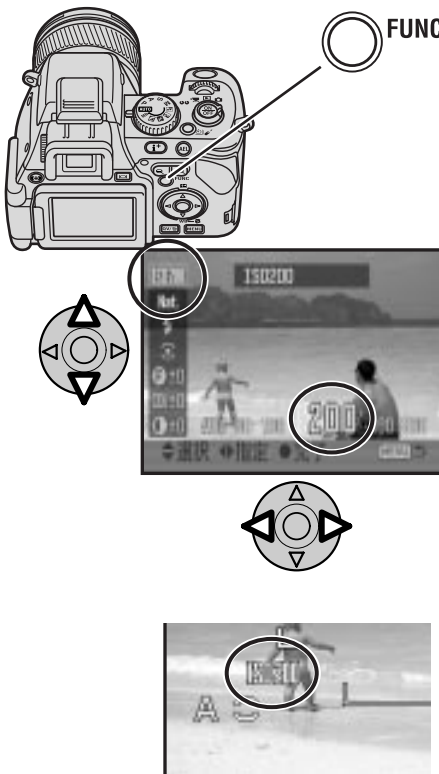
AUTO	撮像感度(ISO)	→ P.86
Nat.	カラーモード	→ P.88
	フラッシュモード	→ P.92
	測光モード	→ P.95
F±0	フィルター効果	→ P.97
COL±0	彩度補正	→ P.98
±0	コントラスト補正	→ P.99

3. 十字キーの左右で、または、ダイヤルを回して、設定する内容を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 1つの設定画面で、十字キー中央の実行ボタンを押して通常の撮影モード画面に戻らないかぎり、撮像感度(ISO)からコントラスト補正までの各項目をすべて設定できます。

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、設定した内容が確定されて通常の撮影モード画面に戻ります。設定途中でメニューボタンを押すと、設定した内容が確定されずに通常の撮影モード画面に戻ります。

撮像感度（ファンクションボタン）

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。オートに設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。画質を重視する場合は、ISO 50や100に感度を下げてください。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、画像が粗くなり、ノイズが発生しやすくなります。

1. 撮影モード（📷）で、ファンクションボタンを押します。

2. 十字キーの上下（または シフトボタン＋ダイヤル）で［撮像感度（ISO）］を選び、十字キーの左右（または ダイヤル）で数値を選んで、実行ボタンを押します

- 初期設定はオート（AUTO、自動設定）です。
- 感度は以下の範囲から選ぶことができます。
  オート（AUTO）、50、100、200、400、800

- オート（AUTO）の場合、設定中はAUTOの文字が現れますが、撮影中の表示はありません。撮像感度は、50 ～ 200 の範囲で自動的に設定されます。Mモード時には100 で固定されます。
- オート（AUTO）以外を設定した場合は、液晶モニター/ファインダー内に ISO と数値が表示されます。

撮像感度を変更すると、内蔵フラッシュの調光距離(フラッシュ光の届く距離)と最長シャッター速度は、それぞれ下表の通りになります。

撮像感度(フィルム換算値)	内蔵フラッシュの調光距離		最長シャッター速度
	広角側	望遠側	
オート(AUTO)	0.5〜3.8m	0.5〜3.0m	15秒
ISO 50	0.5〜1.9m	0.5〜1.5m	30秒
ISO 100	0.5〜2.7m	0.5〜2.1m	30秒
ISO 200	0.5〜3.8m	0.5〜3.0m	15秒
ISO 400	0.5〜5.4m	0.5〜4.2m	8秒
ISO 800	0.5〜7.6m	0.5〜6.0m	4秒

ノイズについて

長時間露光撮影や撮像感度を上げた撮影を行うと、画像にノイズが発生しやすくなります。また連続使用によりカメラ内部のCCDの温度が上がると、ノイズはさらに大きくなります。
ノイズを少なくするには、ノイズリダクション(→ P.130)を「あり」に設定して(初期設定は「あり」です)、Pモード または Aモードで絞り値を小さくして(絞りを開けて)撮影してください。またカメラの温度を下げるために、電源をいったん切って温度が下がってから撮影する、手ぶれ補正機能を解除して(→ P.56)三脚に固定して撮影する、などをおすすめします。

カラーモード(ファンクションボタン)

撮影する画像の色を、ナチュラル(sRGB)、ビビッド(sRGB)、ポートレート(sRGB)、Adobe RGB(ICC)、モノクロの中から選ぶことができます。

1. 撮影モード( )で、ファンクションボタンを押します。

2. 十字キーの上下(または シフトボタン+ダイヤル)で [カラーモード] を選び、十字キーの左右(または ダイヤル)で希望のカラーモードを選んで、実行ボタンを押します

- カラーモードの設定は静止画のみに有効です(動画には影響しません)。

ナチュラル(sRGB)

自然な色のカラー画像(sRGB※)として記録されます。初期設定はこの設定です。

※sRGB = 平均的なモニターの特性を反映させた色空間。ホームページなどWeb表示用の画像を扱う場合に適しています。

ビビッド(sRGB)

カラー画像ですが、ナチュラル(sRGB)より彩度とコントラストが高く、全体的に色が鮮やかに再現されます。さらに彩度補正を加えることも可能です(→ P.98)。

- 液晶モニター/ファインダーに VIVID が表示されます。
- 彩度が高い被写体の場合、ビビッドカラーにすると再現できる限界を超えてしまうことがあります。

ポートレート(sRGB)

カラー画像ですが、人間の肌の色をより好ましく再現するカラーモードです。

- シーンセレクターのポートレート(→ P.48)では、背景をやわらかくぼかして人物を引き立たせる、人肌をなめらかに再現する等の絞りコントロールやデジタル処理が行われますが、カラーモードのポートレートは、純粋に色再現だけをコントロールします。

AdobeRGB（ICC）

Adobe RGBは、ナチュラルやビビッドのsRGBに比べて広い色再現範囲を持っています。プリントを主目的とする撮影、特に鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果があります。画像の表示やプリントには、DiMAGE Viewer等カラーマネジメントに対応したソフトウェアをお使いください。

- 液晶モニター/ファインダーに Adobe が表示されます。
- このカラーモードで撮影した画像の表示、編集・加工、プリントには、DiMAGE Viewerなどカラーマネジメントに対応したアプリケーションソフトウェアをご利用ください。カラーマネジメント非対応のソフトウェアでは、正しい色で表示やプリントができなかったり、ファイルが開かなかったりすることがあります。お持ちでない場合は、ナチュラルまたはビビッドでの撮影をおすすめします。
- このカラーモードを選択して、カラーマネジメントとICCプロファイルの両方に対応しているソフトウェアを使うと、最も正確な色情報が得られます。
  カラーマネジメント対応でもICCプロファイルに対応していないソフトウェアの場合は、ソフトウェア側で設定を行なう必要があります。詳しくは、ソフトウェアの使用説明書をご覧ください。
- 画像ファイル名には拡張子 ".JPE" が付きます。DPOF指定（→P.154）はできません。

モノクロ

白黒画像として記録されます。

- 液晶モニター/ファインダーに BW が表示されます。
- モノクロで撮影しても、ファイルサイズは他のカラーモードと同じです。

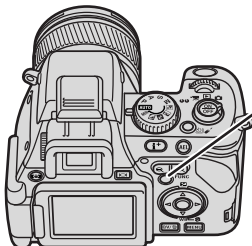
モノクロでのフィルター効果

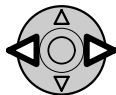
モノクロ画像にフィルター効果をかけると、色調が調整され、セピア色などの画像を得ることができます。F0〜F10の11種類の中から選ぶことができます。

※フィルター効果 → P.97、カラー写真参照 → P.3

- F0以外に設定すると、液晶モニター/ファインダーに F と数値が表示されます。

フラッシュモード(ファンクションボタン)

フラッシュモードを、通常発光、赤目軽減発光、スローシンクロ、後幕シンクロの中から選ぶことができます。

1.撮影モード(📷)で、ファンクションボタンを押します。

2.十字キーの上下(または シフトボタン+ダイヤル)で [フラッシュモード] を選び、十字キーの左右(または ダイヤル)で希望のフラッシュモードを選んで、実行ボタンを押します。

ϟ 通常発光

内蔵フラッシュを上げていれば必ず発光します。初期設定は通常発光です。

⚡◎ 赤目軽減発光

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。赤目軽減発光では、撮影の直前に小光量のフラッシュが何回か発光し、この現象をやわらげることができます。

- 赤目軽減発光は内蔵フラッシュでのみ可能です(別売りのプログラムフラッシュでは目が赤く写ることはほとんどありません)。
- 内蔵フラッシュを上げていると、液晶モニター/ファインダーに、⚡◎が表示されます。

⚡SLOW スローシンクロ

夜景を背景にして記念撮影する場合、スローシンクロ撮影(シャッター速度の遅いフラッシュ撮影)をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

- シーンセレクターの「夜景ポートレート」と得られる効果は同じです(→ P.49)。
- スローシンクロ撮影時は、フラッシュはかならず赤目軽減発光になります。
- 内蔵フラッシュを上げていると、液晶モニター/ファインダーに、⚡SLOW が表示されます。
- シャッター速度が遅くなりますので、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

(次ページへ続く ☞)

ϟREAR 後幕シンクロ

通常発光では、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光し、その後にフラッシュ光以外で照らされた部分が写ります。よってシャッター速度が遅い場合には、光の流れなどが不自然に写ることがあります。
後幕シンクロでは、先にフラッシュ光以外で照らされた部分が写り、最後にフラッシュが発光します。動いている被写体を低速のシャッター速度でフラッシュ撮影するときに用いると、光の流れや被写体の軌跡をより自然に描写することができます。。

● 内蔵フラッシュを上げていると、液晶モニター/ファインダーに、ϟREAR が表示されます。

後幕シンクロ

通常発光

測光モード(ファンクションボタン)

測光モード(カメラが被写体の明るさを測る方法)を以下の3つの中から選ぶことができます。

多分割測光:	画面を細かく分割して測光します。
中央重点平均測光:	画面の中央部に重点を置きながら、全体の明るさを平均的に測光します。
スポット測光	中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行ないます。

1. 撮影モード( )で、ファンクションボタンを押します。

2. 十字キーの上下(または シフトボタン+ダイヤル)で [測光モード] を選び、十字キーの左右(または ダイヤル)で希望の測光モードを選んで、実行ボタンを押します。

- 液晶モニター/ファインダー内に選んだ測光モードが表示されます。
- シーンセレクター選択中は、測光モードを選ぶことはできません。
- AEロックボタンにより、各測光モードで測った測光値(シャッター速度と絞り値)を一時的に固定することができます。→ P.104

(次ページへ続く ☞)

多分割測光

CCDを細かく分割（256分割）して測光を行ないます。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確に把握します。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

- 多分割測光では、シャッターボタン半押しでピントが固定されると、同時に露出（シャッター速度と絞り値）も固定されます（オートフォーカス、ワンショットAF時のみ）。

中央重点平均測光

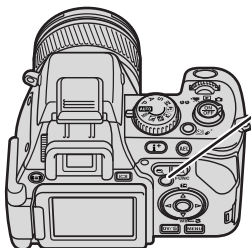
画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→ P.52～

スポット測光

画面中央部にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみで測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロックボタンを使用して測光値を固定してください（→ P.104）。フレックスフォーカスポイントとスポット測光サークルとを連動させて動かすこともできます（→ P.116）。

フィルター（ファンクションボタン）

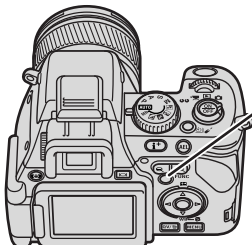
カラー画像の場合、画面に赤や青の色フィルターをかけたような効果を出します。−5〜＋5の11段階から選択することができます。＋側にするほど赤みが、−側にするほど青みが増します。
モノクロ画像の場合は色調を選ぶことができます。11種類の中から選ぶことができます。

※カラーモードの設定 → P.88、カラー写真参照 → P.2

1. 撮影モード（📷）で、ファンクションボタンを押します。

2. 十字キーの上下（または シフトボタン＋ダイヤル）で［フィルター］を選び、十字キーの左右（または ダイヤル）で希望のフィルター（の指標）を選んで、実行ボタンを押します。

- F0 以外に設定すると、液晶モニター/ファインダーにⒻと数値が表示されます。

彩度補正（ファンクションボタン）

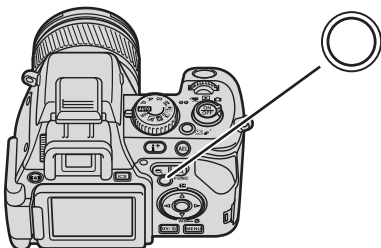
彩度（色の鮮やかさ）を調整します。－5～＋5の11段階から選択することができます。
＋側にすると彩度が強くなります。鮮やかなくっきりした画像になります。
－側にすると彩度が弱くなります。落ち着いた画像になります。

1. 撮影モード（📷）で、ファンクションボタンを押します。

2. 十字キーの上下（または シフトボタン＋ダイヤル）で［彩度補正］を選び、十字キーの左右（または ダイヤル）で希望の彩度補正（の指標）を選んで、実行ボタンを押します。

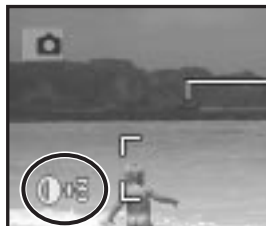
- COL 0以外に設定すると、液晶モニター/ファインダーにCOLと数値が表示されます。

- 画質でファインやスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

コントラスト補正（ファンクションボタン）

コントラスト（明暗差）を調整します。−5〜+5の11段階から選択することができます。
+側にするとコントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりした画像になります。
−側にするとコントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

1. 撮影モード（📷）で、ファンクションボタンを押します。

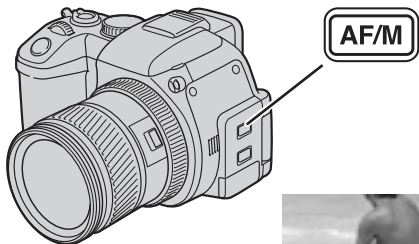
2. 十字キーの上下（または シフトボタン+ダイヤル）で［コントラスト補正］を選び、十字キーの左右（または ダイヤル）で希望のコントラスト補正（の指標）を選んで、実行ボタンを押します。

- 0以外に設定すると、液晶モニター/ファインダーに ◐ と数値が表示されます。

- 画質でファインやスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

フォーカスモード

このカメラには、2種類のオートフォーカスモードとマニュアルフォーカスモードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

AF*-S	ワンショットAF	シャッターボタン半押しでピントが固定されます。
AF-C	コンティニュアスAF	シャッターボタンを半押ししている間、ピントを合わせ続けます。
MF**	マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。

*AF = Autofocus（オートフォーカス）の略
**MF = Manual focus（マニュアルフォーカス）の略

撮影モード（ ）で、本体側面のフォーカスモードボタンを押します。

● ボタンを押すごとにフォーカスモードが以下の順で切り替わります。

ワンショットAF（AF-S）（画面表示なし） コンティニュアスAF（AF-C） マニュアルフォーカス（MF）

オートフォーカスモード

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われます。

ワンショットAF（AF-S）

シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われ、ピントが合うとピント位置はそこで固定されます。静止している被写体の撮影に適しています。

コンティニュアスAF（AF-C）

シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。

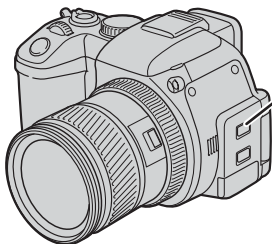
- シャッターボタンを半押ししなくても常にピントを合わせ続けるようにすることもできます（フルタイムAF、→ P.123）。
- 激しく動く被写体にはピントを合わせることができません。

フォーカス表示

シャッターボタン半押しで、液晶モニター/ファインダー内にピントの状態をお知らせするフォーカス表示が現れます。ワンショットAFとコンティニュアスAFとでは、フォーカス表示が異なります。

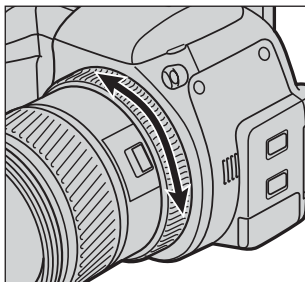
ワンショットAF	○ 白色	ピントが合って固定されています。
	● 赤色	ピントが合っていません。
コンティニュアスAF	((○)) 白色	ピントが合っています。 被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
	● 赤色	ピントが合っていません。

マニュアルフォーカスモード

オートフォーカスを使わずに、被写体までの距離を自由に設定することができます。

1. 撮影モード( )で、本体側面のフォーカスモードボタンを押してMFを選びます。

- 液晶モニター/ファインダー内に、MFと現在のピント位置までの距離(目安)、フォーカスリングを回したときに拡大表示される範囲の枠が表示されます。∞は無限遠を表します。

フォーカスリングを回したときに拡大表示される範囲の枠

※十字キー中央の実行ボタンを押すと枠の色が白色から青色に変わります。枠が青色のときは、十字キーの上下左右で枠を画面内の任意の位置に移動できます。

2. 被写体が最もはっきり見えるように、フォーカスリングを回します。

- ピント確認のため、上記枠内の範囲が拡大表示されます。

画像全体の中で現在拡大表示されている部分が黄色で表されます。

● ピント確認（画像拡大）中は、十字キーの上下左右で拡大場所を移動することができます。シフトボタンを押しながら十字キー中央の実行ボタンを押すと、拡大場所は中央部に戻ります。
● ピント確認（画像拡大）中にシャッターボタンを半押しするか、または、4秒間何も操作しないと、拡大前の画面に戻ります。
● 明るさなど露出関係の確認は、拡大していない状態で行なってください。

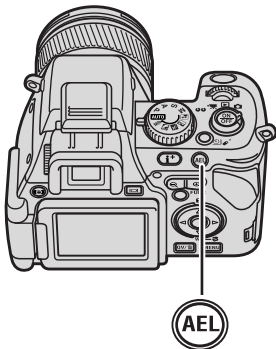
3. シャッターボタンを押して撮影します。

● 撮影される画像は拡大前のものです。

● 表示される距離はCCD（撮像素子）からの距離の目安です。ピントの調整は画像を見ながら行なってください。
● 暗い中での撮影などピントの確認が難しい状況では、確認しやすい同等の距離の被写体にピントを合わせた後、構図を変えて撮影することをおすすめします。

露出を固定する（AEロック撮影）

AE*ロックボタンを押すと、その時の測光値（シャッター速度と絞り値）が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定に保ったまま連続撮影したい場合などに使用します。

*AE = Auto Exposure（自動露出）の略

1. 測光したい状態にカメラを構えます。

● 多分割測光、中央重点平均測光、スポット測光のいずれの測光モードでも使用可能です。

2. AEロックボタンを押します。

● 液晶モニター/ファインダー内のシャッター速度と絞り値が黒く反転し、ロック（固定）されていることをお知らせします。

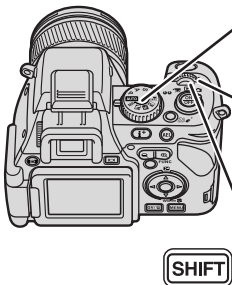
3. AEロックボタンを押したまま、必要なら構図を変え、シャッターボタンを押して撮影します。

● 撮影後もAEロックボタンを押し続けていると、同じ露出で連続して撮影できます。指を離すと解除されます。

● Pモード/Aモードでのフラッシュ発光時は、AEロックと同時にスローシンクロ撮影（夜景ポートレートと似た効果）になります。

● AEロックボタンから指を離しても測光値が固定されたままになるように（押し続けなくてもいいように）することができます。→ P.118

バルブ（長時間露光）撮影

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。カメラを三脚などに取り付けて撮影してください。この設定はMモードでのみ可能です。→ P.62

1. 撮影モードダイヤルをMに合わせます。

※Mモードの詳細について → P.62〜

2. ダイヤルを左に回して、シャッター速度で「bulb」を選びます。

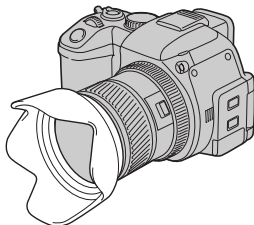
SHIFT

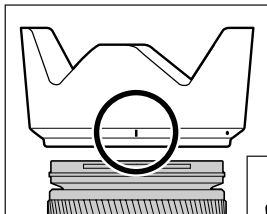
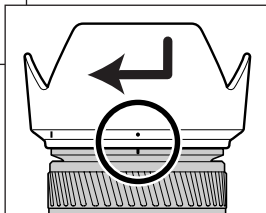
3. シフトボタンを押したままダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

4. 必要な時間シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 30秒経過すると、自動的に撮影は終了します。

- バルブ撮影後は、ノイズ軽減処理のため、最長30秒間液晶モニター/ファインダーが消灯します（ノイズリダクション）。その間は撮影できません。※この機能を解除するには → P.130
- 高感度域で長秒時露光する場合は、画面内のノイズが一部強調されることがあります。※ノイズについて → P.87

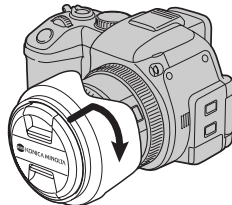
レンズフード

フラッシュを使わずに撮影する場合、特にレンズの広角側で逆光時に撮影する場合は、画面外にある光がレンズに入って描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。

● 内蔵フラッシュ使用時（→ P.40）にはレンズフードは使わないでください。画面下部までフラッシュ光が届かなくなります。

1. フードの ｜ の部分を上にして、フードをレンズ先端に合わせます。

2. フードの ●の部分が上に来るまで、フードを時計方向に回します。

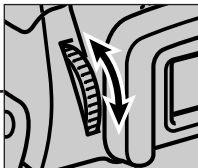
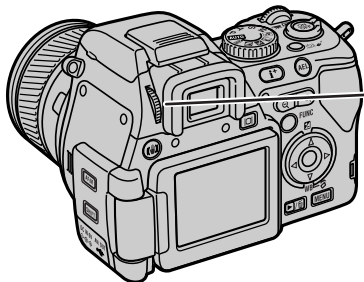
● カチッと音がするまで回してしっかり固定してください。ご購入当初は固い場合があります。

フードは音がするまで回してしっかりと固定させてください。

中途位置のまま使用すると、フードの効果が出なかったり、画面の一部にフードが写り込むことがあります。

● フードを収納するときは逆向きに取り付けることができます（右図）。

視度調整

近視等によりファインダーの像がはっきりと見えないときは、視度を調整して見やすくすることができます。

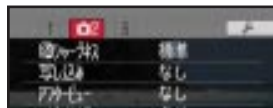
● ファインダー（EVF）にのみ有効です。液晶モニターには影響しません。

ファインダーをのぞいて、表示されている数値等がはっきり見えるように視度調整ダイヤルを回します。

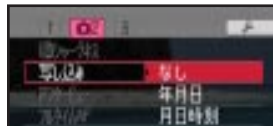
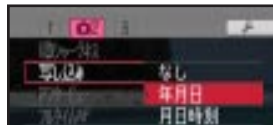
撮影モードメニュー

モード切り替えレバーが撮影モード位置 📷 にあるときにメニューボタンを押すと、次ページの設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

1. 撮影モード位置 📷 で、メニューボタンを押します。

● メニュー画面が現れます。

2. 十字キーの左右で、📷1 ～📷3 のいずれかを選びます。

3. 十字キーの上下で、希望の項目を選びます。

4. 十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

5. 十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

6. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

7. メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

- シャッターボタンの半押しでも戻ります。
- 設定中にメニューボタンを押すと、設定が中断され、撮影モードに戻ります。

1	
画像サイズ (→ P.110)	◎3264×2448 3264×2176 3：2 2560×1920 2080×1560 1600×1200 640×480
画質 (→ P.112)	RAW RAW+JPEG エクストラファイン ◎ファイン スタンダード
スポット測光エリア (→ P.116)	◎中央固定 FFP連動
調光モード (→ P.116)	◎自動 内蔵マニュアル
AELボタン (→ P.118)	◎押す間AEL 再押しAEL
撮影モードリセット (→ P.119)	実行する

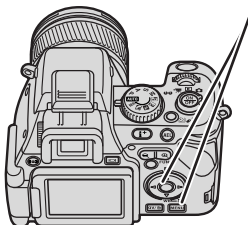
2	
シャープネス (→ P.120)	ハード(+) ◎標準 ソフト(−)
写し込み (→ P.121)	◎なし 年月日 月日時刻

2	
アフタービュー (→ P.122)	10秒 5秒 2秒 1秒 ◎なし
フルタイムAF (→ P.123)	あり ◎なし
DMF (→ P.124)	あり ◎なし

3	
登録 (→ P.126)	実行する
シーンセレクター設定 (→ P.129)	◎シーン選択 登録呼び出し
ノイズリダクション (→ P.130)	◎あり なし
モニター自動感度アップ (→ P.130)	◎あり なし
└ Mモード時のモニター (→ P.131)	◎露出設定に従う 常に適正
デジタルズーム (→ P.132)	トリミング ◎あり なし

◎印は初期設定値です。

画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。6通りの中から選ぶことができます。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「◘1」→「画像サイズ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- 選んだ画像サイズは、液晶モニター/ファインダー内に大きい方の数値で表示されます。
- 画質(→ P.112)をRAWにすると、画像サイズは3264×2448で固定されます。画像サイズは表示されません。RAW+JPEGにすると、JPEG画像の画像サイズが表示されます。
- ドライブモードでUHS連続撮影を選んだとき(→ P.74)は、画像サイズは640×480で固定され、変更できません。

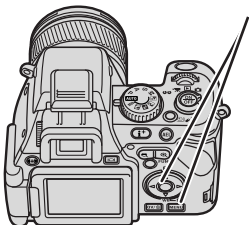
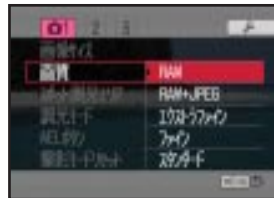
デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ3264×2448ピクセルの場合、画像は横に3264、縦に2448に分割され、その1点1点(画素)にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数(記録画素数)を表し、画素 または ピクセル、ドットといった単位で表されます。大きくプリントする場合は画像サイズを大きく設定する必要がありますが、画像サイズを大きくすると1枚あたりのファイルサイズ(データ量)も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。
このカメラでは、画像サイズを右表の6通りの中から選ぶことができます。

画像サイズ	説明
3264×2448	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする場合*におすすめします。約800万画素の画像が撮影できます。 * A4（297㎜×210㎜）程度以上
3264×2176 3：2	上記の最大画像サイズ3264で、横と縦の比率を3：2（フィルムカメラと同じ）にしたものです。上下に黒い帯が現れます。
2560×1920	パソコンに取り込んで編集するときや、大きめにプリントする場合**におすすめします。約490万画素の画像が撮影できます。 ** 2L版（178㎜×127㎜）～ A4（297㎜×210㎜）程度
2080×1560	パソコンに取り込んで編集するときや、やや大きめにプリントする場合におすすめします。約320万画素の画像が撮影できます。
1600×1200	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする場合***におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。 *** L版（127㎜×89㎜）～ A5（210㎜×148㎜）程度
640×480	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi～300dpiの場合を指しています。

※画像サイズを変更した場合のファイルサイズと撮影画像数について → P.114

画質

画像の圧縮率を指定することができます。5通りの中から選ぶことができます。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「画質」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- 選んだ画像サイズは、液晶モニター/ファインダー内にアルファベットの短縮形で表示されます。
- RAW および RAW＋JPEG設定時は、撮影後CFカードに記録するのに十数秒ほどかかることがあります。記録中は、液晶モニター/ファインダー右下の撮影残り画像数が黄色になり、次の撮影はできません。
- RAW設定時は、画像サイズは常に3264×2448で固定されるため、画像サイズは表示されません。RAW＋JPEG設定時は、JPEG画像（ファイン）の画像サイズが表示されます。

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（→ P.114）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。このカメラでは、初期設定（ファイン、FINE）で撮影するとJPEG形式で圧縮されます。高画質になるほど1枚あたりのファイルサイズも大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。
このカメラでは、画質を右表の5通りの中から選ぶことができます。

<table>
<tr><th>モニター/ファインダー内の表示</th><th>ファイル形式</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>RAW</td><td>RAW
（生データ）</td><td>より専門的な用途に合わせた加工を行なうための素材となる形式です。付属のディマージュ ビューアーCD-ROM内のDiMAGE Viewer で開くことができます。→ 詳細は P.115</td></tr>
<tr><td>X.FIN
（エキストラ ファイン）</td><td>JPEG
（圧縮率 極小）</td><td rowspan="3">画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。
JPEG形式で保存すると、圧縮率が大きいほど画質が劣化します。いったん劣化した画質を撮影後にパソコン等で復元することはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行なう場合、画質設定は慎重に行なってください。
一般的な目安は以下の通りです。
画像加工用 → エクストラファイン
プリント用（大伸ばし） → エクストラファイン、ファイン
プリント用（L版～2L版程度） → ファイン、スタンダード
メール添付用 → スタンダード</td></tr>
<tr><td>FINE
（ファイン）</td><td>JPEG
（圧縮率 小）</td></tr>
<tr><td>STD.
（スタンダード）</td><td>JPEG
（圧縮率 中）</td></tr>
<tr><td>RAW+
（RAW＋JPEG）</td><td>RAW
（生データ）
＋
JPEG
（圧縮率 小）</td><td>1回の撮影で、上記RAW画像とJPEG画像（ファイン）が同時に作成されます。JPEG画像のサイズは撮影メニューの設定通り（→ P.110）で、液晶モニター/ファインダーに表示されます。閲覧用と編集用の両方の画像を作成したい場合や、RAWでの撮影時に拡大再生でピント確認等をしたい場合に便利です。</td></tr>
</table>

ファイルサイズと撮影画像数

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と、例として128MBのCFカード1枚に記録できる撮影画像数は以下の通りです。（RAW選択時は画像サイズは常に3264×2448）

● 下記の値は被写体によって異なるため、あくまでも目安とお考えください。

ファイルサイズ

	3264×2448	3264×2176	2560×1920	2080×1560	1600×1200	640×480
スタンダード	約2.0MB	約1.7MB	約1.2MB	約850KB	約520KB	約130KB
ファイン	約3.9MB	約3.4MB	約2.4MB	約1.6MB	約1.0MB	約210KB
エクストラファイン	約6.1MB	約5.5MB	約3.8MB	約2.5MB	約1.5MB	約300KB
RAW+JPEG	約15.3MB	約14.9MB	約13.8MB	約13.0MB	約12.4MB	約11.6MB
RAW	約11.4MB	—	—	—	—	—

動画	800×600	約850KB/秒（15fps）
	640×480	約580KB/秒（15fps）／約1.1MB/秒（30fps）
	320×240	約350KB/秒（15fps）／約700KB/秒（30fps）

128MB CFカード使用時の撮影画像数

	3264×2448	3264×2176	2560×1920	2080×1560	1600×1200	640×480
スタンダード	約62コマ	約69コマ	約97コマ	約150コマ	約229コマ	約781コマ
ファイン	約31コマ	約35コマ	約50コマ	約78コマ	約122コマ	約558コマ
エクストラファイン	約19コマ	約22コマ	約32コマ	約49コマ	約79コマ	約390コマ
RAW+JPEG	約9コマ	約9コマ	約9コマ	約9コマ	約10コマ	約10コマ
RAW	約10コマ	—	—	—	—	—

動画	800×600	約2分36秒（15fps）
	640×480	約3分49秒（15fps）／約1分54秒（30fps）
	320×240	約5分55秒（15fps）／約3分6秒（30fps）

RAWについて

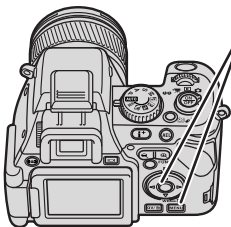
デジタルカメラでは、被写体の映像を受け取る部分、すなわち通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たすのがCCD(撮像素子)です。そのCCDに記録された、デジタル処理等の加工を一切していないそのままのデータがRAW(ロー)形式のファイルです。これはJPEGのような一般的な画像ファイル形式でなく、より専門的な用途に合わせた加工を行なうための素材となる形式です。このカメラで撮影したRAW画像はコニカミノルタ規格のRAW画像であり、これを開くには付属のディマージュ ビューアー CD-ROM内の DiMAGE Viewer(ディマージュ ビューアー)などが必要です。このソフトを使えば、RAWファイルを開いた後、JPEGやTIFFのような一般的な画像フォーマットに変換することもできます。

RAW形式の画像を撮影する際には、以下のような制限があります。

- 画像サイズの指定はできません。常に最大サイズ(3264×2448)になります。
- デジタルズーム、画像への写し込み、拡大再生、DPOF(プリント)指定はできません。
- ホワイトバランス、コントラスト補正、彩度補正、カラーフィルター効果、シャープネスについては、DiMAGE Viewerにて画像を表示させる際に再調整することができます。モノクロフィルターには対応していません。
- RAW画像にはJPEG等で行われている一般的な画像処理が加えられていないため、再生・クイックビュー・アフタービュー画面では色が正確に再現されません。データは正確に記録されているので、パソコン上では正しい色で再現されます。

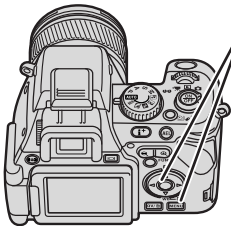
このカメラで撮影したRAWファイルをDiMAGE Viewerで開いて表示させるには、バージョン2.3.7以降のDiMAGE Viewerをお使いください。それ以前のバージョンでは、このカメラのICCプロファイルに対応していません。
DiMAGE ViewerのバージョンNo.確認は、ディマージュ ビューアー CD-ROMのレーベル面、または、DiMAGE Viewerを起動して [ヘルプ(H)] メニューの [バージョン情報] をご覧ください。

スポット測光エリアの位置

スポット測光を行なうスポット測光エリア(サークル、→ P.96)の位置を選ぶことができます。初期設定では画面中央([中央固定])ですが、フレックスフォーカスポイント(FFP、→ P.79)に連動させて動かすこともできます([FFP連動])。ポートレート撮影など、ピントを合わせたい場所と露出を合わせたい場所が同じ場合に便利です。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「スポット測光エリア」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

● フレックスフォーカスポイントとスポット測光サークルを連動させた場合、通常のフレックスフォーカスポイントと比べると、動き方が若干粗くなります。

調光モード

フラッシュの調光モードを、自動調光とマニュアル発光のいずれかに設定することができます。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「調光モード」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

AUTO(自動調光)

撮影の直前にフラッシュを一度発光(プリ発光)させ、その反射光を測光して発光量を自動でコントロールします。初期設定はAUTO(自動調光)です。

内蔵マニュアル調光

自動調光では被写体が適正露出になるようにフラッシュの発光量が自動的に調整されますが、マニュアル発光にすると、被写体の明るさに関係なく、常に一定の発光量を得ることができます（内蔵フラッシュでのみ可能）。

発光量は右の5つから選択することができます。プリ発光が行われないので、シャッターレリーズまでのタイムラグを短くしたい場合や、日中シンクロ撮影*などの補助フラッシュ、スレーブフラッシュ撮影**での信号光としてお使いください。

*日中シンクロ撮影 ＝ 昼間の撮影で、太陽光を主としながら補助光としてフラッシュを発光させる撮影。

**スレーブフラッシュ撮影 ＝ 市販のスレーブユニットを使用、内蔵フラッシュ等を信号光として、他のストロボを発光させる撮影。

発光量	ガイドナンバー（ISO 100・m）
1/1	約8
1/2	約6
1/4	約4
1/8	約3
1/16	約2

- 赤目軽減発光時は、内蔵マニュアル発光は設定できません（後から赤目軽減発光を選択すると、調光モードは自動調光になります）。
- マニュアル発光ではフラッシュの発光量があらかじめ決められてしまうため、設定によっては適正露出が得られないことがあります。

内蔵マニュアル発光の発光量の設定

1. 前ページの要領で、内蔵マニュアル（調光）を設定します。

2. 十字キーの上キーを押します。

- 右の画面が現れます。

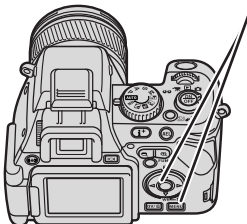
3. 十字キーの上下を押すか、シフトボタンを押したままダイヤルを回して、[発光量設定]を選びます。

4. 十字キーの左右を押すか、ダイヤルを回して希望の発光量を選び、実行ボタンを押します。

- マニュアル発光の場合は、液晶モニター/ファインダー内にⓂと発光量が表示されます。

調光モード
スポット測光エリア

AEロックボタンの操作

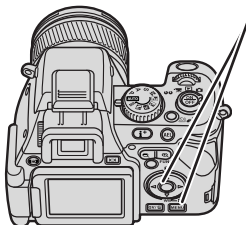
AEロックボタンの操作方法を変更することができます。

1 108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「AELボタン」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

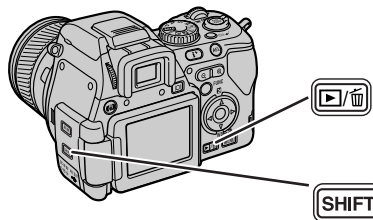
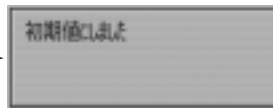
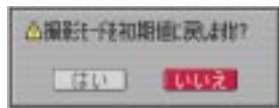
AEロックボタンの操作方法には、押している間のみ機能する [押す間AEL]、一度押して機能・再度押して解除という [再押しAEL] の2つがあります。初期設定は [押す間AEL] です。

押す間 AEL	押し続けている間、選択されている測光モードでその時の測光値がロック	AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。露出を一定に保ちたい場合に便利です。
再押し AEL	一度押して放すと、選択されている測光モードでその時の測光値がロック、再度押すと解除	シャッターを切るときにAEロックボタンを押し続ける必要がありません。露出を一定に保ちたい場合に便利です。

- 測光値がロックされている間は、液晶モニター／ファインダー内のシャッター速度と絞り値が黒く反転します。特に [再押しAEL] を選んでいる場合は、解除し忘れのないようにしてください。
- Pモード/Aモードのフラッシュ発光時は、AEロックでなくスローシンクロ撮影（夜景ポートレートと似た効果）になります。
- ここでの設定は、Mモードでのマニュアルシフト（→ P.63）には影響しません。

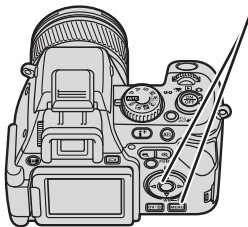
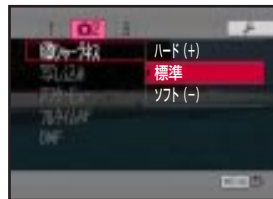
撮影モードリセット

撮影モードリセットを行なうと、カメラの撮影モードの主な設定がフルオートに戻ります。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「撮影モードリセット」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

以下のメッセージが表示されます。　［はい］を選んで、実行ボタンを押します。

●撮影モード（📷）で、シフトボタンを押しながらクイックビュー/消去ボタンを押すと、上記「撮影モードを初期値に戻しますか？」のメッセージが表示されます。撮影モードメニューから選ぶ手間が省略できます。

シャープネス

撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。3段階から選択することができます。

ハード（+）： 輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。
標準： 標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。
ソフト（−）： 輪郭のやわらかな画像になります。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷2」→「シャープネス」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

● 標準以外に設定すると、液晶モニター/ファインダーにはⓈと+または−が表示されます。

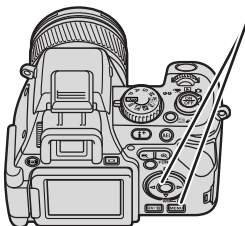
● 画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

写し込み

撮影の年月日または月日時刻を、画像の右下に入れることができます。

年月日：　撮影の年月日が入ります（例：2004.08.20）。

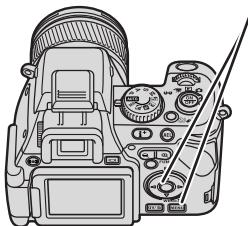
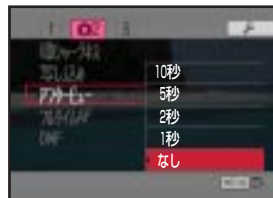
月日時刻：　撮影の月日と時刻が入ります（例：08.20　14:36）。

なし：　写し込みはされません（初期設定）。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「2」→「写し込み」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- 写し込み［なし］に設定していても、撮影時の年月日時刻は記録され、再生時には画面左下に表示されます。
- RAW画像、RAW＋JPEG、および動画では写し込みはできません。

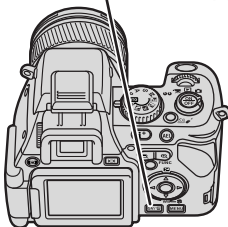
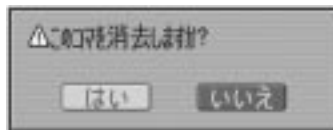
※年月日や時刻、年月日の並びを変更するときは → P.181

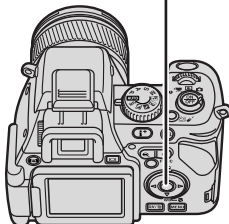
アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を確認したり消去したりすることができます。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷2」→「アフタービュー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

アフタービューなし

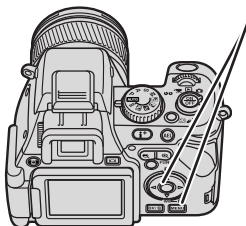
撮影後、すぐに画像が保存され、ライブビュー画面(その時にレンズが向けられている被写体が画面に表示される)に戻ります。初期設定はアフタービューなしです。

アフタービュー 1秒/2秒/5秒/10秒

撮影後、選択した秒数 画像が表示され、その後自動的に保存されます。アフタービュー中に消去や保存を行なうこともできます。

消去するときは、左の画面が現れている間にクイックビュー/消去ボタンを押してください。
下の画面が出たら十字キーの左側で「はい」を選んで、中央の実行ボタンを押すと消去されます。

保存するときは、左の画面が現れている間に、十字キー中央の実行ボタンを押してください。

- 選択した秒数経過後、またはシャッターボタンの半押しでも自動的に保存されます。

- アフタービュー「あり」のとき、連続撮影、高速連続撮影、ブラケット撮影を行なうと、撮影したコマはインデックス表示されます。また前ページの要領で消去の操作を行なうと、撮影したコマはすべて消去されます。

フルタイムAF

フルタイムAFを機能させると、シャッターボタンを半押ししなくても、選択したローカルフォーカスフレームや ✣（フレックスフォーカスポイントのポインタ位置）にピントを合わせ続けます。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷2」→「フルタイムAF」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

（次ページへ続く ☞）

フルタイムAF あり

シャッターボタンを半押ししなくても、選択したローカルフォーカスフレームや ✢（フレックスフォーカスポイントのポインタ位置）にピントを合わせ続けます。フルタイムAFなしの場合と比べて、より速いピント合わせが可能です。

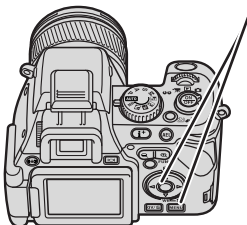
- フルタイムAFなしの場合と比べて、電池寿命がやや短くなることがあります。
- ワイドフォーカスフレームのときは、メニューで「あり」に設定してもフルタイムAFにはなりません。

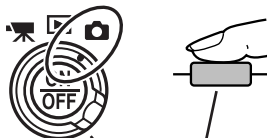
フルタイムAF なし

シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。電池を節約したいときや、静かに撮影したい場合に便利です。初期設定は フルタイムAF なし です。

ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF）

オートフォーカスでピントを合わせた後、手動でピントの微調整ができます。マクロ撮影時などで意図したものとは違う被写体にピントが合った場合などに便利です。

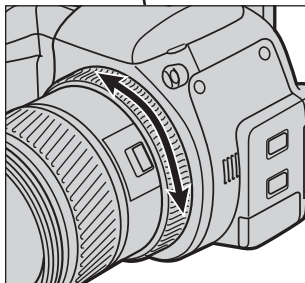
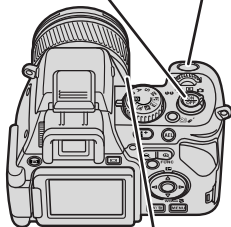
DMF ＝ Direct Manual Focus（ダイレクトマニュアルフォーカス）の略

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷2」→「DMF」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

撮影方法（前ページの要領で［あり］を選んでください。）

1. 撮影モード位置 📷 で、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

- 液晶モニター/ファインダー内にDMFが点灯します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回します。

- 現在のピント位置までの距離が目安として表示されます。∞は無限遠を表します。

- ピント確認のため、オートフォーカスでピントを合わせた付近が約4倍に拡大表示されます。

3. そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。

- シャッターボタンから指を離すと、次に半押しした時に再度ピント合わせが行われます。
- 表示される距離はCCD（撮像素子）からの距離です。　※CCDの位置について → P.50
- コンティニュアスAF（AF-C）設定時は、ピントを固定させることができないので、ダイレクトマニュアルフォーカスはできません。

登録

最もよく使うモードや数値設定等の組み合わせを、5通りまでカメラに登録して、必要に応じて呼び出すことができます。同条件下での撮影を頻繁に行なうときに便利です。
登録機能を使うと、以下の設定すべてが自動的にカメラに登録されます。一部だけの登録はできません。また、以下に記載されている設定以外の登録もできません。

登録できる項目	ページ	補足
画面表示	45	画面内の表示、フォーカシングスクリーンの両方が登録されます。
露出補正・調光補正	52	—
露出モード	57	Aモードでは絞り値が、Sモードではシャッター速度が、Mモードでは絞り値とシャッター速度が同時に登録されます。シーンセレクター、プログラムシフト、マニュアルシフトは登録できません。
ドライブモード	64	ブラケット撮影： ブラケットの種類（露出/ホワイトバランス）と、段数（ずらし量、±0.3/±0.5/WB1/WB2）が同時に登録されます。 連続撮影： 連続撮影の種類（通常/Hi/UHS）が同時に登録されます。 セルフタイマー： 秒数（10秒/2秒）が同時に登録されます。
ホワイトバランス	81	カスタムホワイトバランスも同時に登録されます。
撮像感度	86	—
測光モード	95	—
コントラスト補正	99	—
彩度補正	98	—
フィルター効果	97	カラーフィルターとモノクロフィルターはそれぞれ別に登録できます。
フォーカスフレーム	76	11点ローカルフォーカスエリアの場合は任意の1つが登録されます。また、フレックスフォーカスポイントの場合は画面内のピント位置も同時に登録されます。
フォーカスモード	100	—
画像サイズ	110	—
画質	112	—
フラッシュモード	92	—
調光モード	116	内蔵マニュアル発光の発光量も同時に登録されます。
カラーモード	88	—
シャープネス	120	—

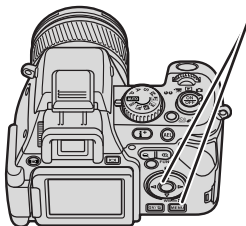
このカメラでは5通りまでの登録が可能です。例えば、1には人物を撮るためのポートレート用の登録、2にはスポーツシーン用の登録、などと使い分けることができます。

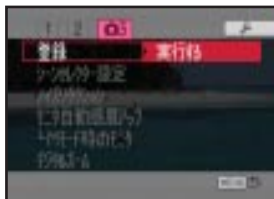
登録

初期設定では、1～5 いずれも未登録（フルオートが登録されている状態）になっています。登録機能を使う場合は、以下の方法で任意の設定を登録してください。

- 1～5 のすべてに登録する必要はありません。登録機能を使わない場合、1つも登録しなくても差し支えありません。
- 登録された内容は、カメラの電源を切っても電池を抜いても保持されています。設定値リセット（→P.192）で未登録状態（1～5 すべてにフルオートが登録されている状態）に戻ります。
- レバーの位置で設定が決まってしまう機能は登録できません。

新しい設定を登録する

1. 撮影モード位置 📷 で、前ページの項目すべてを登録したい状態に設定します。

2. 108ページの要領で、撮影モードメニュー →「 📷3」→「登録」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

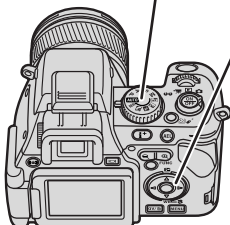
- 液晶モニター/ファインダーには、これから登録しようとしている登録内容一覧と、登録先を選ぶ画面が表示されます。
- メニューボタンを押すと、登録されずに元の撮影モードに戻ります。

（次ページへ続く ☞）

3. 十字キーの左右で登録先の番号を選び、中央の実行ボタンを押します。

● 設定が登録されます。

登録を呼び出す

1. 撮影モードダイヤルをMR（＝Memory Recall、登録呼び出し）に合わせます。

● 最後に呼び出した登録番号が呼び出されます（初期設定では登録1）。登録番号を変更しないときは、このまま撮影できます。

2. 十字キーの左右で、呼び出したい番号を選びます。

● 番号を選ぶと、その番号の登録内容一覧が表示されます。

● 呼び出しを中止するときは、撮影モードダイヤルをMR以外に合わせてください。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

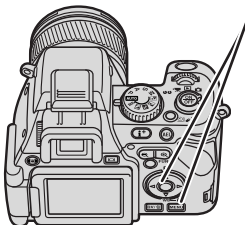
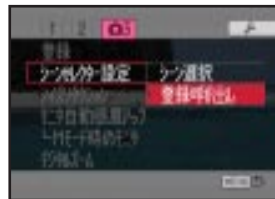
● 設定が呼び出されます。

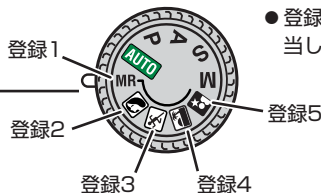
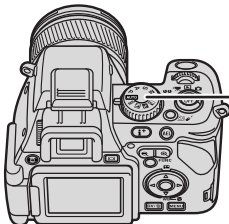
● 登録を呼び出した後、そこからさらに設定の変更を加えることができます。変更を加えた後、前ページの要領で再度それを登録することもできます。改めて登録しない限り、新たに加えた変更が登録されることはありません。

● 続けて別の登録を呼び出す場合は、撮影モードダイヤルを一度 MR以外に変えてから、再度MRに合わせてください。

● 登録の呼び出しを頻繁に行なう場合は、撮影モードダイヤルに直接登録1～5を割り当てることができます。→ P.129

シーンセレクターの設定（登録をダイヤル操作で呼び出す）

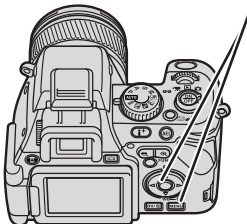
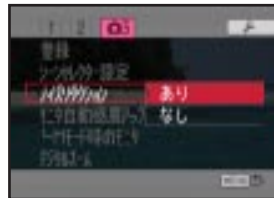
初期設定では、撮影モードダイヤルのシーンセレクター位置（絵表示部分）には、シーンセレクターが設定されています。これを1～5の登録呼び出し番号（→ P.128）に変更することができます。登録を頻繁に使われる場合に便利です。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷3」→「シーンセレクター設定」から「登録呼び出し」を選び、実行ボタンを押します。

呼び出し方法

撮影モード位置 📷 で、撮影モードダイヤルを回して呼び出したい番号（1～5）を選びます。

● 登録1～5は、それぞれ左図の各絵表示に相当します。

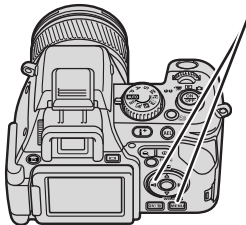
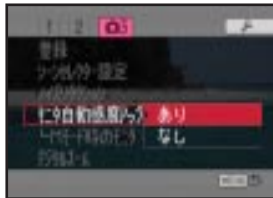
● シーンセレクター設定を［登録呼び出し］に設定していても、新規登録方法は変わりません（→ P.127）。ただし、登録番号は絵表示で表されます。
● シーンセレクター（→ P.48～49）は使えません。

ノイズリダクション

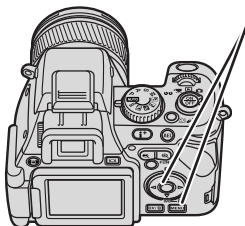
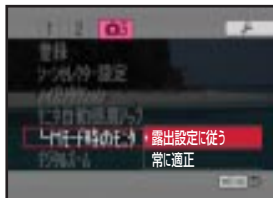
長時間露光時にはノイズが目立ちやすくなります。このカメラでは、シャッター速度が0.5秒以上の場合はノイズリダクション*が機能して、長時間露光時に目立ちやすい粒状ノイズを低減させます。
このノイズリダクションの有無を切り替えることができます。初期設定は「あり」です。

*リダクション = Reduction（低減、削減）

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷3」→「ノイズリダクション」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- ノイズリダクションが「あり」の状態で0.5秒以上の撮影を行なうと、撮影後、最長30秒間ノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われます。この間は液晶モニター/ファインダーが消灯し、次の撮影はできません。
- 高温下での使用や長時間の連続使用などでカメラの温度が上昇すると、0.5秒より短い露光時間でもノイズリダクションが作動する場合があります。この場合も液晶モニター/ファインダーが消灯し、次の撮影はできません。
- ノイズリダクションを「なし」にすると、ノイズ軽減処理が行われません。撮影のタイミングを優先させたい場合に便利です。ただし、長時間露光時にはノイズが目立ちやすくなりますので、ノイズリダクション「あり」をおすすめします。

モニター自動感度アップ

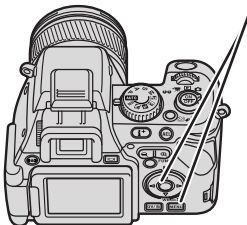
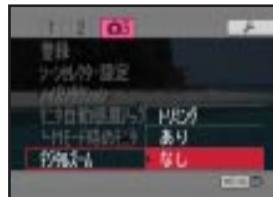
このカメラでは、暗い場所でも液晶モニターを見やすくするため、一定以下の暗さになるとモニターの感度が自動的にアップします（モニター自動感度アップ機能）。この機能の有無を切り替えることができます。初期設定は「あり」です。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷3」→「モニタ自動感度アップ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

● モニター自動感度アップ機能を「なし」にすると、暗い場所で被写体が見にくくなることがあります。

Mモード時のモニター

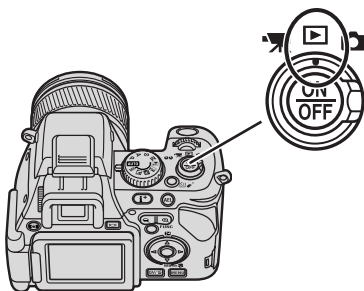
Mモード(→ P.62)でフラッシュが発光しない場合は、露出設定(実際に設定されたシャッター速度と絞り値)に応じて画面の明るさが変化します。撮影される画像の明るさを前もって確認することができます。
初期設定「露出設定に従う」では、このように露出設定に応じて画面の明るさが変化しますが、これを常に一定の明るさ「常に適正」にすることができます。フラッシュを発光させずに暗い被写体を撮影する場合や、PCT-100(別売)を使ってシンクロコード付きフラッシュを使用する場合に便利です。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷3」→「Mモード時のモニタ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

●「常に適正」を選択すると、液晶モニター/ファインダー内のMモードを表す Ⓜ が赤くなり、画面の明るさと実際に撮影される画像の明るさが異なることをお知らせします。また、撮影前のヒストグラムは使えません。

デジタルズーム

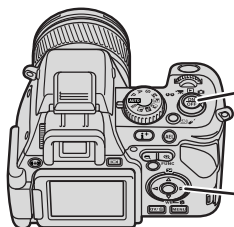
デジタルズーム機能を働かせるかどうかを選びます。
また、デジタルズーム機能を働かせる場合は、デジタルズーム域での撮影時の画像サイズを「トリミング」と「あり」とから選びます。初期設定は「**あり**」です。

トリミング ： デジタルズーム機能は働きますが、拡大倍率は2倍のみとなります。また、画素補間されませんので、2倍デジタルズームで撮影した場合の画像サイズは以下の表のようになります。
あり ： デジタルズーム機能が働きます。1.1倍〜4.0倍まで拡大できます。また画素補間によって、デジタルズーム域で撮影しても画像サイズは変わりません。
なし ： デジタルズーム機能は働きません（光学ズームのみ）。

108ページの要領で、撮影モードメニュー →「📷3」→「デジタルズーム」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

●「トリミング」を選択時、デジタルズームで2倍に拡大した場合の画像サイズは以下のようになります。

<table>
<tr><th>元の画像サイズ</th><th>デジタルズーム後の画像サイズ</th></tr>
<tr><td>3264×2448</td><td>1600×1200</td></tr>
<tr><td>3264×2176 3:2</td><td>1600×1064</td></tr>
<tr><td>2560×1920</td><td rowspan="3">1600×1200</td></tr>
<tr><td>2080×1560</td></tr>
<tr><td>1600×1200</td></tr>
<tr><td>640×480</td><td>640×480</td></tr>
</table>

再生モード

この章では、再生モードでの各種設定について説明しています。モード切り替えレバーは ▶ 位置(再生モード)に合わせてください。

再生モード中は、ファインダー/液晶モニター内の左上に ▶ が現れます。

1コマ再生

再生モードにすると、撮影した画像が液晶モニター/ファインダー内に表示されます。

十字キーの左右で、または、ダイヤルを左右に回して見たい画像を選びます。

古い画像　　新しい画像

- 十字キーを押し続けると（または、ダイヤルを回し続けると）、画像が早送りされます。
- 最新画像を表示中に十字キーの右を押すと（または、ダイヤルを右に1回回すと）、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
- クイックビュー（→ P.42）でも再生モードと同じ操作が可能です（再生モードメニューを除く）。

画面表示の切り替え（▶ 再生モード時）

再生モードおよびクイックビュー時には、表示切り替えボタン、拡大/縮小レバー（縮小（－）側）と十字キーにより、右ページの通り画面の切り替えができます。

- 個々の表示内容については、20、21ページをご覧ください。

1コマ再生（撮影データ表示なし）

上キー

下キー

ヒストグラム（輝度分布）表示

上キー

下キー

表示切り替え
ボタン

1コマ再生（撮影データ表示あり）

下キー

90° 回転（反時計回り）

拡大/縮小レバー
（縮小（－）側）

下キー

下キー

インデックス再生

90° 回転（時計回り）

インデックス再生

9コマ分を一度に液晶モニター/ファインダーに表示します。十字キーの上下左右でコマの移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

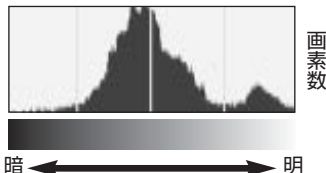
■ 拡大/縮小レバーの－側を押すと、インデックス再生になります。もう一度押すと元に戻ります。

● インデックス中に動画が含まれる場合は、動画撮影開始時の画像が静止画として現れます。

ヒストグラム（輝度）表示

画像のヒストグラム（輝度分布）と撮影データが表示されます。1コマ再生時およびクイックビュー中に、

■ 十字キーの上側を押すとヒストグラム表示になります。下側を押すと元に戻ります。

■ 左右キーを押すとコマを選択することができます。

● ヒストグラム表示の画像中、明るすぎて白く飛んでしまう部分 および 暗くて黒くつぶれる部分が約1秒間隔で点滅して、階調が再現されないことをお知らせします（**白飛び黒つぶれ警告**）。

● 動画のヒストグラム表示はありません。

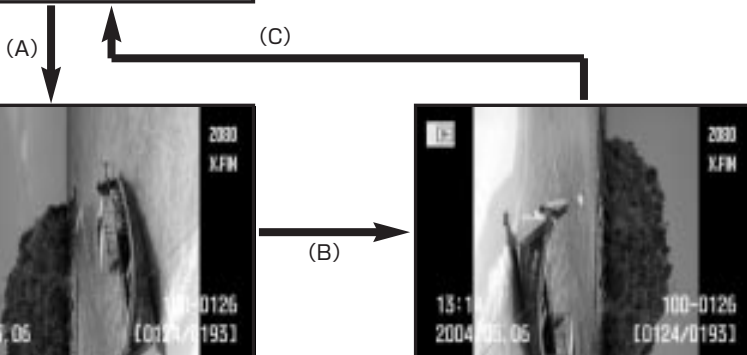
● 撮影前にヒストグラムを確認することもできます（フラッシュ非発光時のみ有効、詳しくは → P.45）。

※ヒストグラムについて → P.47

画像の回転

1コマ再生時およびクイックビュー中に十字キーの下キーを押すと、画像が回転します。カメラ縦位置で撮った画像を見るときに便利です。

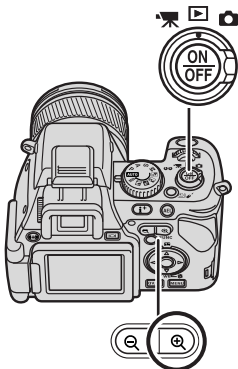
■ 十字キーの下側を1回押すと左方向（反時計回り）に90゚回転します（A）。続けて1回押すと、元の表示から右方向（時計回り）に90゚回転した画像に変わり（B）、さらにもう1回押すと元の表示に戻ります（C）。

■ 動画（動画撮影開始時の画像）は回転できません。

● いったん回転させた後 別のコマを表示させ、再びそのコマの再生に戻ると、回転された状態で再生されます。

● パソコンに取り込んだ画像は、お使いのソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります（付属の DiMAGE Viewer では正しく回転された状態で表示されます）。

● SDメモリーカードをSD-CFアダプターに取り付けてご使用の場合、SDメモリーカードのプロテクトスイッチが「書き込み禁止」位置になっているときは、画像の回転はできません。

拡大再生

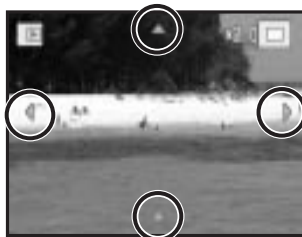
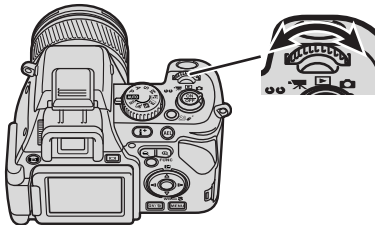
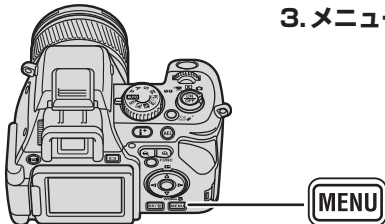
再生モードおよびクイックビュー中に、画像の一部を拡大する（最大10倍）ことができます。

1. 再生モード位置またはクイックビュー中に、拡大/縮小レバーの拡大側を押します。

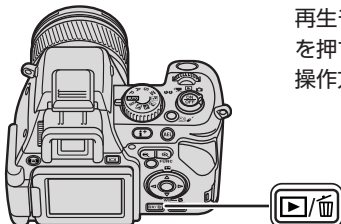
- 画像が拡大されます。最初の拡大倍率は、再生モードメニュー → [▶3] タブ →「開始倍率」で、2倍、4倍、10倍から選ぶことができます（→ P.165）。
- RAW画像 および 動画は拡大再生できません。

2. 十字キーの上下左右で、表示エリアの移動ができます。

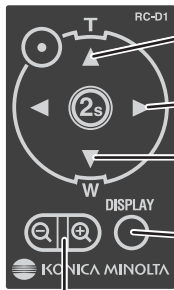
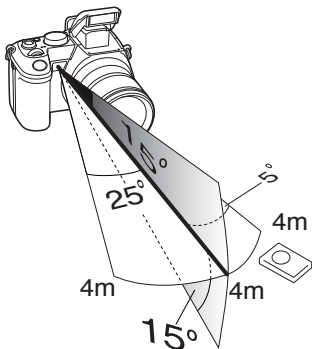
- キーを押すたびに、表示画面の長さの1/8ずつ移動します。シフトボタンを押したまま上下左右の十字キーを押すと、1/4ずつ移動します。

また、拡大/縮小レバーで拡大倍率を変更できます。

- 1.1倍〜10倍の範囲内で、倍率が選択できます。押し続けると連続して倍率が変わります。
- シフトボタンを押したまま拡大/縮小レバーを押すと、倍率を1つ飛ばしで選択できます。

● 拡大再生中にダイヤルを回すと、拡大倍率を保持したまま画像のコマ送り/コマ戻しができます。ただし、オリジナルの画像サイズが異なっていたり、画像の向き(縦横)が異なっている画像を表示させたときは、等倍で表示されます。

3. メニューボタンを押すと、通常の1コマ再生に戻ります。

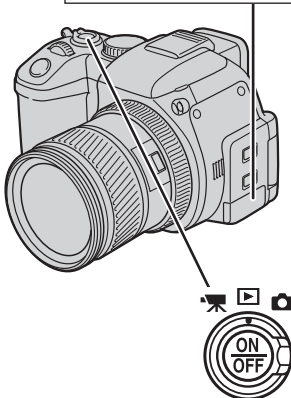
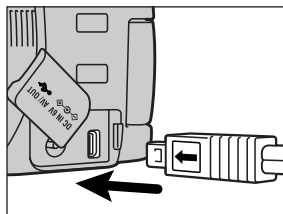
画像を手早く消去する

再生モード位置またはクイックビュー中にクイックビュー/消去ボタンを押すと、画像を1コマずつ簡単に消去することができます。
操作方法についてはクイックビューの項目をご覧ください。→ P.42

再生モード時のリモコン操作

別売のワイヤレスリモコン RC-D1 を使えば、カメラから離れてカメラの操作ができます。

再生モードでカメラに向けてワイヤスリモコンを操作します。

- できるだけカメラの正面に向かってリモコンを操作してください。左図の範囲外から操作すると、リモコンの信号がグリップやレンズにさえぎられて、カメラの受信部まで届かないことがあります。
- また、レンズフードやワイド/テレコンバーターなどのレンズアクセサリーを取り付けている場合、左図の範囲内からの操作であっても、リモコンの信号がさえぎられてカメラの受信部まで届かないことがあります。
- カメラを三脚などに取り付けてから操作してください。
- 逆光時や蛍光灯の近くではリモコン操作できないことがあります。
- カメラ本体のボタンやキーも通常通り使えます。
- 再生モードでのワイヤレスリモコンRC-D1の詳細な動作については、230ページの一覧表をご覧ください。

画像をテレビで見る

付属のAVケーブルAVC-500でカメラとテレビを接続して、撮影した画像をテレビに映して見ることができます。

1.テレビとカメラの電源を切ります。

2.端子カバーを開け、AVケーブルのミニプラグ側を、カメラのAV出力端子に差し込みます。

- ミニプラグ上の ⬅ マークが、カメラの前面側(レンズ側)を向くようにして差し込んでください。

3.AVケーブルのもう一方の、黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子(通常は黄色)に、白色のプラグを音声入力端子(通常は白色)に差し込みます。

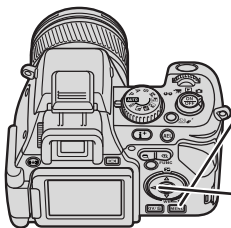
4.テレビの電源を入れ、テレビの[入力切り替え]などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

- 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

5.カメラのメインスイッチを入れ、モードダイヤルを ▶ 位置(再生モード)に合わせます。

- 上記の操作で、カメラの液晶モニターやファインダーに現れる画像が、そのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に表示の切り替え等行なうことができます。
- 動画撮影時の音声はテレビ側から再生されます。
- カメラ背面の液晶モニターやファインダーは点灯しません。
- テレビに映る画像はパソコンの画像と比べると、システムの違いにより画質が多少劣化します。
- 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→ P.182

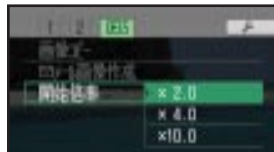
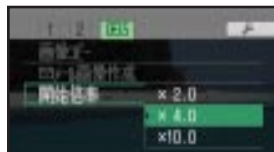
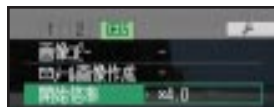
再生モードメニュー

モード切り替えレバーが撮影モード位置 ▶ にあるときにメニューボタンを押すと、次ページの設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

1. 撮影モード位置 ▶ で、メニューボタンを押します。

● メニュー画面が現れます。

2. 十字キーの左右で、▶1～▶3 のいずれかを選びます。

3. 十字キーの上下で、希望の項目を選びます。

4. 十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

5. 十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

6. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

7. メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

- シャッターボタンの半押しでも戻ります。
- 設定中にメニューボタンを押すと、設定が中断され、再生モードに戻ります。

▶1	
消去 (→ P.144)	このコマ フォルダ内全コマ カード内全コマ コマを指定
フォーマット (→ P.146)	実行する
プロテクト (→ P.147)	このコマ フォルダ内全コマ カード内全コマ コマを指定 全コマ取り消し
再生フォルダ (→ P.149)	◎全フォルダ 指定フォルダ
└フォルダ選択 (→ P.149)	(※1)
動画編集(※2) (→ P.150)	実行する

▶2	
スライドショー (→ P.153)	実行する
DPOF指定 (→ P.154)	このコマ フォルダ内全コマ カード内全コマ コマを指定
└日付プリント (→ P.156)	あり ◎なし
└インデックスプリント (→ P.157)	作成する 作成しない
└取り消し (→ P.158)	フォルダ内全コマ カード内全コマ

▶3	
画像コピー (→ P.159)	このコマ コマを指定
メール画像作成 (→ P.162)	このコマ コマを指定
開始倍率 (→ P.165)	◎× 2.0 × 4.0 ×10.0

※1 使用中のCFカード内のフォルダの一覧が表示されます。1つ上の「再生フォルダ」で[指定フォルダ]を選択しないと、この項目は選べません。

※2 「動画編集」は、動画撮影されたコマを再生画面に表示させている場合のみ選択できます。

◎印は初期設定値です。

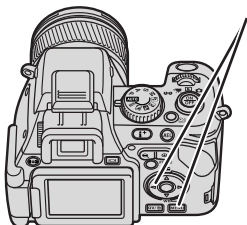
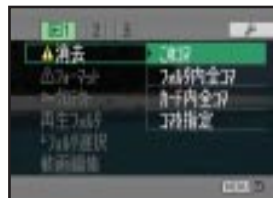
画像の消去

画像を消去します。以下の4通りの消去方法があります。

このコマ（1コマ消去）：再生中の画像を1コマだけ消去します。
フォルダ内全コマ消去：フォルダ内の画像すべてを消去します。
カード内全コマ消去　：CFカード内の画像すべてを消去します。
コマを指定　　　　　：指定した画像だけを消去します。

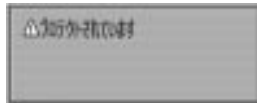
● [フォルダ内全コマ消去] は、[▶1] タブの「再生フォルダ」で [指定フォルダ] を選択している場合に選ぶことができます。149ページに記載の要領で対象となるフォルダをあらかじめ選んでおいてください。

※1コマずつ手早く消去する方法もあります。→ P.43

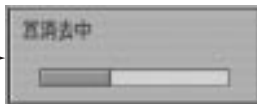
いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. 142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「消去」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

「このコマ」「フォルダ内全コマ」「カード内全コマ」の場合
☞ **3.**の確認画面へ

「コマを指定」の場合
☞ **2.**でコマを指定後、**3.**の確認画面へ

2.「コマを指定」の場合、十字キーで消去するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

消去を指定したコマには［ゴミ箱の絵記号］が表示されます。必要なだけ左記の操作を繰り返します。

上のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止）されています。該当する画像は消去できません。→ P.147

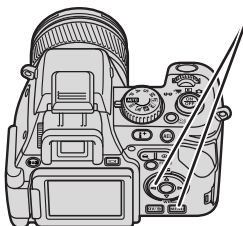
中央で消去画像
の選択を完了

3. 確認後、消去します。（下図は指定コマ消去の場合）

消去完了
メニューボタンで元の画面へ

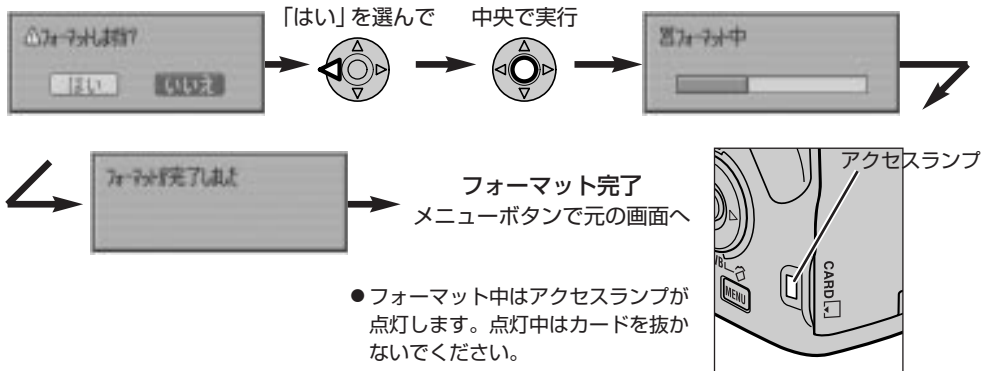
- **3.**の画面で、「はい」を常に先に選択した状態にすることもできます。→ P.197

CFカードのフォーマット（初期化）

カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、CF（コンパクトフラッシュ）カードのフォーマットが便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

1. 142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「フォーマット」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

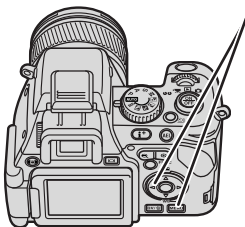
2. 十字キーでカードのフォーマットを行ないます。

● フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はカードを抜かないでください。

● CFカードのフォーマットは、上記の要領でカメラ側で行なってください。パソコンでカードをフォーマットすると、カメラがカードを認識しないことがあります。カメラ以外でフォーマットした場合は、撮影前にカメラで再フォーマットしてください。

プロテクト（誤消去防止）

撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の5通りのプロテクト方法があります。

このコマ（1コマプロテクト） ： 再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。
1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。
フォルダ内全コマプロテクト： フォルダ内の画像すべてにプロテクトをかけます。
カード内全コマプロテクト ： CFカード内の画像すべてにプロテクトをかけます。
コマを指定 ： 指定した画像だけにプロテクトをかけます。
プロテクトを取り消す場合にも使用します。
全コマプロテクト取り消し ： CFカード内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

● ［フォルダ内全コマプロテクト］は、［▶1］タブの「再生フォルダ」で［指定フォルダ］を選択している場合に選ぶことができます。149ページに記載の要領で対象となるフォルダをあらかじめ選んでおいてください。

1. **142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「プロテクト」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。**

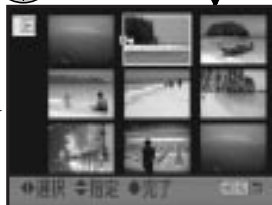
「このコマ」「フォルダ内全コマ」「カード内全コマ」の場合
☞ メニューボタンで元の画面へ

「コマを指定」の場合
☞ **2.**に進んでコマを指定

2.「コマを指定」の場合、十字キーでプロテクトするコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

左右でプロテクトする画像を選択

上キーで画像を指定

下キーで指定を解除

プロテクトを指定したコマには[カギの絵記号]が表示されます。必要なだけ左記の操作を繰り返します。

中央でプロテクト画像の選択を完了

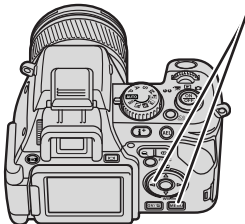
- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

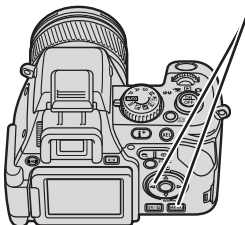
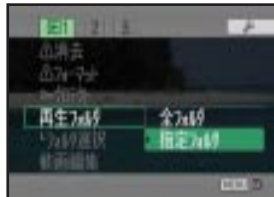
- 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニター/ファインダー内に[カギの絵記号]が表示されます。

再生フォルダの選択

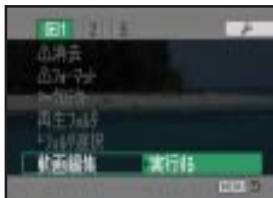
画像を撮影すると、画像ファイルが作成され、カード内のフォルダに保存されます。画像の再生やスライドショー、全コマ消去や全コマプロテクト、DPOF(プリント)指定の取り消しは、カード単位だけではなくフォルダ単位でも行うことができます。
同じCFカード内にフォルダが2つ以上存在する場合、再生モードにすると、初期設定ではすべてのフォルダ内の画像が順に再生されます。特定のフォルダ内の画像を見たい場合や特定のフォルダ内の全コマを消去したい場合などに、一時的にその対象となるフォルダを選ぶことができます。

※フォルダ構成、フォルダ名とファイル名について → P.184〜187

特定のフォルダの選び方

1. 142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「再生フォルダ」から「指定フォルダ」を選び、実行ボタンを押します。

● 「└フォルダ選択」がハイライト(明るく)表示され、カード内のフォルダを選べるようになります。

2. 同じく142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「└フォルダ選択」から希望のフォルダを選び、実行ボタンを押します。

● ここで選んだ再生フォルダは、その時のみ有効です。いったん撮影モードに切り替えると、選んだ再生フォルダは解除され、それまで撮影していたフォルダに戻ります。

動画の編集

撮影済みの動画から不要な部分を消去して新たな動画を作成します。元の動画は、残すことも消去することもできます。

[動画編集] は、動画が撮影されたコマを再生画面に表示させているときに選択できます。

1. 動画が撮影されたコマを再生画面に表示させます。

2. 142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「動画編集」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

● 動画がカメラ内部のメモリに読み込まれた後、編集（消去する部分）の開始点を選ぶ画面が表示されます。

3. 十字キーの左右で、編集（消去する部分）の開始点を指定します。

● 左右キーの右キーを押すたびに映像が1フレームずつ送られ、左キーを押すたびに1フレームずつ戻されます。キーを押し続けると早送り/早戻しされます。

4. 編集（消去する部分）の開始点を指定したら、十字キーの下キーを押します。

● 編集（消去する部分）の終了点を指定する画面（左図）が表示されます。

5. 十字キーの左右で、編集(消去する部分)の終了点を指定します。

- 左右キーの右キーを押すたびに映像が1フレームずつ送られ、左キーを押すたびに1フレームずつ戻されます。キーを押し続けると早送り/早戻しされます。
- 開始点より前の点は選べません。開始点を変更したいときは、十字キーの上キーを押すと前ページ操作**3.**の画面に戻りますので、左右キーで開始点を変更してください。その後、十字キーの下キーを押すとこの画面(左図)に戻ります。

6. 編集(消去する部分)の終了点を指定したら、十字キーの下キーを押します。

- 編集後の動画(消去部分を取り除いた動画)を確認する画面(左図)が現れます。

7. 編集後の動画を再生して確認したいときは、中央の実行ボタンを押します。

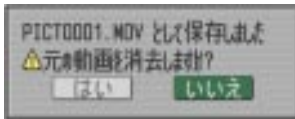
- 編集後の動画(消去部分を取り除いた動画)が再生されます。
- 再生が終わると、再び上記**6.**の画面が表示されます。十字キーの下キーを押して操作**8.**に進んでください。編集後の動画(消去部分を取り除いた動画)を保存する画面が現れます。

編集後の動画を再生しないときは、そのまま十字キーの下キーを押して操作8.に進んでください。

(次ページへ続く ☞)

- 編集後の動画のサイズがカードの残り容量よりも大きい場合は、編集後の動画の保存はできません。

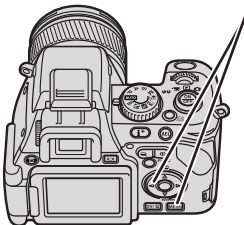
8. 中央の実行ボタンを押します。
以下の画面が表示されますので、十字キーの左右で [はい] か [いいえ] を選んで、実行ボタンを押します。

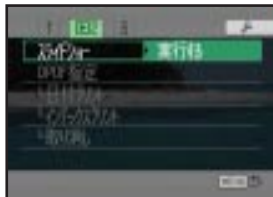
- [いいえ] を選んだときは、編集後の動画は保存されません。画面は操作8.のままですので、メニューボタンを押して、動画編集を終了してください。
- [はい] を選んだときは、編集後の動画が保存されます。保存後は、確認と元の動画を残すか消去するかを選ぶ以下の画面が表示されます。

9. 十字キーの左右で、元の動画を消去するときは [はい] を、残すときは [いいえ] を選んで、実行ボタンを押します。

- メニュー画面に戻りますので、メニューボタンを押して、動画編集を終了してください。

- 編集後の動画に対しても、同様に動画編集を行なうことができます。元の動画から2ヶ所以上の編集を行ないたい場合に便利です。

スライドショー(画像の自動再生)

カードに記録されている画像を、最初から順に5秒ずつ自動的に表示させることができます。
再生フォルダ(→ P.149)として [全フォルダ] を選んでいる場合は、すべてのフォルダ内の画像が順に表示されます。特定の(1つの)フォルダ内の画像だけをスライドショー再生したいときは、149ページに記載の要領で、対象となるフォルダをあらかじめ選んでおいてください。

1. 142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶2」→「スライドショー」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

- スライドショーが開始されます。
- スライドの表示時間(5秒)は変更できません。

スライドショー再生中の操作

十字キー左で巻き戻しができます。

十字キー右で早送りができます。

十字キー中央で、一時停止←→再生開始を繰り返します。

2. スライドショーを終えるときは、十字キーの下キー、または、メニューボタンを押します。

- 元の再生モードに戻ります。
- フォルダ内のすべての画像が再生されると、スライドショーは自動で停止します(繰り返しはされません)。
- 動画もスライドショーで再生されます。

DPOF指定

このカメラでDPOF*指定したCF（コンパクトフラッシュ）カードを、DPOF対応のプリント店に渡せば、画像のプリントをしてもらうことができます。またDPOF対応のプリンタにCFカードをセットすると、パソコンを使わずに直接画像をプリントすることができます。このような場合に、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。

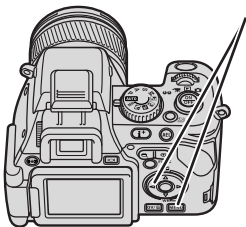
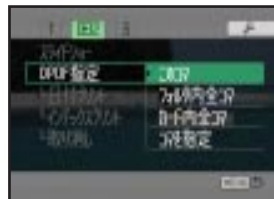
● PictBridge対応プリンタをお使いの場合、カードを取り出さなくても、カメラを直接プリンタに接続してそのままプリントすることができます。→ P.198

*DPOF＝ディーポフ、Digital Print Order Formatの略。CFカード等のメディアに入っているデータのうち、どれを印刷するのかを指定する方法。

DPOF指定

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の4通りの指定方法があります。

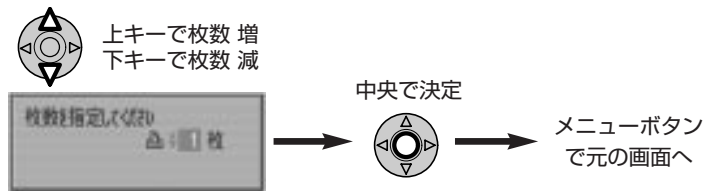
このコマ（1コマプリント）　：再生中の画像を1コマだけDPOF指定します。
フォルダ内全コマプリント　：フォルダ内の画像すべてをDPOF指定します。
カード内全コマプリント　　：CFカード内の画像すべてをDPOF指定します。
コマを指定　　　　　　　　：指定した画像だけをDPOF指定します。

● ［フォルダ内全コマプリント］は、［▶1］タブの「再生フォルダ」で［指定フォルダ］を選択している場合に選ぶことができます。149ページに記載の要領で対象となるフォルダをあらかじめ選んでおいてください。
● RAW画像と動画、およびAdobe RGB（ICC）で撮影した画像にはDPOF指定はできません。

1. 142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶2」→「DPOF指定」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

「このコマ」「フォルダ内全コマ」「カード内全コマ」の場合
☞ **2.**に進んで枚数を指定

「コマを指定」の場合
☞ **3.**に進んでコマと枚数を指定

2.「このコマ」「フォルダ内全コマ」「カード内全コマ」の場合、十字キーの上下で希望の枚数を選んで実行します。

● 1コマプリントの場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。

● フォルダ内全コマプリント、カード内全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0〜9枚）。

3.「コマを指定」の場合、十字キー左右でDPOF指定するコマを指定、十字キー上下で枚数を選び、中央の実行ボタンで実行します。

● コマ指定プリントの場合、各コマごとに希望のプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。

DPOF指定したコマには［プリンタの絵記号］と枚数が表示されます。必要なだけ左記の操作を繰り返します。

DPOF指定

（次ページへ続く ☞）

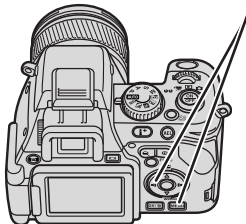
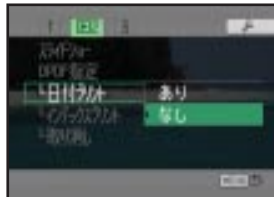
中央でDPOF指定画像の選択を完了

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、DPOF指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

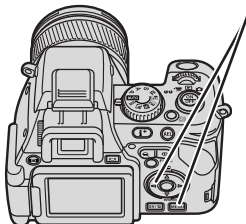
- 再生時、プリント指定された画像には、液晶モニター/ファインダー内に［プリンタの絵記号］と枚数が表示されます。
- 他のデジタルカメラでDPOF指定したカードをこのカメラに入れると、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

日付プリント

プリントする際に、プリンタ側で日付を入れることができます。日付の入る場所（画面内／画面外、サイズ等）は、お使いのプリンタによって異なります。

- プリントされるのは年月日だけです。時刻は入りません。
- プリンタによっては、この機能に対応していないものもあります。
- 画面内右下への日付の写し込み（→ P.121）とは別なので、重ならないようにしてください。

142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶2」→「└日付プリント」から「あり」を選び、実行ボタンを押します。

インデックスプリント

フォルダに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます(インデックスプリント)。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの作成を指定することができます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

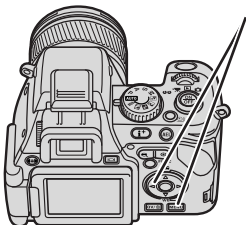
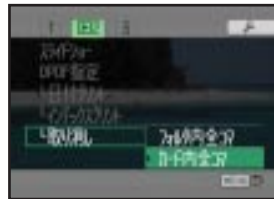
- インデックスプリントの対象となるフォルダは、再生メニュー →「▶1」→「再生フォルダ」の設定に従います(→ P.149)。
- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。動画とRAW画像はインデックスプリントには入りません。
- インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶2」→「└インデックスプリント」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

DPOF（プリント）指定の取り消し

154〜157ページで指定したDPOF（プリント）指定をすべて取り消すことができます。インデックスプリントも取り消されます。

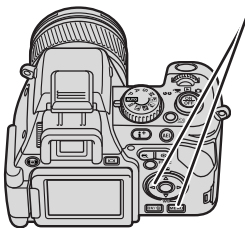
フォルダ内全コマ　：　フォルダ内のすべての画像のDPOF（プリント）指定を取り消します。
カード内全コマ　　：　CFカード内のすべての画像のDPOF（プリント）指定を取り消します。

● ［フォルダ内全コマ］は、［▶1］タブの「再生フォルダ」で［指定フォルダ］を選択している場合に選ぶことができます。149ページに記載の要領で対象となるフォルダをあらかじめ選んでおいてください。

※カードとフォルダの関係について → P.185

142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶2」→「└取り消し」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

画像のコピー

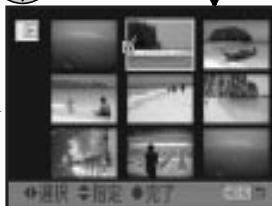
あるCFカードに記録された画像を、別のCFカードにコピーすることができます。

このコマ（1コマコピー）　：　再生中の画像を1コマだけコピーします。
コマを指定　　　　　　　　：　指定した画像だけをコピーします。

1.コピーする画像が入ったCFカードをカメラに入れます。

2.142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶3」→「画像コピー」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

「このコマ」の場合
☞ **4.**に進んでコピー実行

「コマを指定」の場合
☞ **3.**でコマを指定後、**4.**に進んでコピー実行

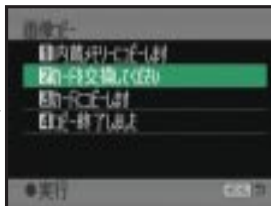
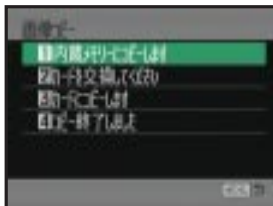
3.「コマを指定」の場合、十字キーでコピーするコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

コピー指定したコマには［チェックマーク］が表示されます。必要なだけ左記の操作を繰り返します。

（次ページへ続く ☞）

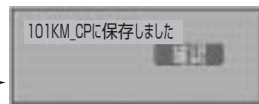
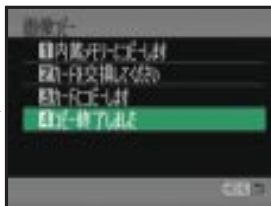
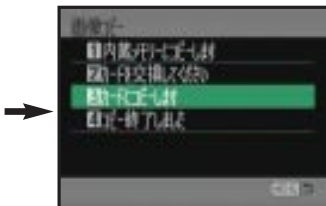
中央でコピーする画像の選択を完了

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、**4.**のコピー実行画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

4. 画面の指示にしたがってコピーを実行します。

この状態でしばらく待ちます。

CFカードを交換した後、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- CFカードを交換せずに同一カード内でコピーすることも可能です。
- メニューボタンで元に戻ります。

この状態でしばらく待ちます。

コピー先のフォルダ名が表示されます。

中央で確認

メニューボタンで元の画面に戻ります。

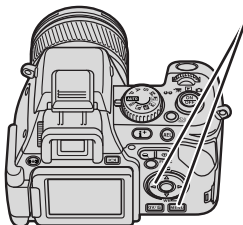
- CFカード内に “KM_CP” のフォルダが新たに作成され、コピーされた画像はその中に保存されています。コピーするたびに新しいフォルダが作成されます。フォルダ名の先頭の3桁の数字はフォルダの通し番号です。詳しくは → P.185、186
（KM = Konica Minolta、CP = Copy の意味）
- コピーした画像が見つからない場合は、再生フォルダの選択で、“101KM_CP”等 後ろ5文字が “KM_CP” のフォルダを選んでください。→ P.149
- 動画もコピーできます。
- プロテクトされた画像をコピーした場合、コピーされた画像にはプロテクトがかかっていません。

コピー中またはコピー後に、液晶モニターに以下のメッセージが現れた場合は

画像が多すぎます 指定し直してください	指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリにコピーできません。画像の数を減らして指定し直してください。
カードに空きが ありません	指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリからCFカードにすべての画像をコピーすることはできませんでした。（一部コピーされた場合もあります。）
サイズが大きすぎます	大きなサイズの動画ファイルを指定してコピーしようとすると、左のメッセージが現れることがあります。指定した画像サイズが大きすぎて内蔵メモリにコピーできません。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続し（→ P.209）、パソコン経由でコピーしてください。

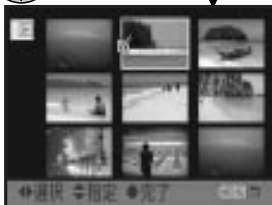
メール画像作成

CFカードに記録された画像から、Eメール添付に適したメール画像（画像サイズ：640×480、画質：スタンダード）を作成します。元の画像はそのまま残ります。

このコマ（1コマ作成）　：　再生中の画像1コマから、メール画像を新たに作成します。
コマを指定　　　　　　：　指定したすべての画像から、メール画像を新たに作成します。

1.元画像が入ったCFカードをカメラに入れ、142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶3」→「メール画像作成」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

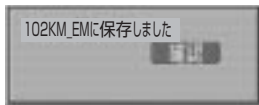
「このコマ」の場合
☞ **3.**の確認画面へ

「コマを指定」の場合
☞ **2.**でコマを指定後、**3.**の確認画面へ

2.「コマを指定」の場合、十字キーでメール画像作成するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

メール画像作成指定したコマには［チェックマーク］が表示されます。必要なだけ左記の操作を繰り返します。

中央でメール画像作成する画像の選択を完了

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、**3.**の確認画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

3. メール画像作成が完了すると、以下の確認画面が現れます。

コピー先のフォルダ名が表示されます。

中央で確認

メニューボタンで元の画面に戻ります。

- 再生時、プリント指定された画像には、液晶モニター/ファインダー内に［メールの絵記号］が表示されます。

メール画像作成

（次ページへ続く ☞）

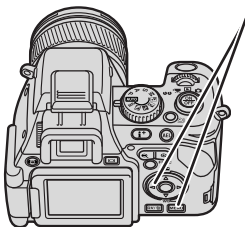
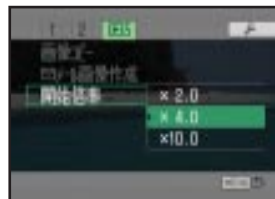
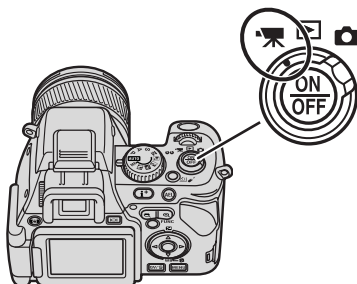
メール画像作成（続き）

- CFカード内に“KM_EM”のフォルダが新たに作成され、作成されたメール画像はその中に保存されています。フォルダ名の先頭の3桁の数字はフォルダの通し番号です。詳しくは → P.185、186
（KM = Konica Minolta、EM = E-mail の意味）
- メール画像作成した画像が見つからない場合は、再生フォルダの選択で、“101KM_EM”等 後ろ5文字が“KM_EM”のフォルダを選んでください。→ P.149
- プロテクトされた画像からメール画像を作成した場合、作成された画像にはプロテクトがかかっていません。

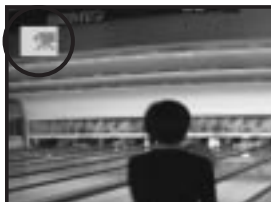
作成中または作成後に、液晶モニターに以下のメッセージが現れた場合は

画像が多すぎます 指定し直してください	指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリにコピーできません。画像の数を減らして指定し直してください。
作成できません	指定した画像がカードの容量を超えているか、動画 あるいは すでに作成済みのメール画像で、メール画像を作成できません。

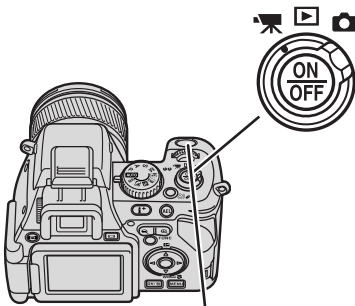
開始倍率

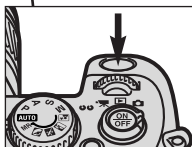
拡大再生(→ P.138)で最初の拡大倍率(通常再生から拡大/縮小レバーの拡大側を1回押したときの拡大再生倍率)を、2倍、4倍、10倍から選びます。初期設定は2倍(× 2.0)です。

142ページの要領で、再生モードメニュー →「▶3」→「開始倍率」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

動画撮影モード

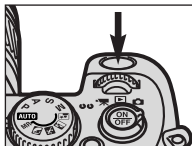
この章では、動画撮影モードでの各種設定について説明しています。モード切り替えレバーは 位置（動画撮影モード）に合わせてください。

● 動画の再生は、再生モード で行ないます。

動画撮影モード中は、ファインダー/液晶モニター内の左上に が現れます。

動画撮影

動画の撮影を行なうことができます。音声(モノラル)も同時に記録されます。

1. モード切り替えレバーを 🎥 に合わせます。

● 液晶モニター/ファインダーに、撮影可能な残り時間(分:秒)が表示されます。

2. シャッターボタンを押して撮影を開始します。

● 撮影中は ● Rec が表示されます。右下の数値は撮影可能な残り時間です。

3. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● カードがいっぱいになると、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

● 動画のファイルサイズは、初期設定(画像サイズ 640×480、15fps)で1秒あたり約580KBです。128MBのCFカードには、約3分49秒間記録することができます。

※その他の設定でのファイルサイズおよび記録時間について → P.114

● 撮影時間は最長で約15分です。

● 暗い場所で動画撮影を行なうと、撮影時間が短くなることがあります。

動画撮影時の設定について

撮影中も切り替え可能	光学ズーム(ズームリングによるズーム、下記注参照)、デジタルズーム、マクロ撮影
撮影前に設定可能、撮影中は切り替え不可	画像サイズ、フレームレート、手ぶれ補正機能の入/切、画面表示の切り替え、露出補正、ホワイトバランス※、フィルター、液晶モニターとファインダーの切り替え、フォーカスモード(AF⟷MF)、MFでのピント合わせ
動画時は設定は固定	ファイル形式(Motion JPEG / MOV)、露出モード(Pモード)、撮像感度(オート)、測光モード(中央重点的平均測光)
動画時は設定は不可	シーンセレクター、フラッシュ、スポットAEロック、フルタイムAF、マニュアルフォーカス時のピント確認、ダイレクトマニュアルフォーカス

※カスタムホワイトバランス値は、静止画と動画とで別々の設定になります。

ズームについて

- 動画撮影中に光学ズーム(ズームリングによるズーム)を行なうと、レンズ鏡銅がこすれる音(ザーという音)が録音されます。

ピントについて

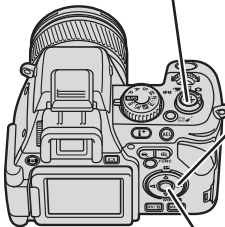
- ピントは画面の中央部分の被写体に合います。また動画撮影中もピント合わせは行われ続けます。

その他

- カードへの記録速度の関係上、カードによっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。
- 動画撮影モードでのワイヤレスリモコンRC-D1の詳細な動作については、230ページの一覧表をご覧ください。

動画の再生

撮影した動画を再生します。

1. モード切り替えレバーを再生モード位置 ▶ に合わせます。

2. 十字キーの左右で再生したい動画を選びます。

- 動画撮影開始時の静止画像が表示されます（右上図）。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、動画再生を開始します。

- 右上の数値は経過秒数です。
- 音声も同時に再生されます。

再生中の操作

十字キー左で早戻し
十字キー右で早送り

十字キー上下で音量の調節
再生一時停止中は、上キーで静止画切り出し画面に

十字キー中央で
一時停止・再生開始の繰り返し

表示切り替えボタンで
表示の有無の切り替え

最後まで再生されると、自動的に動画開始画面に戻ります。

- 途中で終えるときは、メニューボタンを押してください。

- 動画再生中は、十字キーの左右でコマの切り替えを行なうことはできません。
- 動画のヒストグラム表示や拡大再生はできません。

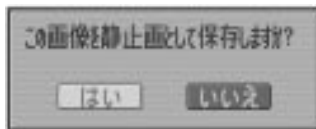
動画から静止画を切り出す(セレクトショット)

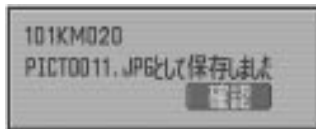
撮影済みの動画からお気に入りの画面(シーン)を静止画として切り出して保存できます。

1. 動画を再生し、静止画として保存したい画面(シーン)で十字キー中央の実行ボタンを押します。

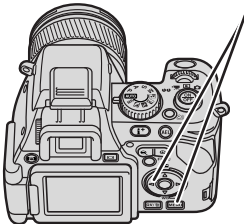
- 動画再生が一時停止します。
- 十字キーの左右を押すと、静止画として保存したい画面(シーン)を選ぶことができます。

2. 十字キーの上キーを押します。

- 右図のメッセージが現れます。

3. 十字キーの左で [はい] を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 保存確認(保存先フォルダ名と保存ファイル名)のメッセージが現れます。
- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、動画再生の一時停止状態に戻ります。必要なら、**1.**〜**3.** の操作を繰り返してください。

- この操作で保存された静止画の画像サイズは、再生していた動画の画像サイズと同じです。
- この操作で保存された静止画の画質は、スタンダード相当になります。ただし、動画の圧縮率と静止像の画質とは一致しませんので、切り出された静止画には画質の情報は記録されていません。

画像サイズ（動画撮影メニュー）

動画の画像サイズを指定することができます。800×600や640×480に設定すると、高解像度の動画が得られます。320×240では長時間の撮影が可能です。

1. 動画撮影モード位置 で、メニューボタンを押します。

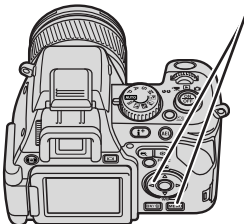
● 動画撮影メニューが現れます。操作方法は撮影モードメニューと同じです。

2. 108ページの3.～5.の要領で、「 1」→「画像サイズ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押して決定します。

● メニューボタンを押すか、または、シャッターボタンを半押しすると元の画面に戻ります。

フレームレート（動画撮影メニュー）

初期設定のフレームレート15fps*では、1秒間に15コマの画像が記録されます。30fpsにすると、テレビと同等のなめらかな動きの画像を得ることができます（ファイルサイズは大きくなります）。

*fps ＝ Frame per second（1秒間当たりのフレーム数）

1. 動画撮影モード位置 で、メニューボタンを押します。

● 動画撮影メニューが現れます。操作方法は撮影モードメニューと同じです。

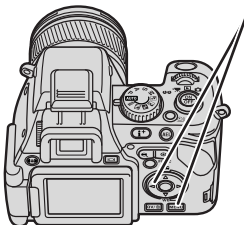
2. 108ページの3.～5.の要領で、「 1」→「フレームレート」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押して決定します。

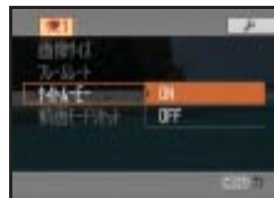
（次ページへ続く ☞）

フレームレート(動画撮影メニュー)(続き)

- 動画の画像サイズに800×600を選んだときは、フレームレートは15fps固定となります(変更できません)。
- メニューボタンを押すか、または、シャッターボタンを半押しすると元の画面に戻ります。
- 画像サイズ800×600、または、画像サイズ640×480/320×240でフレームレート30fpsの設定で動画撮影する場合は、データ転送速度10MB/秒以上のCFカードのご使用をおすすめします。

ナイトムービー(動画撮影メニュー)

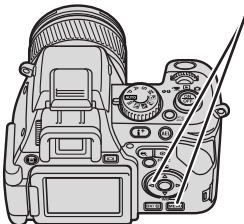
暗い場所で動画撮影する際は被写体が見にくくなります。ナイトムービーを [ON] にして感度を上げると、暗い場所でもモニター画面や撮影画像が見やすくなります。

1. 動画撮影モード位置🎥で、メニューボタンを押します。

- 動画撮影メニューが現れます。操作方法は撮影モードメニューと同じです。

2. 108ページの3.～5.の要領で、「🎥1」→「ナイトムービー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押して決定します。

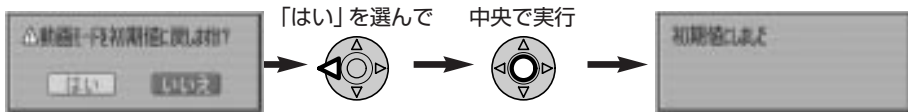
- メニューボタンを押すか、または、シャッターボタンを半押しすると元の画面に戻ります。
- ナイトムービー [ON] でも、液晶モニター/ファインダー画面はカラーのままです。
- ナイトムービーを [ON] にすると、暗い場面ではノイズが増加し、多少ざらついた感じになることがあります。

動画モードリセット(動画撮影メニュー)

動画モードリセットを行なうと、カメラの動画撮影モードの主な設定がフルオートに戻ります。

● 撮影モードリセット(→ P.119)が静止画用のリセットであるのに対し、こちらは動画用のリセットモードです。静止画には影響しません。

1. 動画撮影モード位置 で、メニューボタンを押します。

● 動画撮影メニューが現れます。操作方法は撮影モードメニューと同じです。

2. 108ページの3.~5.の要領で、「 1」→「動画モードリセット」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

● 動画モードリセットを実行すると、以下の項目が(　)内の状態にリセットされます。

・動画の露出補正(±0)
・動画の手ぶれ補正(作動)
・動画のホワイトバランス(オート)
・ナイトムービー(ON)
・動画のコントラスト補正(±0)
・フォーカスモード(オートフォーカス)
・動画のフィルター(±0)
・動画の画像サイズ(640×480)
・フレームレート(15fps)
・動画の彩度補正(±0)

SHIFT

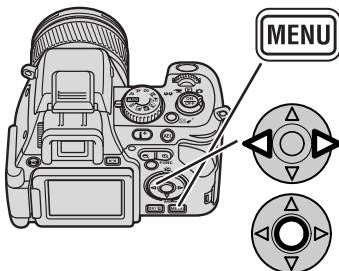
● 動画撮影モード( )で、シフトボタンを押しながらクイックビュー/消去ボタンを押すと、上記「動画モードを初期値に戻しますか?」のメッセージが表示されます。動画撮影モードメニューから選ぶ手間が省略できます。

セットアップモード

この章では、セットアップモードでの各種設定について説明しています。メニューが表示されている時に、を選択して十字キー中央の実行ボタンを押すと、セットアップモードに入ることができます。

- 撮影モード・再生モード・動画撮影モードのいずれのメニューからでも可能です。
- シフトボタンを押しながらメニューボタンを押すと、すぐにセットアップモードに入ることができます。

セットアップモードメニュー

セットアップモードには、どのモードからでも入ることができます。177ページの設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

1. メニューボタンを押します。

● メニュー画面が現れます。

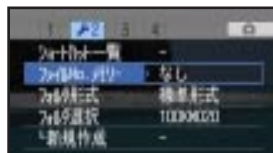
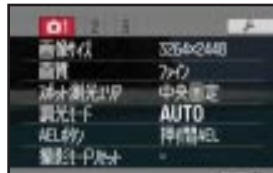
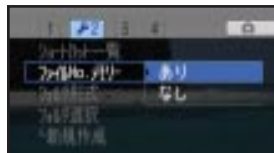
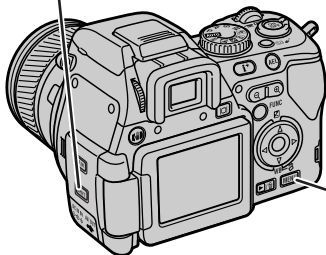
2. 十字キーの左右で、を選び、実行ボタンを押します。

● セットアップメニュー画面が現れます。

3. 十字キーの左右で、1～4のいずれかを選びます。

4. 十字キーの上下で、希望の項目を選びます。

5. 十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

（次ページへ続く ☞）

6. 十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

7. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

メニューボタンを押すか、のいずれかを選んで実行ボタンを押すと、元のモードに戻ります。

SHIFT

MENU

前ページ**1.**、**2.**の手順の代わりに、本体側面のシフトボタンを押しながらメニューボタンを押すと、すぐにセットアップメニューに入ることができます。

🔧1	
モニター明るさ (→ P.178)	モニター EVF
コンバーター (→ P.179)	◎なし ワイドコンバーター テレコンバーター
USB接続 (→ P.180)	◎マスストレージ PTP
日時設定 (→ P.181)	実行する
ビデオ出力 (→ P.182)	NTSC PAL
言語/Lang. (→ P.182)	(現在設定されている言語)

🔧2	
ショートカット一覧 (→ P.183)	表示する
ファイルNo.メモリー (→ P.187)	あり ◎なし
フォルダ形式 (→ P.188)	◎標準形式 日付形式
フォルダ選択 (→ P190)	(※1)
└新規作成 (→ P190)	実行する

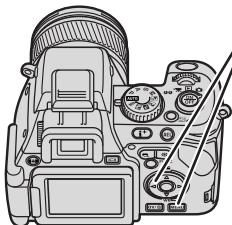
※1 使用中のCFカード内のフォルダの一覧が表示されます。

🔧3	
設定値リセット (→ P.192)	実行する
操作音 (→ P.194)	◎音1 音2 なし
AF音 (→ P.194)	◎音1 音2 なし
シャッター音 (→ P.194)	◎音1 音2 なし
音量 (→ P.194)	3（大きい） ◎2 1（小さい） 0（消音）
パワーセーブ (→ P.195)	10分 5分 ◎ 3分 1分

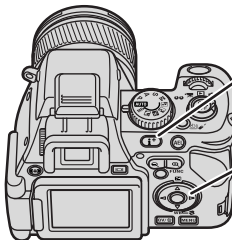
🔧4	
手ぶれ補正 (→ P.196)	◎標準 露光中のみ
消去確認画面 (→ P.197)	“はい” が先 ◎ “いいえ” が先

◎印は初期設定値です。

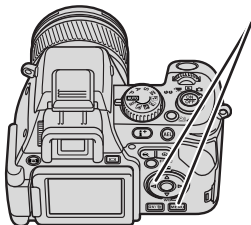
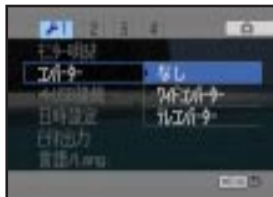
液晶モニターとファインダー（EVF）の明るさ調整

液晶モニターとファインダー（EVF）の明るさを11段階から調整することができます。

1. 175～176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「モニター明るさ」から［モニター］（液晶モニター）または［EVF］（ファインダー）を選び、実行ボタンを押します。

2. 十字キーの左右で、モニターの明るさを調整します。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、モニターの明るさを決定します。

表示切り替えボタンを押し続けても、上の明るさ調整画面が現れます。十字キー左右で調整後、中央の実行ボタンを押してください。セットアップメニューに入る必要はありません。

コンバーター

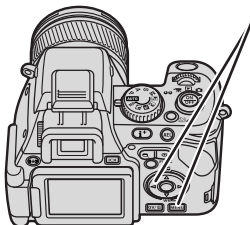
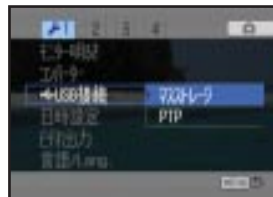
別売アクセサリーの ワイドコンバーター ACW-100、または、テレコンバーター ACT-100をこのカメラに取り付けて使用する場合、取り付けたコンバーターをこのメニューで指定することで、カメラがそれぞれのコンバーターに適した状態に設定されます。詳しくは、ワイドコンバーター ACW-100 / テレコンバーター ACT-100 の使用説明書をお読みください。

175〜176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「コンバーター」から [取り付けたコンバーター] を選び、実行ボタンを押します。

● 撮影モードに戻ると、このメニューで選んだアクセサリーの絵記号が液晶モニター/ファインダーの上部に表示されます。

ワイドコンバーター

テレコンバーター

USB接続の種類

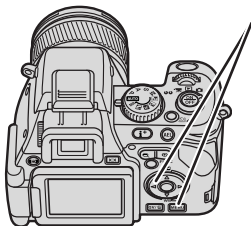
カメラをUSBケーブルでパソコン等に接続する際の、接続の種類を選ぶことができます。

マスストレージ	カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む時に使用します。 カメラがUSBマスストレージとしてパソコンに認識されます。
PTP	撮影した画像をPictBridge対応のプリンタで印刷する場合や、その他のPTP対応機器に転送する場合に使用します。 ※PictBridge対応のプリンタでの印刷方法について → P.198 *PTP ＝ Picture Transfer Protocolの略。画像ファイルの転送における通信上の決まり（通信プロトコル）のひとつ。

175～176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「USB接続」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

日時設定

日時や年月日の並び順の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。

●2100年までの日付が記憶されており、撮影のたびに数値を設定する必要はありません。

「日付/時刻を設定してください」のメッセージが出たときは

日時の設定が失われています。このメッセージが現れたら、以下の**2.**、**3.**の手順で日時を再設定してください。[はい]を選んで十字キー中央の実行ボタンを押すと、日時設定画面が現れます。

1.175～176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「日時設定」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

●日時設定画面が現れます。

2.十字キーで、日時と年月日の並び順を設定します。

左右で項目を選択

上下で選択

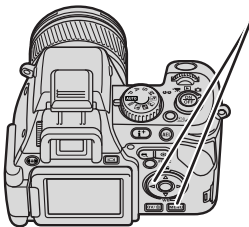
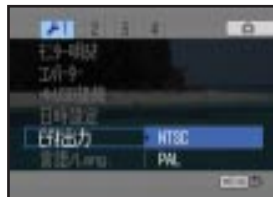
必要なだけこの操作を繰り返します。

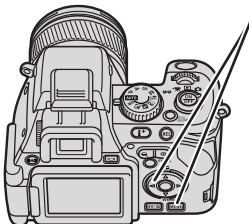
●十字キー(上/下)を押し続けると、数値が早送りされます。

●メニューボタンを押すと、設定した数値はキャンセルされ元の画面に戻ります。

3.十字キー中央の実行ボタンを押すと、時計がスタートします。

ビデオ出力形式の切り替え

ビデオの信号形式にはいくつかの方式があり、国や地域によって異なります。日本やアメリカ、韓国等ではNTSC方式、ヨーロッパの多くの国々(フランスを除く)やオーストラリア、中国等ではPAL方式が採用されており、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

175〜176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「ビデオ出力」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

言語設定

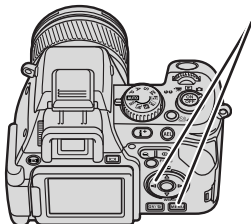
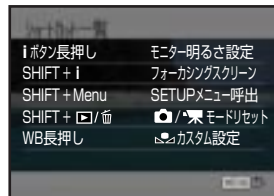
液晶モニターやファインダーに表示される言語を、8カ国語の中から選ぶことができます。

1. 175〜176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「言語/Lang.」から十字キーの右キーで右側に移動し、実行ボタンを押します。

- 言語設定画面が現れます。

2. 上下左右の十字キーで希望の言語を選び、実行ボタンを押します。

●選べる言語は以下の通りです。
- ・日本語
- ・英語（**English**）
- ・ドイツ語（**Deutsch**）
- ・フランス語（**Français**）
- ・スペイン語（**Español**）
- ・中国語（中文）
- ・イタリア語（**Italiano**）
- ・スウェーデン語（**Svenska**）

ショートカット一覧

このカメラは、特定のキー（ボタン）を押し続けたり、複数のキー（ボタン）を同時に押すことで、メニューで選ぶことなくすばやく設定を切り替えることができます（ショートカットキー）。どのキー（ボタン）とキー（ボタン）とでどの設定を変更できるか、一覧を表示させることができます。

175～176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「ショートカット一覧」から「表示する」を選び、実行ボタンを押します。

（次ページへ続く ☞）

ショートカット一覧（続き）

液晶モニター表示		説明	ページ
i ボタン長押し	モニター明るさ設定	液晶モニター、または、ファインダー（EVF）の明るさを調整する（その時に画像を表示させている方）	178
SHIFT ＋ i	フォーカシングスクリーン	フォーカシングスクリーン（画面の背景表示、標準/方眼/目盛り線）を切り替える	46
SHIFT ＋ Menu	SETUPメニュー呼出	セットアップモードメニューを呼び出す	174 176
SHIFT ＋ ▶/🗑	📷/🎥 モードリセット	撮影モードリセット、または、動画モードリセットを行なう（その時に選択しているモードの方）	119 173
WB長押し	カスタム設定	ホワイトバランスのカスタム設定を行なう	83

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、CFカード内のフォルダに保存されます。カード内の主なファイルとフォルダの構成は右ページの通りです。これらのファイルやフォルダは、カメラをパソコンに接続すると見ることができます。→ P.209

カード
DCIM
100KM020
撮影した画像の入るフォルダ
PICT0001.JPG
スタンダード・ファイン・エクストラファインの場合、JPEGファイルが1つ作成されます。
PICT0002.MRW
PICT0002.THM
RAWの場合、RAWファイルとサムネールファイルが作成されます。RAW＋JPEGの場合は、サムネールの代わりにJPEGが作成されます。
PICT0003.MOV
PICT0003.THM
動画の場合、MOV(動画)ファイルとサムネールファイルが作成されます。
PICT0004.JPE
PICT0004.THM
カラープロファイルを埋め込んだJPEGファイルの場合、拡張子は .JPEになり、サムネールファイルも作成されます。
101KM_CP
コピーされた画像は"KM_CP"というフォルダに入ります。→ P.159〜
102KM_EM
メール用として作成された画像は"KM_EM"というフォルダに入ります。→ P.162〜
10340820
日付別にフォルダを作成することもできます。→ P.188
104KM020
(新規フォルダ)
新規フォルダを作成して、撮影した画像をその中に記録していくことも可能です。→ P.190〜
●新規作成フォルダの後半5文字は "KM020" になります。前半3文字(の数字)は、同じCFカード内のフォルダの通し番号の最も大きい番号に1を加えた数字(左の例では "104")になります。
MISC
DPOF(プリント)指定を行なうと作成されます。→ P.154〜
●削除すると設定したプリント指定が取り消されます。

(次ページへ続く ☞)

フォルダ名とファイル名

フォルダ名について

標準形式の例：100 KM020
- フォルダの通し番号（100～）：100
- 識別文字：KM020

日付形式の例：101 40820
- フォルダの通し番号（100～）：101
- 年（西暦の下1桁）月日：40820

フォルダ名は、標準形式の場合、“フォルダの通し番号3桁”＋“識別文字5文字”
日付形式の場合、“フォルダの通し番号3桁”＋“年（西暦の下1桁）月日”となります。
フォルダ番号（フォルダの通し番号）は100から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
標準形式の場合、識別文字は“KM020”です。“KM”はコニカミノルタを、“020”はこのカメラ（DiMAGE A200）を意味します。
標準形式/日付形式いずれのフォルダの場合も、画像をコピーすると“KM_CP”、メール画像を作成すると“KM_EM”という識別文字のフォルダが作成されます。
新規フォルダを作成することもできます。作成されるフォルダ名は、識別文字は“KM020”、通し番号は、同じCFカード内の最も大きいフォルダ通し番号に1を加えた番号になります（前ページの例では“104KM020”）。

- 標準形式フォルダの識別文字5文字、および、日付形式フォルダの年月日5文字は、カメラをパソコンに接続してカードの内容を表示させたとき、または、カメラで再生してヒストグラムを表示させたとき（→ P.136）に確認できます。
- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（→ P.209～）、カメラ側でカードをフォーマットしてください（→ P.146）。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG

ファイル番号（0001～）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

- カメラ側で消去された画像のファイル番号は欠番となります。フォルダ内の画像をすべて消去すると、ファイル番号は再び“0001”から始まります（初期設定のファイルNo.メモリーなしの場合、→ P.187）。
- “PICT9999”まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（前ページの場合だと“105KM020”）、その中で再び“PICT0001”から画像の記録が開始されます。
- 各フォルダ内では、常にファイル名は“PICT0001”から（すでにファイルが存在する場合はその次の番号から）始まります（初期設定のファイルNo.メモリーなしの場合、→ P.187）。

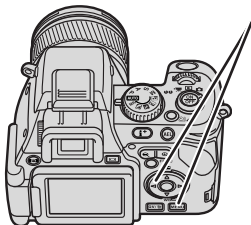
※続き番号にするには → ファイルNo.メモリーを「あり」にする、P.187

- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

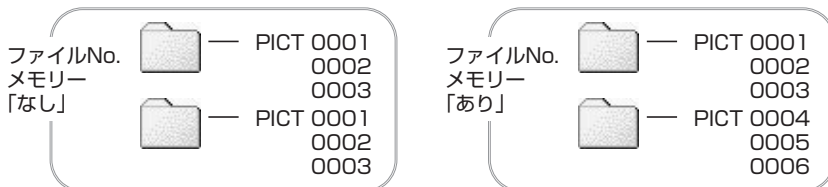
ファイルNo.メモリー

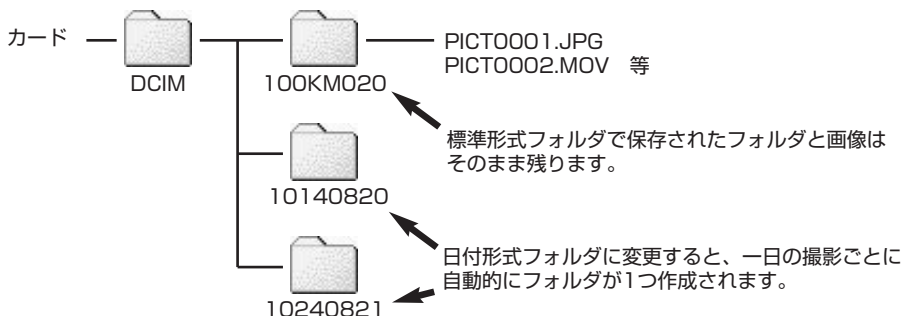
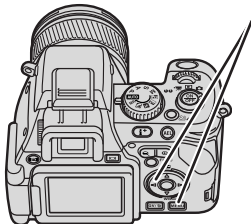
フォルダが変わると、初期設定のファイルNo.メモリー「なし」では、ファイル名は再び "PICT0001" から始まります。これを続き番号にすることができます。

なし：ファイルNo.メモリーは機能しません。撮影フォルダを変えたり、日付形式フォルダで日付が変わってフォルダが変わったりすると、ファイル番号は0001に戻ります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。

あり：ファイルNo.メモリーが機能します。フォルダの変更、全画像の消去、カードの交換やフォーマットを行なっても、ファイル番号はそのまま続きます。

175～176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「ファイルNo.メモリー」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

（次ページへ続く ☞）

イメージ図

フォルダを日付別に分ける(日付形式フォルダ)

初期設定の標準形式フォルダ(100KM020等)を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存や再生を行なうことができます。

173〜174ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「フォルダ形式」から「日付形式」を選び、実行ボタンを押します。

- 撮影した画像は必ず日付別のフォルダに保存されます。撮影フォルダの選択（→ P.190）はできません。他のフォルダの画像を再生するには、一時的に再生フォルダを選択してください。→ P.149
- 新規フォルダの作成（→ P.191）で、日付形式のフォルダを作成することはできません。
- 初期設定では、フォルダが変わるたびに中のファイル番号はPICT0001に戻ります。

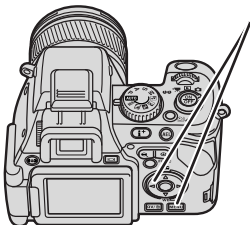
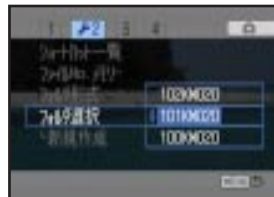
※続き番号にするには → ファイルNo.メモリーを「あり」にする、P.187

日付形式フォルダにした場合の再生について

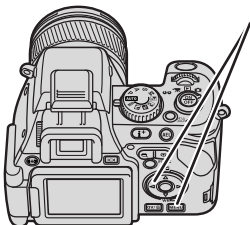
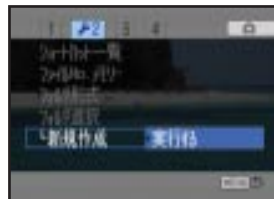
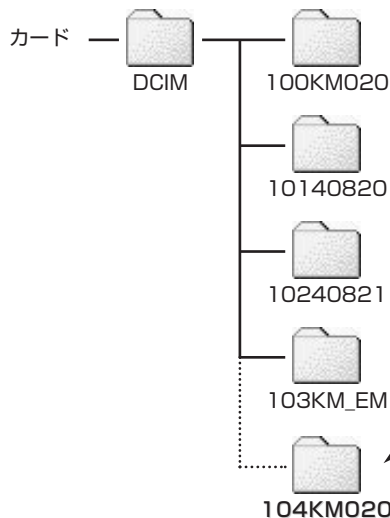
このカメラでは、再生モードで初期設定ではすべてのフォルダの画像が順に再生されます。日付形式フォルダで撮影し、その中のある特定の日に撮影した分の画像を見たい場合は、再生フォルダの選択で見たい日のフォルダを選択してください。

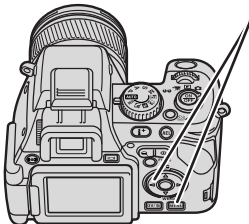
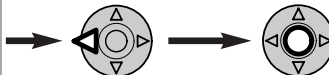
※再生フォルダの選択 → P.149

フォルダ選択

同じCFカード内にフォルダが2つ以上存在する場合、撮影した画像が保存されるフォルダ（撮影フォルダ）を選ぶことができます。

175〜176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「フォルダ選択」から希望のフォルダを選び、実行ボタンを押します。

新規フォルダの作成

ご自分で新規に撮影フォルダを作成することができます。

- 作成されるフォルダ名は自動的に決まります。→ 次ページ参照
- 日付形式フォルダ（→ P.188）と併用することはできません。日付形式フォルダにしていると、撮影した画像は新規フォルダでなく常に日付形式フォルダに保存されます。

175〜176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「新規作成」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

作成されるフォルダ名は、識別文字は“KM020”、フォルダ(の通し)番号は、同じCFカード内の最も大きいフォルダ(通し)番号に1を加えた番号になります。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定に戻すことができます。

175～176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「3」→「設定値リセット」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

リセットされる内容は以下の通りです。

ダイヤルやボタンで設定するもの

項目	設定	ページ
画面表示(撮影時)	撮影データあり 標準	45 46
画面表示(再生時)	撮影データ表示あり	135
露出補正	±0	52
調光補正	±0	52
手ぶれ補正	作動	56
ドライブモード	1コマ撮影	64
セルフタイマー撮影	10秒セルフタイマー	66
ブラケット撮影	露出ブラケット0.3	71
連続撮影	通常連続撮影	73
フォーカスエリア	ワイドフォーカスエリア	76
ホワイトバランス	オート(自動設定)	81
プリセットホワイトバランス	昼光	82
撮像感度	オート(自動設定)	86

項目	設定	ページ
カラーモード	ナチュラル(sRGB)	88
フラッシュモード	通常発光	92
測光モード	多分割測光	95
フィルター効果	±0	97
彩度補正	±0	98
コントラスト補正	±0	99
フォーカスモード	ワンショットAF	100

項目	設定	ページ
カスタムホワイトバランス	1., 2.とも昼光	83
登録	1~5すべて「フルオート」	127

撮影モードメニュー

項目	設定	ページ
画像サイズ	3264×2448	110
画質	ファイン	112
スポット測光エリア	中央固定	116
調光モード	自動	116
AELボタン	押す間AEL	118
シャープネス	標準	120
写し込み	なし	121
アフタービュー	なし	122
フルタイムAF	なし	123
DMF	なし	124
シーンセレクター設定	シーン選択	129
ノイズリダクション	あり	130
モニター自動感度アップ	あり	130
Mモード時のモニター	露出設定に従う	131
デジタルズーム	あり	132

再生モードメニュー

項目	設定	ページ
再生フォルダ	全フォルダ	149
日付プリント	なし	156
開始倍率	× 2.0	165

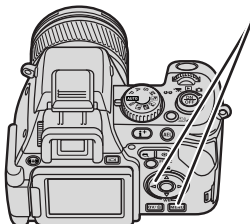
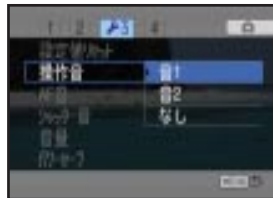
動画撮影メニュー

項目	設定	ページ
画像サイズ	640×480	171
フレームレート	15 fps	171
ナイトムービー	ON	172

セットアップモードメニュー

項目	設定	ページ
モニター明るさ	標準	178
EVF明るさ	標準	178
コンバーター	なし	179
USB接続	マスストレージ	180
ファイルNo.メモリー	なし	187
フォルダ形式	標準形式	188
操作音	音1	194
AF音	音1	194
シャッター音	音1	194
音量	2	194
パワーセーブ	3分	195
手ぶれ補正	標準	196
消去確認画面	“いいえ”が先	197

操作音と音量の設定

カメラを操作すると操作音が出ます。その音や音量を変えることができます。

175～176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧3」から「操作音」「AF音」「シャッター音」「音量」のいずれかの項目と設定を選び、実行ボタンを押します。

操作音、AF音、シャッター音は音1、音2、なしの3通りから、音量は4段階から選ぶことができます。音量は、操作音、AF音、シャッター音のすべてに反映されます。

項目	内容	設定
操作音	ボタンを押す、ダイヤルを回す等カメラの操作時に出る音	音1
		音2
		なし（音は出ません）

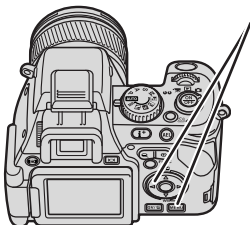
項目	内容	設定
AF音	AF（オートフォーカス）でピントが合ったときに出るピント確認音	音1
		音2
		なし（音は出ません）

項目	内容	設定
シャッター音	シャッターを切ったときに出る音	音1
		音2
		なし（音は出ません）

項目	設定
音量	3（大きい）
	2（中）
	1（小さい）
	0（消音）

パワーセーブまでの時間変更

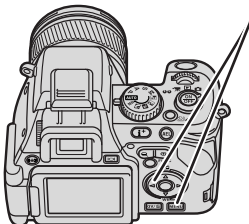
このカメラは、初期設定では約3分以上何も操作をしないでいると自動的に省電力設定になり、液晶モニターやファインダーが消灯します(パワーセーブ → P.28)。このパワーセーブまでの時間を、1分、3分、5分、10分のいずれかに変更することができます。

● 約30分間何も操作をしないでいると、自動的に電源が切れます(オートパワーオフ)。

175〜176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧3」→「パワーセーブ」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

● パワーセーブ状態から復帰するには、シャッターボタンを軽く押すなど何らかの操作を行なってください。

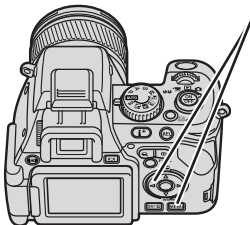
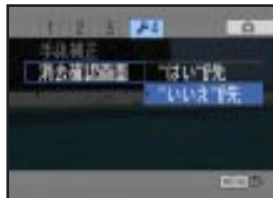
手ぶれ補正機能の作動設定

手ぶれ補正機能が働いている場合、シャッターボタンを半押しすると、手ぶれ補正機能が作動し始めます。シャッターボタン半押し中の画像の動きが不自然に感じられる場合、手ぶれ補正機能の作動を露光中のみに制限して、半押し中の手ぶれ補正機能を解除することができます。

※手ぶれ補正について → P.56

175～176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「手ぶれ補正」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

● シャッター速度が遅い場合には、「露光中のみ」だと手ぶれ補正の効果が現れにくくなります。このような場合は、「標準」に設定すると改善されることがあります。

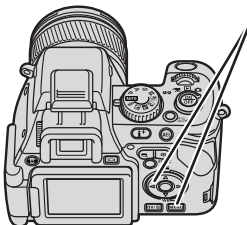
消去確認画面

画像消去の際には、右のような確認画面が現れます。通常はあらかじめ "いいえ" が選択された状態になっていますが、これを右図のように"はい" を先に選択した状態にすることができます。

175～176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「消去確認画面」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。

PictBridge対応プリンタでの印刷

PictBridge*（ピクトブリッジ）対応のプリンタをお使いの場合、カメラとプリンタを付属のUSBケーブルで直接接続して、そのまま画像をプリントすることができます。パソコンを使わず手軽にプリントが楽しめます。

*PictBridge ＝ デジタルカメラで撮影した画像を、パソコンを使わずに印刷するための規格。これに対応しているカメラとプリンタであれば、メーカーを問わず、カメラから直接印刷することが可能。

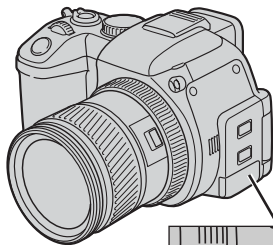
- RAW画像、動画、およびAdobe RGB（ICC）で撮影した画像は、PictBridge対応プリンタではプリントできません。
- プリントの途中で電池がなくなると、印刷は中断されます。フル充電した電池か、別売りのACアダプターAC-11の使用をおすすめします。

USB接続の変更

175〜176ページの要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「USB接続」から「PTP」を選び、実行ボタンを押します。

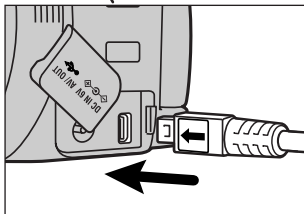
カメラとプリンタの接続

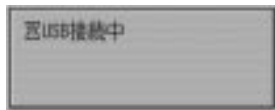
1. プリンタの電源を入れます。

2. プリンタ側で用紙設定などを行う場合は、プリンタの設定を行います。

- 用紙サイズやレイアウト等は、後でカメラ側でも設定できます。
- プリンタ側で日付写し込みを行う場合、カメラ側での写し込み（→ P.121）やDPOF指定での日付プリント（→ P.156）と重ならないようにしてください。

3. カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

4. USBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。

5. シフトボタン下の端子カバーを開け、付属のUSBケーブルのミニプラグをUSB端子に差し込みます。

- ミニプラグ上の ⬅ マークが、カメラの前面側（レンズ側）を向くようにして差し込んでください。
- 以下のように画面が現れます。

プリント方法

以下の3通りのプリント設定方法が可能です。

[1] 画像を見ながら直接プリントを行なう → P.200

画像を確認しながら枚数を決める場合に便利です。

[2] メニュー画面によりプリント設定を行なう → P.202

すべての画像を同一枚数プリントする場合に便利です。インデックスプリントも指定できます。
また用紙設定など各種プリント設定も、このメニュー画面で行ないます。

[3] DPOF(プリント)指定を使用する → P.206

あらかじめカメラでプリントする画像を指定しておく場合に便利です。
プリンタによっては対応していない機種があります。

[1] 画像を見ながら直接プリントを行なう

カメラとプリンタを接続すると、以下の画面が現れます。この画面でそのままプリント設定やプリントを行なうことができます。画像を確認しながら、それぞれの枚数を決める場合に便利です。

1. 十字キーの左右でプリントする画像を選びます。

- その画像を1枚だけプリントする場合は、**2.**、**3.**の操作を飛ばして、直接**4.**の実行ボタンを押す操作に進んでください。

2. 十字キーの上下でプリントする枚数を選びます。

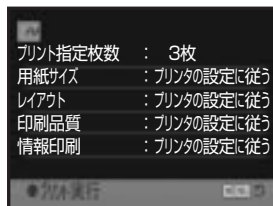
- 上側で最大20枚まで枚数が増えます。下側で枚数が減ります。

3. 必要なだけ 1.、2.の操作を繰り返します。

- 他の画像に移動すると、それまでのプリント合計枚数がTotal 欄に表示されます。

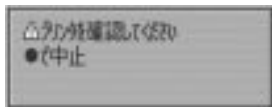
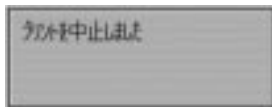
4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 右のプリント設定確認画面が表示されます。

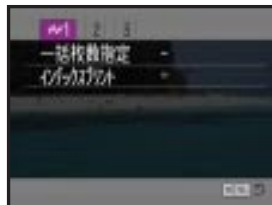
※用紙サイズ等変更する場合は → P.202

5. 確認後、再度十字キー中央の実行ボタンを押します。

- プリントが始まります。

6. 右の画面が現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 拡大/縮小レバーの縮小(−)側を押すと、1コマ表示とインデックス表示を切り替えることができます。→ P.135
- 拡大/縮小レバーの拡大(+)側を押すと、画像の拡大再生ができます。→ P.138

- 左のメッセージが現れた場合は、プリンタの問題(用紙切れなど)によりプリントできません。十字キー中央の実行ボタンを押して、いったんプリントを中止してください。

- プリント中や上記エラーメッセージ表示中に実行ボタンを押すと、プリントは途中で中止されます。USBケーブルを外すか、カメラの電源を切ってください。再度プリントする場合は、設定を確認後、前ページの手順に従ってプリントしてください。

[2] メニュー画面によりプリント設定を行なう

カメラとプリンタを接続後メニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。142ページの再生モードメニューと同じ要領で、メニューボタンと十字キーを使って設定します。

1	
一括枚数指定 （→ P.203）	全コマ 全コマ取り消し
インデックスプリント （→ P.204）	実行する

3	
DPOFプリント （→ P.206）	実行する

◎印は初期設定値です。

● 2はカメラ側・プリンタ側のどちらでも設定することができます。カメラ側にない項目については、プリンタ側で設定してください。

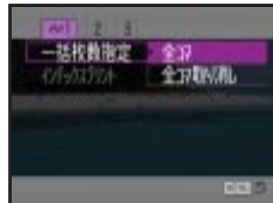
● プリンタによっては選択できない項目もあります。

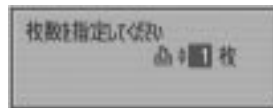
2	
用紙サイズ （→ P.205）	◎プリンタの設定に従う L はがき 2L A4 Card size 100㎜×50㎜ 4”×6” 8”×10” Letter
レイアウト （→ P.206）	◎プリンタの設定に従う フチなし1コマ/1枚 1コマ/1枚 2コマ/1枚 4コマ/1枚
印刷品質 （→ P.206）	◎プリンタの設定に従う FINE
情報印刷 （→ P.206）	◎プリンタの設定に従う なし 日付 ファイル名 日付+ファイル名

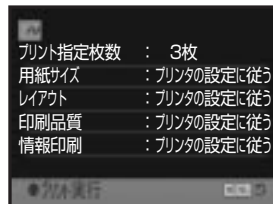
一括枚数指定・全コマプリント

カード内のすべての画像を同一枚数プリントします。

●動画等プリントできない画像は省きます。また、フォルダ単位でなく、すべてのフォルダの画像がプリントされます。

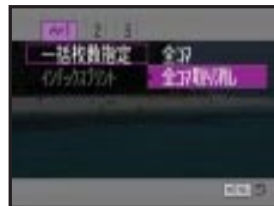
1. 142ページの要領で、メニューボタン →「ⅣⅤ 1」→「一括枚数指定」→「全コマ」を選択し、実行ボタンを押します。

2. 十字キーの上下でプリントする枚数を選び、実行ボタンを押します。

●上側で最大20枚まで枚数が増えます。下側で枚数が減ります。

3. メニューボタンを押して、元の画面に戻ります。

4. 200〜201ページの4.〜6.の要領で、実行ボタンを押してプリントします。

●操作**3.**ですべての画像に一括枚数指定した後、200ページの操作**1.**〜**3.**の要領で、一部の画像のプリント枚数を変更することができます。ほとんどすべての画像を1枚ずつプリントするが一部は印刷しない、などの場合に便利です。

一括枚数指定・全コマ取り消し

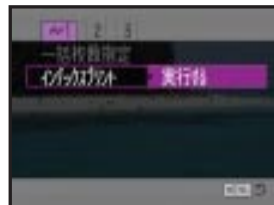
設定したプリント指定をすべて解除します。

1. 142ページの要領で、メニューボタン →「1」→「一括枚数指定」→「全コマ取り消し」を選択し、実行ボタンを押します。

2. 十字キーの左で「はい」を選び、実行ボタンを押します。

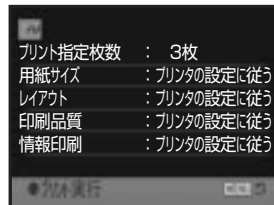
インデックスプリント

カード内のすべての画像をまとめてプリントします。

- 1枚の用紙にプリントされる画像の数や印刷内容は、お使いのプリンタによって異なります。
- インデックスプリント作成後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

1. メニューボタン →「1」→「インデックスプリント」→「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

2. 右のプリント確認画面が現れたら、確認後、実行ボタンを押します。

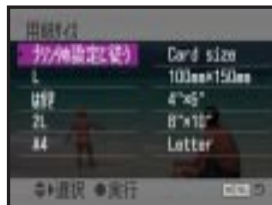
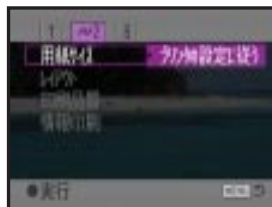
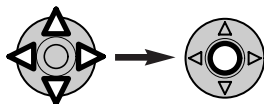
- プリントが始まります。

3.「プリントが終了しました」のメッセージが現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

用紙サイズ

用紙サイズを設定します。

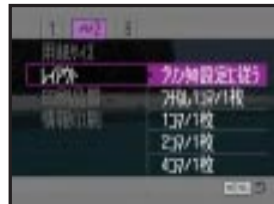
1. メニューボタン →「ꟿ2」→「用紙サイズ」→「(現在設定中の用紙サイズ)」を選択し、実行ボタンを押します。

● 用紙サイズ選択画面が現れます。

2. 上下左右の十字キーで希望の用紙サイズを選び、実行ボタンを押します。

用紙サイズ	大きさ(単位:㎜)
プリンタの設定に従う	—
L	89㎜×127㎜
はがき	100㎜×148㎜
2L	127㎜×178㎜
A4	210㎜×297㎜
Card size	54㎜×85.6㎜
100㎜×150㎜	100㎜×150㎜
4”×6”	101.6㎜×152.4㎜
8”×10”	203.2㎜×254㎜
Letter	216㎜×279.4㎜

レイアウト・印刷品質・情報印刷

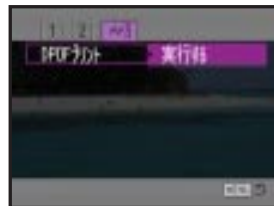
上記の項目をそれぞれ設定することができます。

メニューボタン →「2」から希望の項目と設定を選択し、実行ボタンを押します。

[3] DPOF（プリント）指定を使用する

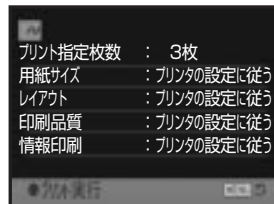
154ページ〜のDPOF指定で設定した枚数をプリントします。カメラをプリンタに接続する前に、あらかじめ枚数を決めてカメラ側で設定しておく場合に便利です。

● プリンタによってはこの機能に対応していない機種もあります。

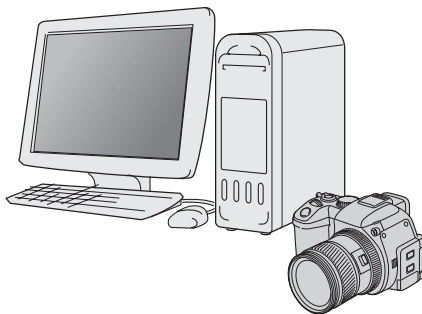
1. あらかじめカメラでDPOF指定(→ P.154〜)を行い、その後カメラとプリンタを接続します。

2. メニューボタン →「3」→「DPOFプリント」→「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

3. 右のプリント確認画面が現れたら、確認後、実行ボタンを押します。

● プリントが始まります。

4.「プリントが終了しました」のメッセージが現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

パソコンへの接続

パソコンをお持ちの場合、撮影した画像をパソコンに取り込み、保存や整理を行なうことができます。

● セットアップモードメニュー［🔧1］の「USB接続」が、初期設定の「マスストレージ」になっていることが前提です。→ P.180

USB接続の動作環境

次のパーソナルコンピュータ(以下、パソコン)をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です(USBマスストレージ対応)。接続には付属のUSBケーブルUSB-3をお使いください。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機	Apple Macintoshシリーズ
OS	Windows® XP (Home/Professional)、 Windows® Me、 Windows® 2000 Professional、 Windows® 98/98 Second Edition がインストール済み	Mac OS 9.0~9.2.2、 Mac OS X v10.1.3~v10.1.5、 v10.2.1~v10.2.8、 v10.3 ~v10.3.5 がインストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートは、パソコンに標準で内蔵されているポートのみをサポートします。USBハブ経由で接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 上記環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

最新の動作環境情報(互換性情報)については、弊社ホームページ(http://ca.konicaminolta.jp/)から「互換性情報」をご覧いただくか、弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

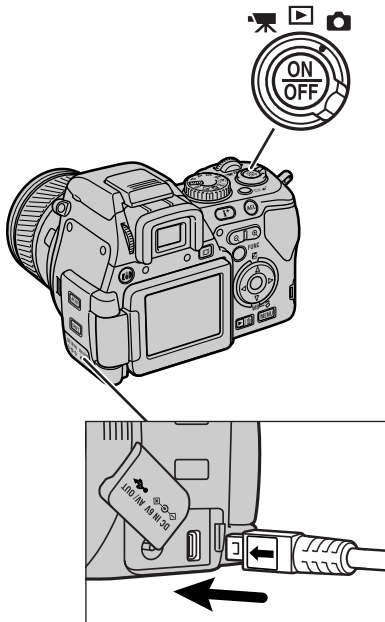
Windows® XP、Me、2000、Macintoshの場合

付属のUSBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→ P.209~

Windows® 98または98SEの場合

付属のディマージュビューアーCD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。
→ P.220~
その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→ P.209~

- USB 2.0対応パソコンに接続した場合は、フルスピードモード(12Mbps)でのデータ転送となります。ハイスピードモード(480Mbps)には対応していません。

パソコンと接続する

1. パソコンの電源を入れます。

2. カメラにCFカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

3. USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。

4. シフトボタン下の端子カバーを開け、付属のUSBケーブルのミニプラグをUSB端子に差し込みます。

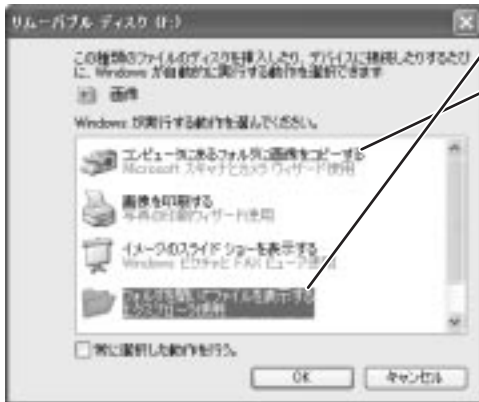
- ミニプラグ上の ⬅ マークが、カメラの前面側（レンズ側）を向くようにして差し込んでください。
- USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際には216ページ～の指示にしたがってください。

- USB接続中は、カメラを約10分間程度操作しないでいると自動的にカメラの電源が切れます（OSによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが現れます）。接続後はすみやかに画像のコピー等の操作を行なってください。コピー等データの交信中は、自動的に電源が切れることはありません。また必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB接続を解除されることをおすすめします。→ P.216～
- Windows® 98/98 Second Edition使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ ドライバをインストールしていない場合は220ページへ、すでにインストールしている場合は223ページへ

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

画像ファイル(動画ファイルも含む)を、パソコンにコピーして保存します。

● カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプター AC-11の使用をおすすめします。
● カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中(アクセスランプ点灯中)には、カメラのメインスイッチを切る、USBケーブルを取り外す、カードや電池を取り出すといった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
● カードのフォーマットは、原則としてカメラ側で行なうことをおすすめします(→ P.146)。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カードが使えなくなることがあります。
● パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

Windows® XPの場合(カメラがパソコンに認識されると、以下の画面が現れます)

1. [フォルダを開いてファイルを表示する] を選び、[OK] をクリックします。

● [コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする] でも操作できます。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。
● パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の [スタート] → [マイ コンピュータ] → [リムーバブルディスク] を開いてください。[リムーバブルディスク] が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。

2. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

- リムーバブルディスクのドライブ名(左図の例ではF:)は、ご使用のパソコンによって異なります。
- [DCIM]以外のフォルダ([MISC]等)は削除しないでください。

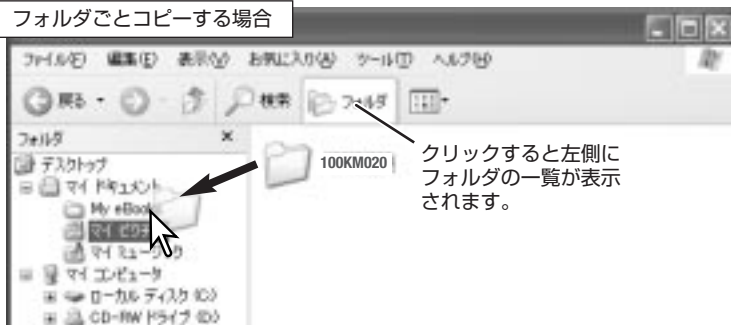
3. [100KM020] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

- フォルダ名の初期設定は [100KM020] です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。※フォルダの詳細は → P.184〜186

フォルダを開けると、[PICT0001]等の画像ファイルが表示されます。

- お使いのパソコンの設定により、[PICT0001] [PICT0001.JPG] など、拡張子(この場合は".JPG")が付く場合と付かない場合があります。

4. 保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

- フォルダごとコピーする場合は、[100KM020]等のフォルダごと、[マイ ドキュメント] [マイ ピクチャ] 等にコピーします。

[100KM020]を[マイ ピクチャ]にコピーする例

※コピーの方法(ドラッグアンドドロップ)について → P.215

(次ページへ続く ☞)

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する（続き）

ファイルごとにコピーする場合

[PICT0001.JPG] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

● 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

● コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

Windows®2000, Me, 98, 98SEの場合

1.デスクトップ上の「マイ コンピュータ」をダブルクリックして開きます。

●カメラ内のカードが、「リムーバブル ディスク」として現れます。(ドライブ名(左下の例ではE)は、ご使用のパソコンによって異なります。)現れない場合は、パソコンを再起動してください。

※それでも「リムーバブル ディスク」が現れない場合は → P.223

2.「リムーバブル ディスク」をダブルクリックして開きます。

●「DCIM」フォルダが現れます。

DCIM

3. [DCIM]フォルダをダブルクリックして開きます。

●その他のフォルダ([MISC]等)は削除しないでください。

4. [100KM020]等のフォルダをダブルクリックして開きます。

●フォルダ名の初期設定は[100KM020]です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。 ※フォルダの詳細は → P.184～

フォルダを開けると、[PICT0001]等の画像ファイルが表示されます。

●お使いのパソコンの設定により、[PICT0001][PICT0001.JPG]など、拡張子(この場合は".JPG")が付く場合と付かない場合があります。

(次ページへ続く ☞)

5. 保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

[100KM020]
[PICT0001.JPG] を
[マイ ドキュメント] に
コピーする例

- 同じ名前のファイルをパソコン上の同じフォルダにコピーすると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめパソコン上のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。
- [マイ ドキュメント] 以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintoshの場合

カード内のフォルダを直接開ける場合

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に、「NO_NAME」「名称未設定」などの名前で現れます。（それ以外の名前になることもあります。）

- 現れない場合は、パソコンを再起動してください。

1. デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

2. P.213～214の3.～5.の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。

● [マイ ドキュメント] の代わりに、任意の保存先フォルダを選んでコピーしてください。

イメージキャプチャを利用する場合 (Mac OS Xのみ)

Mac OS Xでは、OSに付属の「イメージキャプチャアプリケーション」を使って、カード内の画像ファイルを簡単にパソコンにコピー・保存できます。詳しくは、OSのヘルプ画面等をお読みください。

● 同様にOS付属のiPhotoを使うと、画像ファイルの管理が簡単に行なえます。詳しくは、iPhotoのヘルプ画面等をご覧ください。

パソコンでのコピー方法（ドラッグアンドドロップ）

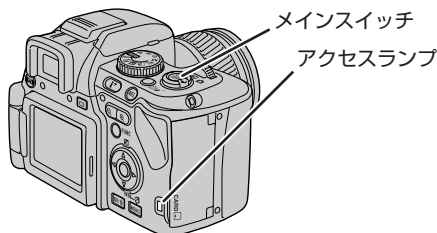
パソコンでコピーを行なうには、マウスによるドラッグアンドドロップが便利です。

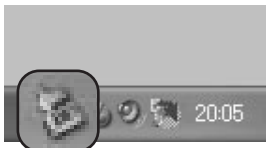
1. マウスをアイコンに合わせ、左ボタンを押します。

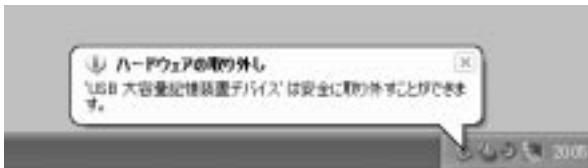
2. マウスのボタンを押したままマウスを移動させます（この操作を「ドラッグ」といいます）。

3. コピー先（の名前）が反転したら、左ボタンを離します（この操作を「ドロップ」といいます）。

接続を解除する

必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領でUSB接続を解除されることをおすすめします。USB接続した状態でカメラ内のCFカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。

Windows® XP、Me、2000の場合

お使いのWindows®によって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー(パソコンの画面右下)に表示されている [ハードウェアの安全な取り外し] または [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] のアイコンを左クリックします。

3. [USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します (または停止します)] または [USBディスクの停止] を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または [OK] をクリックします。
5. USBケーブルを取り外します。
6. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

● 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの操作**2.**でアイコンを左クリックする代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。

*1.*ハードウェアの取り外し画面(右図)が現れたら、USBを選択して [停止] をクリックする。

*2.*ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して [OK] をクリックする。

*3.*安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、[OK] または☒をクリックする。

*4.*USBケーブルを取り外す。

Windows® 98または98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. USBケーブルを取り外します。

3. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

Macintoshの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。

3. USBケーブルを取り外します。

4. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開く

1. 画像を保存したフォルダ（マイ ドキュメントなど）をダブルクリックして開けます。

2. 見たい画像をダブルクリックします。

● 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後 [ファイル] → [開く] を選んでください。

必要なソフトウェア

JPEGファイル

スタンダード、ファイン、エクストラファインの各画質で撮影された画像で、最後に「.JPG」が付きます。一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のDiMAGE Viewerをインストールしてお使いください。→ DiMAGE Viewer使用説明書参照

RAWファイル

RAW画質で撮影された画像で、最後に「.MRW」が付きます。一般的な画像表示ソフトでは開くことができません。付属のディマージュビューアーCD-ROM内のDiMAGE Viewerをインストールしてお使いください。
→ DiMAGE Viewer使用説明書参照

MOVファイル

動画撮影のデータが保存されたファイルで、最後に「.MOV」が付きます。再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトウェアが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→ P.226

- DiMAGE Viewerで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。
- Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

JPEファイル

Adobe RGB（ICC）でICCプロファイルを埋め込んだJPEG画像で、最後に「.JPE」が付きます。DiMAGE Viewerなどカラーマネジメントに対応したソフトを使う必要があります。→ P.90

THMファイル

RAWファイル、JPEファイルのサムネール画像で、最後に「.THM」が付きます。DiMAGE Viewerのサムネール表示用などに使われます。このファイルを開く必要はありません。

USBドライバのインストール（Windows® 98/98SEのみ）

Windows® 98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュビューアーCD-ROMから、パソコンにUSBドライバソフトウェアをあらかじめインストールしておく必要があります。

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. [USBデバイスドライバ インストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。

4. パソコンを再起動します。

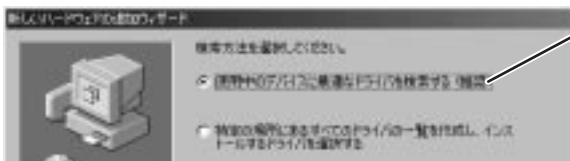
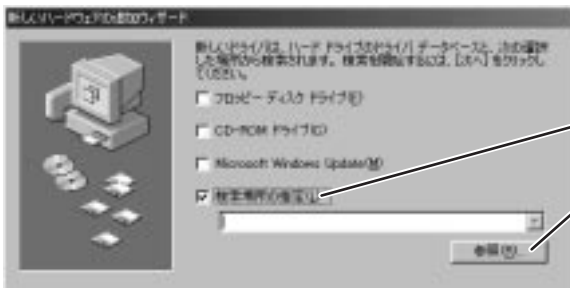
● このカメラ（DiMAGE A200）のWindows® 98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows® 98/98SE用ドライバをインストールすると、DiMAGE A200のUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。両方お持ちの場合は、DiMAGE A200のドライバをインストールするだけで、それ以前のカメラのUSB接続もできるようになります。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→ P.209～

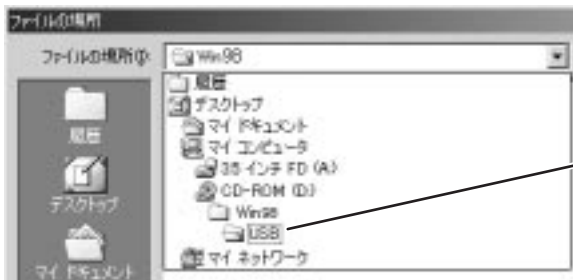
接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、前ページの要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)] を選択し、[次へ>] をクリックします。

3. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

4. [検索場所の指定] を選択し、[参照] をクリックします。

(次ページへ続く ☞)

USBドライバのインストール（Windows®98/98SEのみ）（続き）

5. 検索場所を、[CD-ROM] – [Win98] – [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

9. パソコンを再起動します。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするようメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windows®パソコンをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもリムーバブルディスクが現れなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続し直してください。
以下の弊社ホームページも合わせてご覧ください。
http://ca.konicaminolta.jp/support/faq/ts/ts001/index.html

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→ P.209

- パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

2. [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選びます。

- Windows® XPの場合は、[スタート] から [マイコンピュータ] を選び、右クリックすると [プロパティ] が現れます。
- Windows® Me、2000、98、98SEの場合は、デスクトップ上の [マイコンピュータ] を右クリックすると [プロパティ] が現れます。

Windows® XP

Windows® Me、2000、98、98SE

（次ページへ続く ☞）

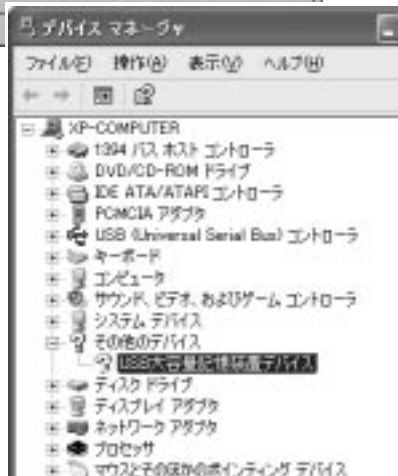
3.「システムのプロパティ」画面から、「デバイスマネージャ」を選びます。

- Windows® XP、2000の場合は、「ハードウェア」タブをクリックし、中段の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- Windows® Me、98、98SEの場合は、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

Windows® XP、2000

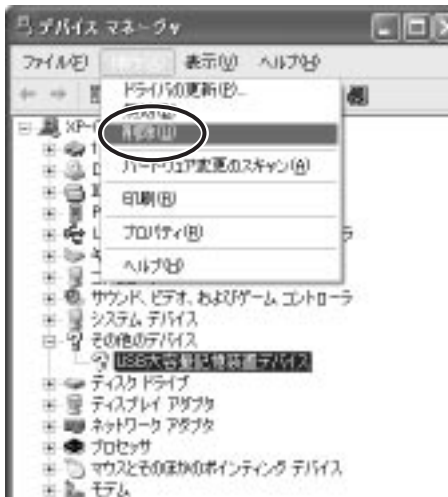
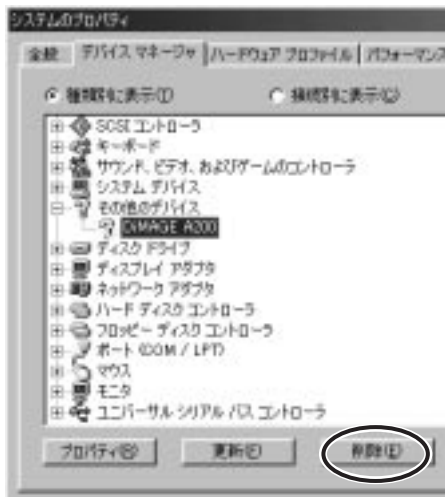
Windows® Me、98、98SE

4.「USBコントローラ」「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」「その他のデバイス」のいずれかに以下の項目のいずれかが表示されますので、それを選びます。
[USB大容量記憶装置デバイス]
[カメラ名称(DiMAGE)を含む項目]
[弊社名(KONICA MINOLTA)を含む項目]

- 項目の左側に「+」が表示されているときは、まず「+」をクリックしてください。
- 上記の項目が見当たらない場合は、「?」または「!」マークで表示されている項目を選んでください。

● 該当する項目が見つからない場合は、209ページの要領でカメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

5.前ページ 操作4.で選んだ項目を削除します。

● Windows® XP、2000の場合は、画面上部の「操作」メニューから「削除」を選びます。
● Windows® Me、98、98SEの場合は、「削除」をクリックします。

Windows® XP、2000

Windows® Me、98、98SE

6.削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。

7.カメラの電源を切り、パソコンを再起動します。

● Windows® XP、2000、Meの場合は、この後209ページの要領で、再度USB接続を行ないます。
● Windows® 98/98SEの場合は、この後ドライバをインストールし（→ P.220）、その後再度USB接続を行ないます（→ P.209）。

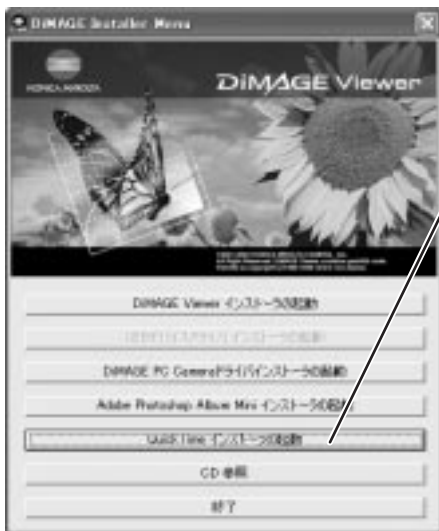
QuickTimeのインストールと使い方（Windows®のみ）

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindows®パソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROMからインストールしてください。

- Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 6 動作環境

- コンピュータ：　IBM-PC/AT互換機
- CPU：　Intel Pentiumプロセッサ
- 必要メモリ：　128MB以上の実装メモリ
- OS：　Windows® XP/Me/2000 Professional/98 Second Edition/98オペレーティングシステム

インストール方法

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

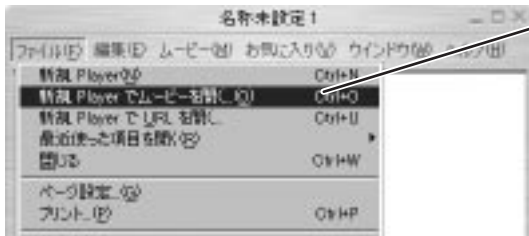
2. [QuickTimeインストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

- インストール途中に【インストール種類の選択】画面が現れますが、そこでは「基本的なインストール」を選択してください。「最小限のインストール」でインストールした場合、DiMAGE Viewerでの動画再生・補正時に一部機能が正常に動作しないことがあります。

操作方法

1. QuickTimeを起動させます。

- QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の [スタート] から [プログラム (P)] → [QuickTime] → [QuickTime Player] を選択します。

2. [ファイル (F)] から [新規 Player でムービーを開く...(O)] を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、[開く(O)] をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。

- 動画の再生時には、
画面両端にわずかに黒い帯が現れます。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

Adobe Photoshop Album 2.0 Mini（Windows®のみ）

付属のディマージュビューアーCD-ROMをWindows®パソコンに入れると、Adobe Photoshop Album 2.0 Mini（アドビ フォトショップ アルバム 2.0 ミニ）をインストールすることができます。[Adobe Photoshop Album 2.0 Mini インストーラの起動] をクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。

Adobe Photoshop Album 2.0 Miniを使うと、デジタルカメラで撮影した写真をパソコンに取り込み、手早く整理し、アルバムを作成したり、簡単な補正を行なうことができます。
また、インターネットに接続して弊社のオンラインラボサービスを利用することで、画像のプリントを注文したり、オンラインアルバムに画像を保管することができます。

- Adobe Photoshop Album 2.0 Mini は、Windows®98/98 Second Edition では動作しませんので、ご注意ください。

弊社のオンラインラボ（http://onlinelab.jp/）へアクセスすると、上記の他にもさまざまなサービスが楽しめます。どうぞご利用ください。Windows®でもMacintoshでもご利用になれます。

ディマージュPCカメラドライバ

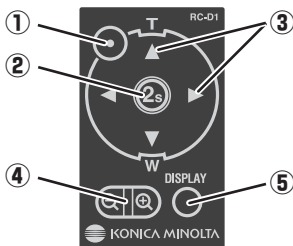
付属のディマージュビューアーCD-ROMをWindows®パソコンに入れると、[DiMAGE PC camera ドライバインストーラの起動] が選択できますが、これは他のディマージュカメラの機能です。DiMAGE A200ではこの機能は使用できません。

その他

焦点距離換算表

このカメラの実焦点距離を、35mmフィルム換算の焦点距離に当てはめると以下の通りになります。

実焦点距離	7.2	9	13	21	27	34	38	50.8
35㎜フィルム換算焦点距離	28	35	51	83	106	134	149	200

リモコン動作一覧表

撮影モード（📷）のとき

● ドライブモードで［リモコン撮影］に設定してください。→ P.68

①	撮影ボタン※	押すとすぐにシャッターが切れます。
②	2秒後撮影ボタン※	押してから約2秒後にシャッターが切れます。
③	十字キー（上/下）	—（無効）
	十字キー（左/右）	—（無効）
④	拡大（＋）ボタン※※	デジタルズームします（ズーム倍率アップ）
	縮小（－）ボタン※※	デジタルズームします（ズーム倍率ダウン）
⑤	表示切り替えボタン	押すごとに、液晶モニター/ファインダーの画面を切り替えます。［撮影データあり］→［撮影データあり＋ヒストグラム］→［フォーカスフレームのみ］→［表示なし］→［撮影データあり］→……（以降同順）

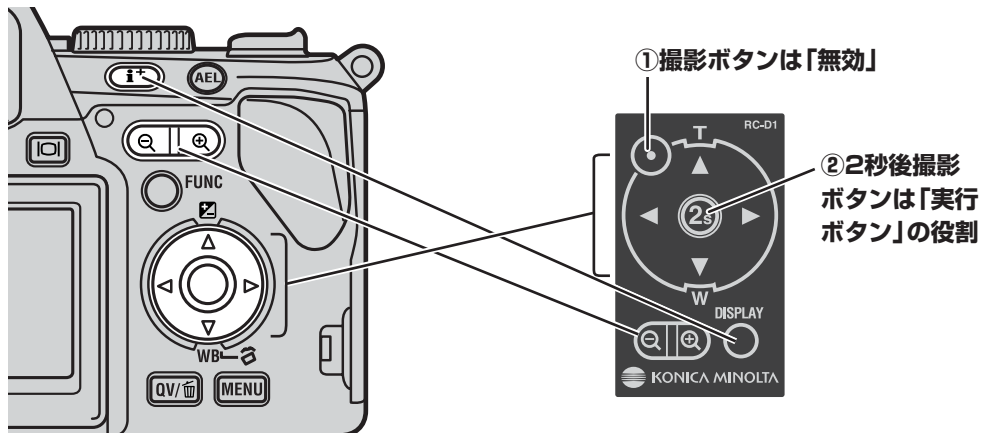
※ バルブ（長時間露光）撮影の場合は、一度押すとシャッターが開いたままなり、再度押すとシャッターが閉じます。

※※ 撮影モードメニュー →［📷3］タブ →［デジタルズーム］で［なし］に設定している場合は、このボタンは無効になります。

動画撮影モード（🎥）のとき

①	撮影ボタン	押すと動画撮影を開始し、もう一度押すと動画撮影を終了します。
②	2秒後撮影ボタン	押すと約2秒後に動画撮影を開始し、もう一度押すと動画撮影を終了します（撮影開始は2秒後、終了は直ちに）。
③	十字キー（上/下）	—（無効）
	十字キー（左/右）	—（無効）
④	拡大（＋）ボタン※※※	デジタルズームします（ズーム倍率アップ）
	縮小（－）ボタン※※※	デジタルズームします（ズーム倍率ダウン）
⑤	表示切り替えボタン	押すごとに、液晶モニター/ファインダーの画面を切り替えます。［撮影データあり］→［撮影データあり＋ヒストグラム］→［表示なし］→［撮影データあり］→……（以降同順）

※※※ 撮影モードメニュー →［📷3］タブ →［デジタルズーム］での設定にかかわらず、このボタンは有効になります。

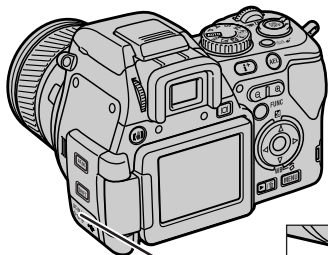
再生モード(▶)のとき(静止画/動画)

再生モード時は、ワイヤレスリモコンのそれぞれのボタン(撮影ボタンを除く)は、カメラボディ背面の各ボタン/キーと同じ働きをします。リモコンのそれぞれのボタンとボディ背面の各ボタン/キーとの対応は上図の通りです。2秒後撮影ボタンは、(十字キー中央の)実行ボタンと同じ働きをします。
本文中のボディ背面の各ボタン/キーを、リモコンのそれぞれのボタンに置き換えてご覧ください。

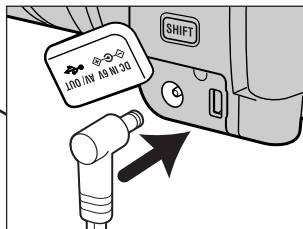
別売アクセサリー

ここでは代表的なアクセサリーについて紹介しています。本使用説明書の作成後に発売されたアクセサリーと組み合わせた場合の互換性や使用方法等については、裏表紙記載のお客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

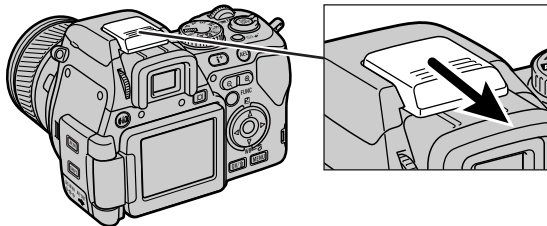
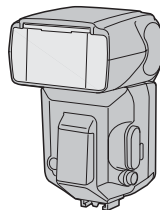
ACアダプター AC-11／外部電源パック EBP-100

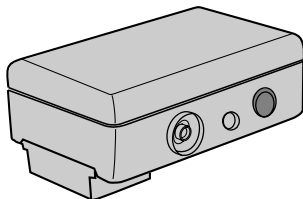
屋内など家庭用電源（AC電源）が使える場合は、ACアダプターの使用が便利です。
またAC電源が使えない場所で長時間の撮影を行なう場合は、外部電源パックがご利用になれます。リチウムイオン電池NP-100を2個使用します。

- ACアダプター AC-11のパッケージには、AC-11本体と、国内向け（AC100〜120V仕様）ACコード、欧州向け（AC220〜240V仕様）ACコードが含まれています。

接続するときは、メインスイッチでカメラの電源を切ってから、端子カバーを外して、DC電源入力端子にプラグを差し込みます。

- 外すときも、電源を切ってから外してください。

プログラムフラッシュ 5600HS(D) /3600HS(D) /2500(D)

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。カメラのオートロックアクセサリーシューに直接取り付けてお使いになれます。

プログラムフラッシュ
5600HS(D)

別売りのフラッシュを使う際には、アクセサリーシューのキャップを外してお使いください。

- これらのフラッシュを取り付けた場合、フラッシュのオートズーム位置(照射角)はカメラの35㎜フィルム換算相当の焦点距離よりもやや広角側に設定されます。フラッシュ背面の24㎜の表示またはランプが点滅したら、ワイドパネルの使用をおすすめします。マニュアルズームの場合は、やや広角側の照射角を設定してください。これらを考慮せずに撮影すると、画面周辺が暗くなることがあります。
- 2500(D) を取り付けた場合、フラッシュの調光モード切り替えスイッチに関係なくP-TTL調光になります。

PCフラッシュアダプター PCT-100

PCフラッシュアダプター PCT-100をカメラのオートロックアクセサリーシューに取り付けることで、シンクロコード付きの外部フラッシュ(シンクロ電圧400V以下)を使用できます。

- PCフラッシュアダプター PCT-100は弊社デジタルカメラ DiMAGE 7/5用のアクセサリーですが、このカメラと組み合わせてもお使いいただけます。
- PCフラッシュアダプター PCT-100はカスタムサービス対応製品です。詳しくは裏表紙記載のお客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

マクロツインフラッシュ2400/マクロリングフラッシュ1200

マクロ撮影用のフラッシュです。ツインフラッシュは草花や昆虫の撮影に、リングフラッシュは資料等の撮影に適しています。マクロフラッシュコントローラーが必要です。

● これらのフラッシュ使用時は、テレマクロ（→ P.50、51）の使用をおすすめします。ワイドマクロだと画面周辺が暗くなることがあります。

充電器 BC-900用 ACコード

充電器 BC-900に付属のACコードはAC100V〜120V仕様です。日本、アメリカ、カナダ、台湾ではそのままお使いいただけます。その他の国または地域で使われる場合は、その国や地域に応じたACコードを、弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にてお求めください。詳しくはコニカミノルタカメラ統合ポータルサイト（http://ca.konicaminolta.jp/）の「よくあるご質問」でもご覧いただけます。

地域	ACコード
日本向け（100〜120V仕様） ※アメリカ、カナダ、台湾でもそのままお使いいただけます。	ACコード APC-170
ヨーロッパ（イギリスを除く）、韓国、シンガポール向け（220〜240V仕様）	ACコード APC-150
イギリス、香港向け（220〜240V仕様）	ACコード APC-160
中国向け（220〜240V仕様）	ACコード APC-151
オーストラリア、ニュージーランド向け（220〜240V仕様）	ACコード APC-230

クローズアップレンズ CL49-200

マルチコーティング処理による高画質なマクロ撮影が、レンズの先端に装着するだけで手軽に楽しめます。レンズ先端に装着し、カメラをテレマクロ(→ P.50、51)にして撮影します。最大撮影倍率は1.12倍(35㎜換算)で、このとき31㎜×23㎜の被写体を画面いっぱいに撮ることができます。

フィルター関連アクセサリー

フィルター等を使用する場合は、49㎜径、または49㎜→62㎜のフィルターアダプターと62㎜径を組み合わせてお使いください。49㎜→55㎜のフィルターアダプターは、リングやフィルターの一部が画面に写り込むのでご使用になれません。

● PL(円偏光)フィルター
49㎜径は、焦点距離50㎜(35㎜フィルム換算)未満でフィルターやレンズの一部が画面に写り込むことがあります。62㎜径をフィルターアダプターと組み合わせて使用されることをおすすめします。

その他

下記のようなケースやバッグ、ストラップ、予備の充電式リチウムイオン電池などもご用意しております。詳しい情報については、裏表紙記載の弊社ホームページをご覧ください。

● カメラケース	CS-DG701
● デジタルユーティリティバッグ	DUB-100
● 本革ネックストラップ	NS-DG1000
● ディマージュネックストラップ(グレー)	NS-DG3000
● 充電式リチウムイオン電池	NP-800
● SDメモリーカード用コンパクトフラッシュアダプター	SD-CF1
● ワイドコンバーター	ACW-100
● テレコンバーター	ACT-100
● ワイヤレスリモコン	RC-D1

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ページ
液晶モニター/ファインダーが真っ暗になる	RAW画質で撮影した、または、連続で5コマ以上撮影した	RAW画質で撮影したり、連続撮影などで続けて5コマ以上撮影すると、撮影後、液晶モニタ/ファインダーが一瞬真っ暗になります。	73 74 112
	バルブ撮影をした、または、シャッター速度0.5秒以上の長時間露光をした	ノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われるためです。この機能を解除することもできます。	105 130
	パワーセーブが作動した	液晶モニターやファインダーは、（初期設定で）約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に消灯します。	28
	カメラをテレビ または パソコンに接続している	接続中は液晶モニターやファインダーの表示は消灯します。	141 209
液晶モニター/ファインダーが白黒になる	カラーモードをモノクロに設定した	他のカラーモード（ナチュラル（sRGB）、ビビッド（sRGB）等）に設定を変更してください。	88
シャッターが切れない	カメラが再生モード▶になっている	モード切り替えレバーを📷または🎥にしてください。	44 166
	電池容量が少なくなっている（🔋（赤色）が表示されている）	🔋（赤色）が表示されたときは、UHS連続撮影、動画撮影はできません。	27
0000が表示されシャッターが切れない	CFカードがいっぱいである	画像を消去するか、カードを交換してください。画像サイズや画質を変えると撮影できることもあります。	34

症状	原因	対策	ページ
オートフォーカスでピントが合わない	オートフォーカスの苦手な被写体(→ P.40)を撮ろうとしている	フォーカスロック撮影、または、マニュアルフォーカス撮影を行なってください。	39 40 102
	被写体に近づきすぎている	カメラより約50㎝以上離れたものにしかピントが合いません。それ以上近くを撮影する時には、マクロ撮影を行なってください。	38 50
撮影残り画像数が黄色になってシャッターが切れない	カメラの内蔵メモリがいっぱいである	CFカードへの書き込みが終わる(=白色に戻る)までしばらくお待ちください。	73 74
測光モード表示 ◉ が赤くなる	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、カメラの測光範囲を超えている	明る過ぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体を暗くします。暗過ぎるときは、フラッシュを発光させるか、被写体を明るくします。	—
Pモードでシャッター速度と絞り値が赤くなる	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、シャッター速度や絞り値の範囲を超えている		
Aモードでシャッター速度が赤くなる	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、シャッター速度の範囲を超えている	シャッター速度が点滅しない範囲で絞り値を設定してください。	60
Sモードで絞り値が赤くなる	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、絞り値の範囲を超えている	絞り値が点滅しない範囲でシャッター速度を設定してください。	61
Mモードでシャッター速度と絞り値が赤くなる	設定したシャッター速度と絞り値では写真が大幅に露出オーバーまたはアンダーになる	シャッター速度か絞り値を変更してください。	63

症状	原因	対策	ページ
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）より撮影距離が遠い場合、フラッシュ光が被写体に届かず暗い画像となる事があります。また、撮像感度を変更するとフラッシュの調光距離も変化します。	41 87
	高速シャッターでフラッシュ撮影を行なったため、フラッシュの発光が追いつかなかった	内蔵フラッシュで1/1000秒、プログラムフラッシュで1/250秒、またはそれより低速側を目安にシャッター速度を設定してください。	—
フラッシュ撮影したものの下部が暗い	レンズフードを付けたまま撮影した	内蔵フラッシュで撮影する時は、レンズフードを外してください。	106
写真がぶれている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ぶれを起こした	シャッター速度が遅くなるので、手ぶれ補正機能または三脚の使用をおすすめします。フラッシュを使う方法もあります。	40 56
手ぶれ補正機能を使ったのに写真がぶれている	マクロ撮影など、近距離の被写体を撮影した	近距離の被写体に対しては、補正できないぶれがあります。三脚の使用をおすすめします。	51
画像に余分な光が入っている	逆光で広角側で撮影したため、レンズに余分な光が入った	レンズフードを取り付けてください。	106
スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりする	カメラを太陽に向けるなど、強い逆光下で撮影した	これらの現象は、液晶モニターやファインダーで確認できます。絞りを絞る、Pモードで撮影する、NDフィルターを使うといった方法により緩和することができます。	—

症状	原因	対策	ページ
画像が記録されていない	異なるフォルダを選択している	画像のコピー、メール画像の作成、日付形式フォルダの設定、新規フォルダの作成を行なうと複数のフォルダができます。画像が記録されたフォルダを選んでください。	159 162 188 190
	画像の記録中にCFカードを取り出した	アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。	―
撮影残り画像数が減らなかったり、一気に2コマ減ったりする	JPEG画像が圧縮される場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変動するためです。故障ではありません。		34
カスタムホワイトバランスの設定時にエラーが表示される	フラッシュを発光させて近距離でカスタムホワイトバランス設定を行なった、または鮮やかな色の被写体で設定しようとした	フラッシュを発光させる場合は、少し距離を開けてください。また、設定は白い被写体に向けて行なってください。	84
液晶モニター/ファインダー内の手ぶれ補正機能表示が赤色で点滅する	高温下で長時間撮影したため、カメラ内部の温度上昇により手ぶれ補正機能が解除された	カメラの温度が下がるのを待ってから撮影を再開してください。	56
画面の隅が暗くなる	フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取り外してお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画面にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画面周辺部が暗く写る場合(光量低下)があります。		―

故障かな？と思ったら（続き）

<table>
<tr><th>症状</th><th>原因</th><th>対策</th><th>ページ</th></tr>
<tr><td>撮影した画像の色がおかしい（パソコンでの再生時）</td><td>モニターの設定が最適でない
このカメラで撮影した画像は、sRGBの環境で見たときに最適に再現されるよう設計されています（Adobe RGBを除く）。sRGBで規定されている色温度は約6500K、ガンマ値は2.2です。</td><td>色温度の設定
6500Kに設定してください。設定方法はモニターの使用説明書をご覧ください。
ガンマ値の設定
Macintoshの場合は「モニタ調整アシスタント」で2.2にしてください。設定方法はMac OSのヘルプ等をご覧ください。Windowsでは標準が2.2なので、変更の必要はありません。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>いつも同じ箇所に明るい点が写る（パソコンで確認）</td><td colspan="2">CCDノイズの大きな箇所があるように思われます。一度カメラをお預かりし、確認および調整をさせていただきます。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>特定のコマだけ再生できない</td><td colspan="2" rowspan="2">何らかの要因で、画像ファイルが損傷を受けているものと思われます。画像ファイルの読み出し/書き込み中などにカードを抜く、ケーブル接続解除、電源を切るなどの操作により、損傷を受ける場合がありますのでご注意ください。損傷を受けたデータにつきましては、弊社では一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。</td><td rowspan="2">—</td></tr>
<tr><td>パソコン上で画像ファイルを開こうとするとファイルを開けないというメッセージが表示される</td></tr>
<tr><td>Adobe RGB（ICC）設定で撮影した画像がアプリケーションソフトで認識されない/プリントされない</td><td colspan="2">プロファイルを埋め込んだ画像ファイルの拡張子は「.JPE」となります。このファイル形式にアプリケーションが対応していない、あるいは、このファイル形式をプリンタが認識しないものと思われます。付属のDiMAGE Viewerのご使用をおすすめします。</td><td>90
219</td></tr>
</table>

症状	原因	対策	ページ
「カードエラー」のメッセージが出て撮影できない	「カードエラー　確認」と言うメッセージが出ている状態で、十字キー中央の実行ボタンを押してください。エラーメッセージが消えた後に、いったんメインスイッチをOFFにしてCFカードを取り出してください。 メインスイッチをONにして、「カードが入っていません」と表示されればエラーは解除されています。 再度CFカードを入れてください。再び「カードエラー　確認」表示が出る場合は、そのCFカードはご使用いただけません。他のCFカードをご使用ください。動作確認済みのCFカードについては、弊社ホームページ(http://ca.konicaminolta.jp/)の互換性情報をご覧になるか、弊社お客様フォトサポートセンターまでお問い合わせください。		—
「このカードは使えません　フォーマットしますか？」のメッセージが出る	パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムを変更した または 他のCFカード機器でフォーマットを行った	十字キー左右でメッセージ下の[はい]を選んで、十字キー中央の実行ボタンを押してください。 (通常のフォーマット(P.146)はクイックフォーマットですが、このメッセージ表示後にフォーマットすると物理フォーマットが行われます。カード内の全データ消去だけでなく、カードのパーティションの再構築から完全にやり直されます。) CFカード自体の不具合も考えられますので、他のCFカードをお持ちの場合は、CFカードを替えてお試しください。	—
カメラが正常に作動しない	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。		—

取り扱い上の注意

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

電池について

- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
- いったん容量切れになった電池はかならず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

コンパクトフラッシュカード等記録メディアについて

- 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
  1. お客様または第三者がメディアの使い方を誤ったとき
  2. メディアが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  3. メディアへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
  4.. メディアの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
- メディアをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
- メディアには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。

コンパクトフラッシュカード等記録メディアについて（続き）

- 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
- 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
- 強い静電気や強い衝撃によって記録メディアが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

マイクロドライブについて

- マイクロドライブはその特性上、コンパクトフラッシュカードと比べて衝撃や振動にそれほど強くありません。マイクロドライブをお使いの場合、特に記録中や再生中は、カメラに衝撃や振動を与えないようご注意ください。

液晶画面について

- 液晶モニターとファインダー（EVF）は精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の白や黒、赤などの点が現れることがあります。これは故障や異常ではありませんのでご了承ください。なお、記録される画像には影響はありません。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やコンパクトフラッシュカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。また、電子ビューファインダーの接眼部に直射日光を差し込ませないでください。CCD(撮像素子)の性能を損なうことがあります。
- お客様がデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

砂時計マーク⌛について

カメラの電源を切った後に、「砂時計マーク(⌛)」が液晶モニター/ファインダーに15秒ほど表示されることがあります。
これは、CCD(撮像素子)の調整を行なうためで、故障ではありません。
砂時計マーク(⌛)が消えるまでは、カメラの電池を取り出さないでください。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々カメラを作動させるようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の修理の際には、再生部品を使用したり、再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。また本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 本製品および充電器の修理に関しては、弊社の修理受付サービス「らくらくリペアサービス」をぜひご利用ください(→ 次ページ)。その他詳しくは、別紙「アフターサービスのご案内」をご覧ください。

らくらくリペアサービスについて

弊社では修理受付サービス「らくらくリペアサービス」を行なっております。お客様自らご送付の手続きに出向かれることなく、「(梱包後)お引き取り」→「修理」→「お届け」をワンパックにし、お客様のご自宅と弊社修理センターとを直結するサービスです。
面倒な手続きを弊社お任せでご利用いただける「らくらくリペアサービス」をぜひご利用ください。

サービス利用料金

全国一律 900円(税込)でご利用いただけます。

- 保証適用外の場合は、別途修理料金と代引き手数料がかかります。
- サービス利用料金はお申し込みの際に今一度お確かめください。

ご利用方法

1. インターネット・電話いずれかの方法で、下記「らくらくリペアサービス係」へお申し込みください。

2. お申し込み後1～2日後に弊社指定の宅配業者がお伺いいたします。その際梱包材を持参いたしますので、その場で修理依頼品を梱包の上、宅配業者にお渡しいただくか、もしくはお引き取り日を宅配業者にご指定ください。

- 別紙「アフターサービスのご案内」にある「らくらくリペアサービス修理依頼書」に必要事項をご記入の上、修理依頼品といっしょに梱包してください(インターネットで申し込まれた方は不要です)。
- 保証期間内の場合は、必ず保証書を添付してください。

3. デジタルカメラの場合、修理品はお預かり後 5日程度でお届けいたします。

- お届けの際に、代金を宅配業者にお支払いください。
- 各種クレジットカードでのお支払いはできません。

【らくらくリペアサービス係】

ナビダイヤル 0570-001112 ナビダイヤルは市内通話料金で通話していただけます。
受付時間 9：00～17：00(土曜、日曜、祝日を除く)

ホームページ http://ca.konicaminolta.jp/

- ナビダイヤルは、携帯電話、PHS、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話等からはご利用できません。
- お客様の電話機にACR機能が設定されている場合、ナビダイヤルをご利用になれないことがあります。

主な性能

形式	フラッシュ内蔵AE/AFレンズ一体型一眼レフタイプデジタルカメラ
有効画素数	約800万画素(3272×2456)
撮像素子	2/3型総画素約830万画素インターレーススキャンCCD、原色フィルター付き
撮像感度	AUTO、ISO 50、100、200、400、800相当
画面アスペクト比	4:3、3:2(3264×2176 3:2 時のみ)
レンズ構成	13群16枚
フィルター径	49㎜
焦点距離	7.2〜50.8㎜(35㎜フィルム換算:28〜200㎜相当)
開放絞り値	F2.8〜F3.5
絞り設定範囲	広角:F2.8〜F11、望遠:F3.5〜F11、1/3Evステップ
撮影距離	0.5㍍〜∞(CCD面から) マクロ時:ワイド端:30〜60㌢(CCD面から)、テレ端:25〜60㌢(CCD面から) 最大撮影倍率:0.18(35㎜フィルム換算:0.7倍相当) 最大撮影倍率時の被写体サイズ:約52㎜×39㎜ ワイドマクロ時の被写体サイズ:約283㎜×213㎜
ズーム方式	手動ズーム
デジタルズーム	画素補間モード(最大4倍)とトリミングモード(2倍のみ)の選択可能
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスエリア	ワイド/11点選択/フレックスフォーカスポイント切り替え可能　AFポイント任意位置移動可能(フレックスフォーカスポイント時)、測光エリア連動/非連動選択可能
フォーカスモード	AF:ワンショットAF、コンティニュアスAF、フルタイムAF MF:可能、フレックスデジタルマグニファイヤー機能付き、マニュアルフォーカスリング操作時、自動ターゲット位置拡大表示可能
ホワイトバランス	オート、プリセット(昼光、日陰、曇天、白熱灯、白色蛍光灯、昼白色蛍光灯、フラッシュ光)、カスタム(1、2)
測光方式	多分割測光(256分割)、中央重点的平均測光、スポット測光
露出制御範囲	P/Aモード:広角:Ev −1〜18、望遠:Ev 0.5〜18 S/Mモード:広角:Ev −2〜18、望遠:Ev −1.5〜18
シャッター	CCD電子シャッターとメカニカルシャッターを併用　シャッター速度:BULB(最長30秒)、30秒〜1/3200秒(P/Aモード時。AモードではF8以上の小絞り時に1/3200秒まで可能。S/Mモード時は1/1600秒まで可能)　最長速度は撮像感度によって異なる
露出モード	P(プログラムシフト可能)、A、S、M
シーンセレクター	ポートレート、スポーツ、夕景、夜景ポートレート・夜景
デジタルエフェクトコントロール	彩度、コントラスト補正、フィルターが選択可能
露出補正	±2Ev(1/3Evステップ)

主な性能（続き）

フラッシュ制御方式	自動調光、マニュアル発光　フラッシュ同調速度：全速
フラッシュモード	通常発光、赤目軽減発光、スローシンクロ、後幕シンクロ
内蔵フラッシュガイドナンバー	8（ISO 100・m）
内蔵フラッシュ連動距離	広角：約0.5〜3.8㍍、望遠：約0.5〜3.0㍍（CCD面から、撮影感度オート時）
内蔵フラッシュ充電時間	約5秒
調光補正	±2Ev（1/3Evステップ）
ファインダー形式	TTL電子ビューファインダー（EVF）、電子マグニファイヤー機能
ファインダー画像表示液晶	0.44型カラーフィルター方式QVGAフルカラーディスプレイ 総画素：23.5万画素、モニター感度自動アップ
ファインダー視野率	約100%
アイポイント	22㎜（−1ディオプターにおいて、保護ガラスより）
ファインダー対角視野率	約28°
視度調整	あり　−5〜+2 ディオプター
表示切り替え機能	EVF←→液晶モニター 切り替え可能
A/D変換bit数	12 bit
内蔵メモリ	64MB
記録媒体	CFカード（TYPE Ⅰ/TYPE Ⅱ）、マイクロドライブ、SD/MMCカード（SD-CF1使用時）
記録画素数（静止画）	3264×2448、3264×2176（3：2モード時）、2560×1920、2080×1560、1600×1200、640×480
画質（静止画）	スタンダード、ファイン、エキストラファイン、RAW、RAW+JPEG
記録ファイル形式	JPEG、RAW、Motion JPEG（MOV、モノラル音声付き） DCF 2.0準拠　DPOF（Ver.1.1）のプリント機能に対応
Exif Print	対応（Exif 2.21）
PRINT Image Matching Ⅲ	対応
PictBridge	対応
カメラカラースペース	sRGB、Adobe RGB
カラーモード	ビビッド（sRGB）、ナチュラル（sRGB）、ポートレート（sRGB）、Adobe RGB（ICCプロファイルあり）、モノクロ
シャープネス	ソフト、標準、ハード
Exif Tag情報	撮影年月日時刻、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離等）、色空間情報
消去機能	あり（1コマ／全コマ／指定コマ）　全コマ/指定コマの対象をすべてのフォルダ/任意の1フォルダ切り替え可能　クイックビュー（撮影モード）時の消去可能 誤消去防止機能：あり（1コマ／全コマ／指定コマ）　全コマ/指定コマの対象をすべてのフォルダ/任意の1フォルダ切り替え可能

フォーマット機能	あり
日付写し込み機能	なし、年月日、月日時刻
液晶モニター	1.8型高精細TFTカラー　バリアングル液晶モニター　モニター画素数：13.4万画素　視野率：約100%　モニター自動感度アップ
連続撮影	連続撮影：約2コマ/秒 Hi連続撮影：約2.3コマ/秒 UHS連続撮影：約10コマ/秒
ブラケット撮影	露出ブラケット：露出ずらし量：0.5Ev/0.3Ev選択可　枚数：3枚 ホワイトバランスブラケット：ホワイトバランスずらし量：強/弱選択可　枚数：3枚
動画	通常動画、ナイトムービー（共に最大15分） 記録画素数（1フレームあたり）：800×600、640×480、320×240 フレームレート：15フレーム/秒、30フレーム/秒（800×600時は15フレーム/秒固定） 音声：あり（モノラル）
操作音	各操作時、レリーズ時シャッター音、AF音 操作音・レリーズ音・AF音それぞれ2種類から選択可能
手ぶれ補正	ジャイロ（角速度センサー）による検出、CCDシフト方式、ON/OFF切り替え可能
使用電池	充電式専用リチウムイオン電池×1本
外部電源	DC 6V（ACアダプター使用時）
連続再生時間	連続再生：約330分　当社試験条件による（液晶モニターのみ、同梱の充電式リチウムイオン電池使用）
撮影可能コマ数	約260コマ　CIPA準拠（液晶モニターのみ、同梱の充電式リチウムイオン電池使用、CFカード使用、画像サイズ3264×2448、画質ファイン、アフタービューなし、フラッシュ使用50%）
AV出力	ビデオ信号：NTSC/PAL切り替え可　音声信号：モノラル
PC用インターフェース	USB（USB 2.0対応機器と接続時、フルスピードモード（12Mbps）でデータ転送可能）
対応OS	Windows® XP（Professional/Home Edition）、Windows® Me、Windows® 2000 Professional、Windows® 98/98 Second Edition Mac OS 9.0～9.2.2、Mac OS X v10.1.3～v10.1.5、v10.2.1～v10.2.8、v10.3～v10.3.5
大きさ	114（幅）× 80（高さ）× 115（奥行き）㎜
質量（重さ）	約505グラム（電池、CFカード別）

主な性能（続き）

充電式リチウムイオン電池 NP-800

電圧	7.4V
容量	800mAh
大きさ	32.3 × 51.8 × 15.7㎜
質量（重さ）	約43グラム

充電器 BC-900

入力電圧	AC100V～240V*
入力周波数	50／60Hz
入力容量	8W
充電出力	DC8.4V
充電時間	約90分
大きさ	68 × 73 × 28㎜
質量（重さ）	約72グラム（電池別）

*充電器に付属のACコードはAC100V仕様です。※海外で使用する場合は → P.234

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

あ

か

さ

ま

や

ら

わ

数字・アルファベット

コニカミノルタ フォトイメージング株式会社

ホームページ

製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問(FAQ)とその回答などのサポート情報については、弊社カメラ統合ポータルサイトをご覧ください。
http://ca.konicaminolta.jp/

弊社DiMAGEシリーズデジタルカメラの商品情報については、以下のホームページをご覧ください。
http://konicaminolta.jp/dimage/

お客様フォトサポートセンター

弊社製品のデジタルカメラ、フィルムスキャナ、カメラ、交換レンズ、露出計などの機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 06-6532-6205

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 06-6532-6252

受付時間 10:00～18:00(日・祝日定休)

9223-2724-61 P-B411